

---

# 令和7年度筑西市男女共同参画に 関する市民意識調査 結果報告書

---

- |     |          |
|-----|----------|
| I   | 調査の概要    |
| II  | 調査結果のまとめ |
| III | 調査結果     |
| IV  | 資料       |

令和8年3月

筑西市

■ I 調査の概要	1
■ II 調査結果のまとめ	7
調査結果のまとめ .....	8
■ III 調査結果	13
集計調査結果 .....	14
■ IV 資料	91
令和7年度筑西市男女共同参画に関する市民意識調査調査票 .....	92

# I 調査の概要

# I 調査の概要

## (1) 調査の目的

次期計画の策定にあたり、本市における男女共同参画全般に対する市民等の意向を把握するためのアンケート調査を実施しました。

## (2) 調査方法

- 調査対象者 住民基本台帳より無作為抽出された市内在住の18歳以上80歳以下の市民2,000人（男性：1,000人、女性：1,000人）（うち、10通が市外転出や返送）（令和7年11月1日現在）
- 調査方法 調査票を郵送配布のうえ、郵送回答またはWEB回答（回答者が選択）
- 調査期間 令和7年12月9日(火)～令和7年12月25日(木)  
(期間後、到着したものについては令和8年1月15日(木)分まで集計に反映)

## (3) 配布・回収状況

- 回収数 726 票（有効回収数 725 票）
- 回収率 36.5%（有効回収率 36.4%）

区分	配布数	有効配布数	有効回収数（有効回収率）
総数 (内訳)	2,000 票	1,990 票	725 票 (36.4%)
			紙：497 (68.6%) WEB：228 (31.4%)
男性	-	-	321 票 (44.3%)
女性	-	-	398 票 (54.9%)
答えない	-	-	4 票 (0.6%)
無回答	-	-	2 票 (0.3%)

- ・回収率は回答受付期間後の票も含まれます。

## (4) アンケート調査の分析にあたっての注意事項

- ・グラフや表中の回答選択肢は、短縮や補足をして表記している場合があります。
- ・比率はすべて百分率で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。そのため、百分率の合計が100%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問については、母数を有効回答者数としているため、百分率の合計が100%を超える場合があります。
- ・有効回答者数は各設問に（n=●●）で表しています。回答数が限定されている設問で規定数以上を選択しているものや、対象者限定の設問で非対象者が選択したものはカウントしていません。
- ・回答が少数である設問の比率については、特定の意向が強く反映される場合があります。
- ・国や茨城県の比較グラフにおいて、「全国」は「男女共同参画社会に関する世論調査」（令和6年度）、「茨城県・県西地域」は「茨城県男女共同参画に関する県民の意識と実態に関する調査」（令和6年度）、「筑西市」は本調査を指します。

(5) アンケート調査項目

設問番号	調査内容	回答形式
あなたご自身のことについて		
F 1	性別	(SA)
F 2	年齢 (満)	(SA)
F 3	婚姻等	(SA)
F 3①	【F 3で「1」を選択】家庭状況	(SA)
F 4	就業等	(SA)
あらゆる分野における男女共同参画について		
問1	あなたは次の8つの分野において、男女の地位・立場は平等になっていると思いますか。	
	(1) 家庭生活の場 (家事・育児など)	(SA)
	(2) 職場	(SA)
	(3) 学校教育の場	(SA)
	(4) 政治の場	(SA)
	(5) 地域活動の場 (町内会・自治会等)	(SA)
	(6) 社会全体	(SA)
	(7) 社会通念・習慣・しきたりなど	(SA)
	(8) 法律や制度の上	(SA)
問2	「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方をどう思いますか。	
問3	問2で「1 同感する～4 同感しない」を選んだ方に伺います。	
	【問2で「1～2」を選択】その理由はなぜですか。	(MA)
	【問2で「3～4」を選択】その理由はなぜですか。	(MA)
ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) について		
問4	1日のうちで、あなたが次のことに費やす時間は平均してどのくらいですか。	
	(1) 仕事 (在宅勤務・通勤時間含む)	(SA)
	(2) 家事 (育児・介護を含む)	(SA)
	(3) 趣味等の自分の時間	(SA)
問5	【配偶者 (パートナー・事実婚含む) のいる方】夫婦で家事の分担はどのようにしていますか。全体を 100 パーセント (%) としてお答えください。	
問6	【配偶者 (パートナー・事実婚含む) のいる方】あなたのご家庭では、次の項目は主に誰が担当していますか。	
	(1) 食事を作る	(SA)
	(2) 食事の後片付け	(SA)
	(3) 洗濯	(SA)

問6	(4) 掃除	(SA)
	(5) ごみ出し	(SA)
	(6) 子どもの教育・世話（子供がいる方のみ）	(SA)
	(7) 病人・高齢者の介護（対象者がいる方のみ）	(SA)
	(8) 家計費の管理	(SA)
	(9) 家庭において全体的に実権を握っている人	(SA)
問7	【現在働いている方】仕事と家庭生活を両立させる上での悩み、問題は何ですか。	(MA)
問8	「仕事」、「家庭生活（家事・育児・介護・看護など）」、「地域・個人の生活（趣味含む）」の状況について、理想はどうですか。また、実際はどうですか。（現在、仕事を行っていない方は今後のお考えをお答えください。）	(SA)
問9	男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。	(MA)
<b>働き方や就業について</b>		
問10	【現在働いている方】あなたの役職は何ですか。	(SA)
問11	【問10で「2」を選択】あなたご自身は、これから先、どの役職まで目指したいと考えていますか。あなたが目指したい最も高い役職をお答えください。	(SA)
問12	【問11で「1」を選択】管理職・役員を目指さない理由はなんですか。	(MA)
問13	【現在働いている方】あなたの職場では、次のようなことはありますか。	(MA)
問14	仕事へのかかわり方について、あなたはどのようにお考えですか。	
	(1) 女性は結婚するまでは、仕事を続けた方がよい	(SA)
	(2) 女性は子どもができるまでは、仕事を続けた方がよい	(SA)
	(3) 女性は子どもが生まれてもずっと仕事を続ける方がよい	(SA)
	(4) 女性は仕事を一生持たない方がよい	(SA)
	(5) 女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめてもその時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい	(SA)
	(6) 男性は家庭を支えるため、仕事中心の生活をした方がよい	(SA)
	(7) 男女を問わずフルタイムの仕事よりパートの方がよい	(SA)
	(8) 男女を問わず家庭・家族と仕事のバランスをうまくとりながら生活した方がよい	(SA)
(9) 男女を問わず、仕事よりも家庭での時間を大切にされた方がよい	(SA)	
問15	あなたは、女性が出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。	(MA)
<b>地域活動について</b>		
問16	あなたは現在、次のような地域活動をしていますか。	(MA)
問17	【問16で「1～5」を選択】活動のなかで、役割分担などについて感じていることはありますか。	(MA)
問18	【問16で「6」を選択】活動をしていない理由はなんですか。	(MA)

人権が尊重される社会の形成について		
問 19	あなたは配偶者（パートナー含む）や恋人から暴力を受けたことがありますか。	(SA)
問 20	【問 19 で「1」を選択】それはどのようなことですか。	(MA)
問 21	【問 19 で「1」を選択】これまで、配偶者等から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。	(MA)
問 22	女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などについて、見聞きしたことがあるものはありますか。	(MA)
問 23	あなたは、現在、偏見や差別などの人権侵害により、LGBTQ（性的マイノリティ）の方々が生活しづらい社会だと思いますか。	(SA)
問 24	LGBTQ（性的マイノリティ）の方々の人権を守るために、どのような方策が必要だと思いますか。	(MA)
男女共同参画社会づくりに向けた筑西市の施策について		
問 25	平時の防災体制や災害発生後の対応に男女共同参画の視点が必要だと指摘されています。災害に備えるため、今後どのような取組が必要だと思いますか。	(MA)
問 26	あなたは、筑西市の施策に女性の意見が反映されていると思いますか。	(SA)
問 27	以下の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。	(MA)
問 28	男女共同参画社会を実現していくために、筑西市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。特に重要だと思われるものを3つ選んでください。	(MA)
自由記述		
	最後に男女平等や男女共同参画などについて普段感じていること、市へのご意見、ご要望等がございましたら、自由にご記入ください。	(FA)

SA：単数回答、MA：複数回答、NA：数量回答、FA：自由回答



## II 調査結果のまとめ

## 調査結果のまとめ

### ■あらゆる分野における男女共同参画について(問1~3)

#### ■各分野における男女の地位の平等について

- ・男女の平等感については分野により認識の差がみられ、「学校教育の場」では「平等である」と感じる割合が5割と高い一方、「政治の場」や「社会全体」、「社会通念・習慣・しきたり」の3分野では『男性が優遇（優遇+どちらかといえば優遇）』とを感じる割合が6割以上となっています。
- ・国・県との比較でみると、「家庭生活の場」、「学校教育の場」、「地域活動の場」は「平等である」と感じる割合が全国よりも10ポイント以上低い一方、「政治の場」は全国、県などよりも高くなっています。

#### ■「男は仕事、女は家庭」という考え方について

- ・性別による固定的な役割分担意識について『同感する（同感+どちらかといえば同感）』は2割、『同感しない（同感しない+どちらかといえば同感しない）』は7割となっています。
- ・過去調査との比較でみると『同感しない』割合が年々増加しており、意識の変化が見られます。
- ・国・県との比較でみると、全国、県より『同感しない』割合が高くなっています。

#### ■「男は仕事、女は家庭」という考え方に『同感する』『同感しない』理由

- ・『同感する』理由としては、「育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変である」が5割以上と最も高く、女性の就業継続に関する負担による理由が高くなっています。
- ・『同感しない』理由として、「固定的な役割分担を押し付けるべきではない」が6割と最も高くなっています。

### ■ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について(問4~9)

#### ■仕事・家事・趣味の時間について

- ・1日のうち、仕事の時間は「なし」、「7~9時間」が多く、家事の時間は「1~2時間未満」、「なし」が多くなっています。趣味の時間は「1~2時間未満」、「1時間未満」が多くなっています。
- ・家事については男女別でみると、男性は「1時間未満」が最も多く、次いで「なし」に対し、女性は「2~3時間」が最も多く、次いで「5時間以上」と偏りが見られます。
- ・仕事と家庭生活を両立する上での悩みや問題について、男女別でみると、男性は「仕事の負担が大きく体力的、精神的に大変である」が最も多く、次に「特に悩みや問題はない」、女性は「家事を十分やる時間がない」が最も多く、次に「自分自身の趣味や生きがいを考えるゆとりがない」と続いており、男性は仕事負担のこと、女性は家庭のことと悩み・問題の内容に差がみられます。
- ・過去調査との比較でみると「特に悩みや問題はない」が17ポイント以上増加しています。

#### ■家庭での分担について

- ・配偶者（パートナー・事実婚含む）との家事分担は、「夫」は20%~40%未満、「妻」は90%~100%未満と回答した割合が多く、家事の時間の男女別と同様に、配偶者間での家事分担には偏りが見られます。
- ・項目ごとに家庭での分担をみると、家事・育児・介護・看護の概ねの項目で「妻」が分担の割合が多くなっています。「夫婦共に」は「子どもの教育・世話」で5割と高く、次いで「家庭において全体的に実

権を持っている人」で3割以上となっています。一方、「夫」の負担が多いのは「ごみ出し」のみとなっています。

- ・男女別でみると、男性の方が女性より「夫婦共に」と回答する割合が概ねの項目で高い傾向にあり、意識の差がうかがえます。

#### ■男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと

- ・「家事等の負担について、夫婦や家族間での話し合い・協力すること」が6割以上で多く、次いで「男性の仕事中心の考え方を改めること」が4割で高くなっていることから、家庭内での話し合いが重要であるとともに、依然として男性は仕事中心、女性は家庭生活に比重が置かれている現状を踏まえた意識啓発・働き方の見直しが重要となっています。

### ■働き方や就業について(問 10~15)

#### ■キャリア形成について

- ・現在就業している方の内、非管理職の方についての今後のキャリア形成の意向としては「非管理職のままでもいい」が8割以上となっています。男女別でみると、女性は9割、男性は7割以上を占めています。
- ・その理由として、「責任が増えるため」が4割以上で最も多く、次いで「都合に合わせて休みがとりづらくなるため」と続いています。男女別でみると、どちらも「責任が増えるため」が最も高い一方、男性は「管理職に興味ややりがいを感じない」、女性は「家庭（プライベート）との両立が難しい」が次いで高くなっています。
- ・女性が出産後も退職せずに働き続けるために重要なこととして、「子どもを預けられる環境の整備」が8割で最も高く、次いで「家事・育児・介護支援サービスの充実」、「職場での育児・介護との両立支援制度の充実」が5割となっています。

#### ■職場の状況について

- ・職場における男女格差等は「特にない」が4割以上と最も高いものの、『賃金・昇進・昇給』『幹部職員の数比』に男女差があると感じている人が1割以上となっています。
- ・男女別でみると男性は「配置場所の男女格差」も2割以上と多くなっており、女性は全体と同様の傾向となっています。

#### ■仕事とのかかわり方について

- ・「男女問わず家庭・家族と仕事のバランスを取りながら生活した方がよい」、「女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめてもその時期が過ぎたら再び仕事を持つほうがよい」では『肯定（そう思う+どちらかと言えばそう思う）』が7割以上で高くなっています。

### ■地域活動について(問 16~18)

- ・地域活動への参加状況では、「活動をしていない」が5割で最も多いものの、一定の活動参加経験がみられます。参加している地域活動としては、「町内会・自治会で活動（子ども会含む）」が約3割、「団体活動」が1割となっています。
- ・活動の中での役割分担においては、「参加する性別にかたよりがみられる」が3割と最も高く、次いで「特にない」、「男女ともに対等な役割を担っている」と続いています。実際に地域活動に参加している方は、役割分担における平等感を感じている様子も見られます。

## ■人権が尊重される社会の形成について(問 19~24)

### ■配偶者（パートナー）・恋人からの暴力について

- ・配偶者や恋人からの暴力の被害経験がある方は1割未満となっていますが、一定数いることがわかります。婚姻状況別でみると、「既婚（離・死別）」の方において他の婚姻状況より割合が多くなっています。
- ・被害経験がある方のうち、その行為について「どこ（だれ）にも相談しなかった」が4割と最も多くなっており、男女別でみると男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」が5割、女性は「家族や親戚」が4割と最も多くなっています。男女問わず誰でも安心して相談できる体制の確保が求められます。

### ■女性に対する暴力や様々な悩みごとに対する相談窓口の認知度について

- ・各相談窓口については「見たり聞いたりした言葉はない」が3割以上と最も多くなっており、早急の周知・啓発が求められます。
- ・認知度があるものの中では、「こころの健康相談統一ダイヤル」が2割で最も高く、「ひきこもり地域支援センター」が約2割となっています。一方で、認知度が最も低かったものは「性暴力相談に関するSNS相談、キュアタイム」で、性犯罪・性暴力に関する相談窓口の認知度が低くなっています。

### ■LGBTQ（性的マイノリティ）の人権について

- ・現在LGBTQ（性的マイノリティ）の方々が生活しづらい社会だと思うか、については『そう思う（そう思う+どちらかと言えばそう思う）』が約7割となっています。
- ・LGBTQ（性的マイノリティ）の方の人権を守るために必要な施策としては、「正しい知識の取得と、理解を深めるための教育をこどもの頃から学校が行う」が5割以上で最も高く、次いで「不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する」が4割となっています。また、「正しい知識の取得と理解を深めるための啓発活動を行政が行う」も多く、子どもの頃から教育に加え、行政による啓発や制度整備が求められていることがわかります。

## ■男女共同参画社会づくりに向けた筑西市の施策について(問 25~28)

### ■防災や災害時等における男女共同参画の視点について

- ・災害に備えるために今後必要な施策としては、「あらゆる視点で避難所マニュアルを作り、すべての人が安全に過ごせるようにする」が4割以上と最も多く、次いで「地域で防災活動や訓練に取り組む」、「日頃から性別や立場に関係なくコミュニケーションをとれる地域づくり」がそれぞれ4割と続いていることから、平時の防災時からの地域でのつながりや地域づくりの重要性がうかがえます。
- ・男女別でみると、「女性、乳幼児、性的マイノリティ等の視点に基づく備品等の準備」は女性では4番目に高い割合となっていますが、男女間で差が大きく男性より16ポイント以上高くなっています。

### ■男女共同参画に関する用語の認知度について

- ・見聞きしたことがある男女共同参画の用語について、認知度が高いものは「ハラスメント」が約8割で最も高く、次いで「ストーカー規制法」が7割以上、「男女機会均等法」が6割以上で続いています。一方で最も認知度が低かったものは、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」となっています。
- ・過去の調査から比較すると、「ジェンダー（文化的・社会的に作られた性差）」が16ポイント増加し、「配偶者暴力防止法（DV防止法）」で21ポイントと大きく減少しています。
- ・男女別でみると、男女共に「ハラスメント」が最も高くなっています。男女間で差が大きかったものは、「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」で、女性が男性より12ポイント以上高くなっています。

## ■市の施策について

- ・筑西市の施策に女性の意見が反映されているかについては、「わからない」が5割と最も高くなっており、『反映されている（十分反映されている+ある程度反映されている）』が2割5分となっています。
- ・男女共同参画社会を実現していくために、筑西市で力を入れいくべきことは「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が4割以上で最も高く、次いで「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣習等の見直し」が3割、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」が2割以上と続いています。男女が共に働き続けることを支える基盤として、保育・介護サービスの充実などの両立支援とあわせ、働き方や社会慣行の見直しを含めた制度整備が求められています。
- ・男女別にみると、男女共に「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が最も高くなっています。男女間で差が大きかったものは、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」で、女性が男性より13ポイント以上高くなっています。

## ■自由記述について

- ・自由意見では、『行政への要望』が15件と最も多く、次いで『男女平等意識』（11件）、『子育て支援・両立支援』（9件）『家庭や地域における男女平等』（8件）などに関する意見が寄せられています。
- ・全体として男女共同参画の推進に向けては、制度整備とともに固定的な性別役割分担意識の解消や理解促進を求める意見が多く見られます。
- ・男女平等の捉え方については、性差を踏まえた公平性を重視する意見が多く、男女関わらず平等意識が重要との声や意識改革の必要との意見が見られました。また、子育てと仕事の両立支援へのニーズとして、保育・介護サービスの充実や柔軟な働き方の整備を求める声に加え、家庭での家事・育児分担や役割意識の改革も意見として挙げられています。



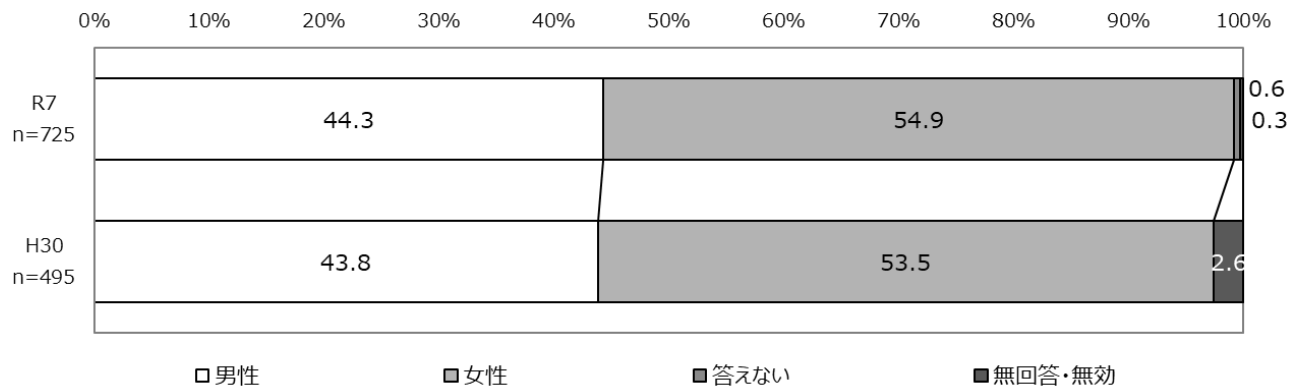
### III 調査結果

## 集計調査結果

### あなたご自身のことについて

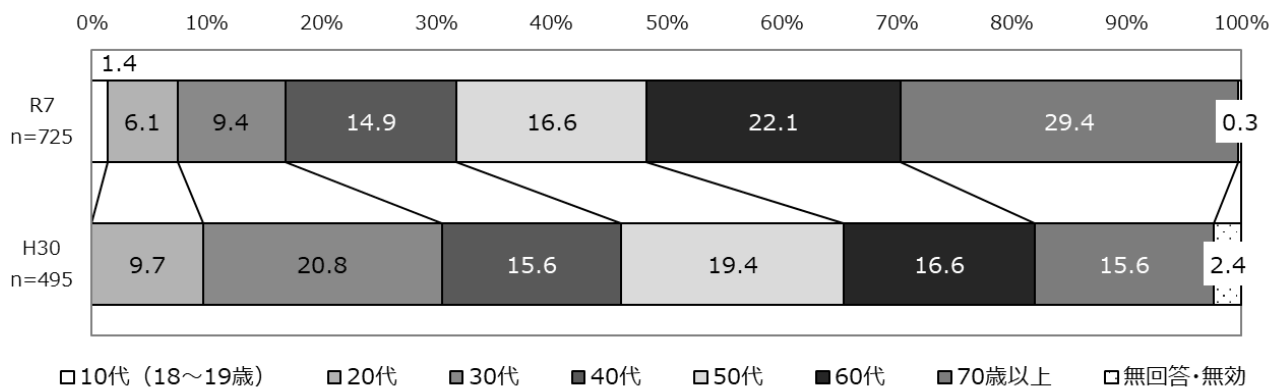
#### F 1 性別

- ・性別は、「男性」が44.3%、「女性」が54.9%となっています。
- ・前回調査と同様に、女性の回答者が男性を大きく上回っています。



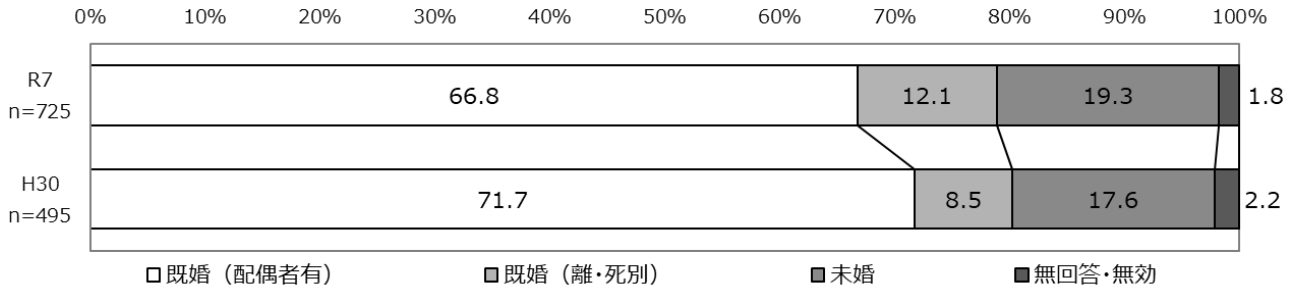
#### F 2 年齢 (満)

- ・年齢は、「70歳以上」(29.4%)、次いで「60代」(22.1%)、「50代」(16.6%)となっています。
- ・前回調査より、70歳以上の割合が13.8ポイント増加しています。



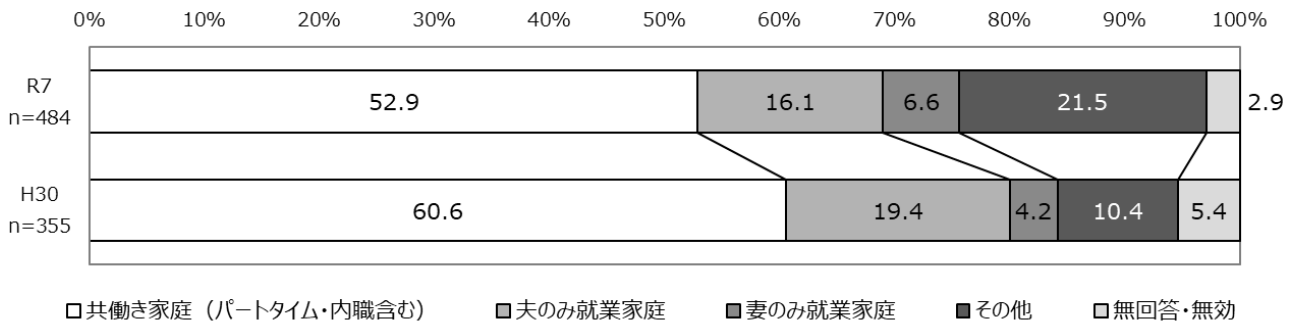
### F 3 婚姻等

- ・婚姻状況は、「既婚（配偶者有）」（66.8%）となっています。
- ・前回調査より、「既婚（配偶者有）」の割合が4.9ポイント減少しています。



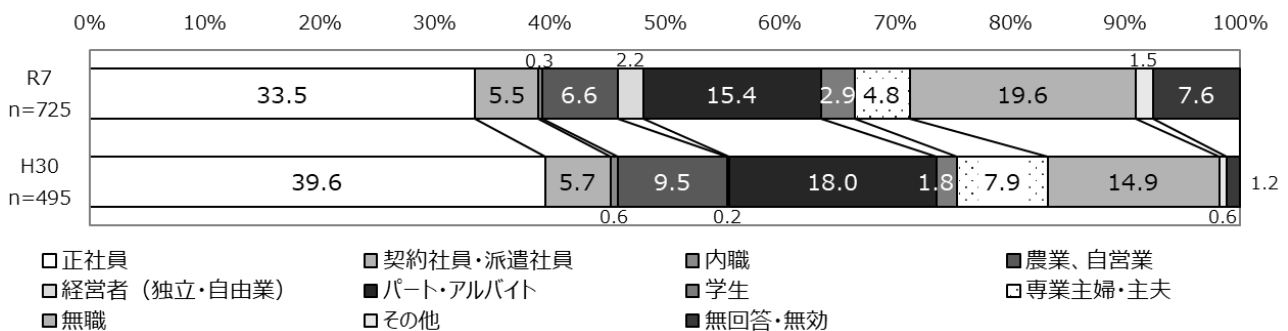
#### F 3① 家庭状況【F 3で「1」を選択】

- ・家庭状況は、「共働き家庭（パートタイム・内職含む）」（52.9%）が最も高く、次いで「その他」（21.5%）、  
「夫のみ就業家庭」（16.1%）となっています。
- ・その他の内容では、「夫婦ともに無職」が最も多くなっています。
- ・前回調査より、「共働き家庭（パートタイム・内職含む）」の割合が7.7ポイント減少しています。



### F 4 就業等

- ・就業状況は、「正社員」（33.5%）、次いで「無職」（19.6%）、「パート・アルバイト」（15.4%）となっ  
ています。
- ・前回調査より、「無職」の割合が4.7ポイント増加しています。

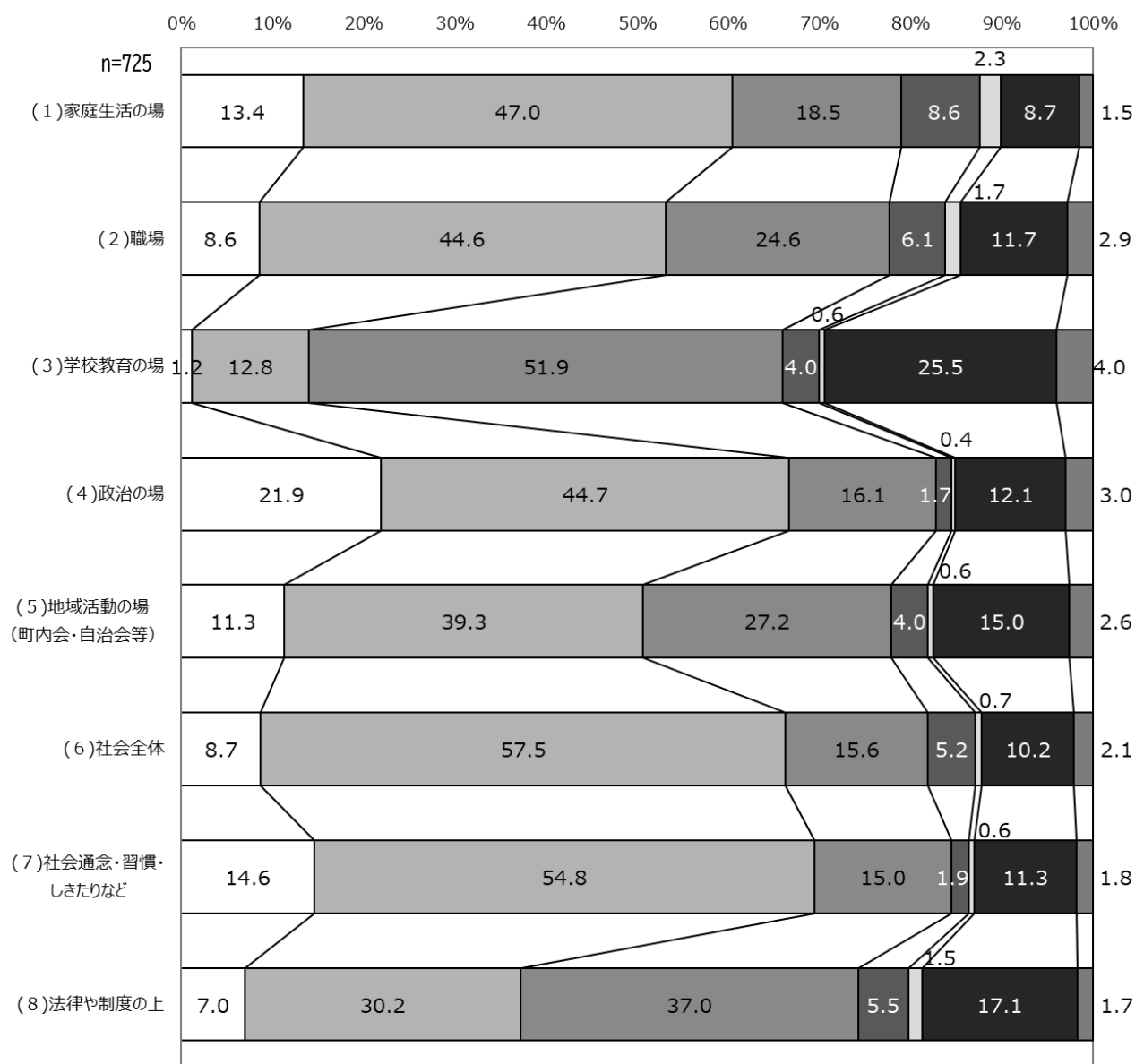


## あらゆる分野における男女共同参画について

問1 あなたは次の8つの分野において、男女の地位・立場は平等になっていると思いますか。

[全体]

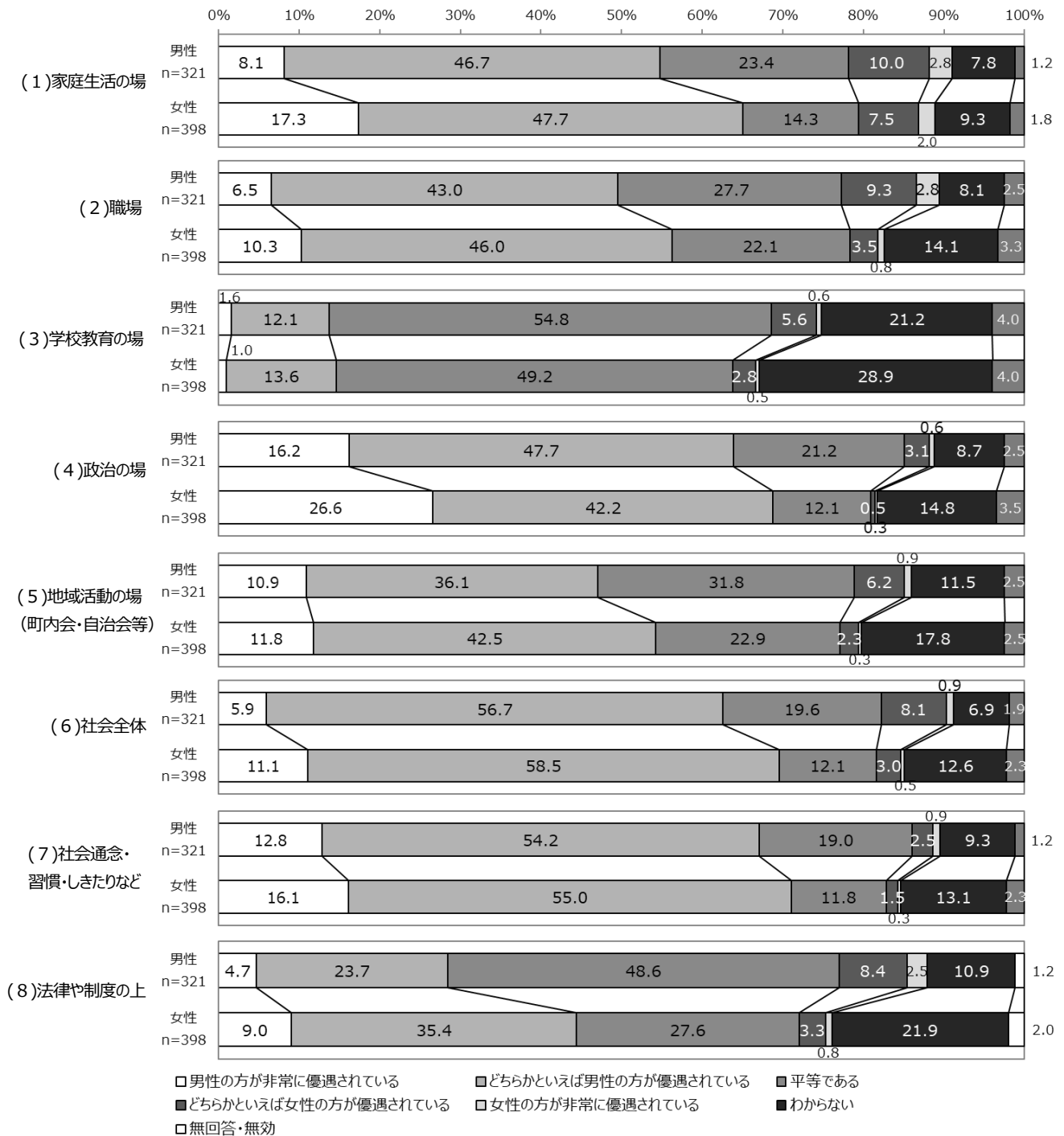
- ・ 8つの分野において、男女の地位・立場は「平等である」と思う市民の割合は、「(3)学校教育の場」(51.9%)が最も高く、次いで「(8)法律や制度の上」(37.0%)、「(5)地域活動の場(町内会・自治会等)」(27.2%)となっています。
- ・ 一方で、「(7)社会通念・習慣・しきたりなど」(15.0%)が最も低く、次いで「(6)社会全体」(15.6%)、「(4)政治の場(16.1%)」となっています。



男性の方が非常に優遇されている     
 どちらかといえば男性の方が優遇されている     
 平等である  
 どちらかといえば女性の方が優遇されている     
 女性の方が非常に優遇されている     
 わからない  
 無回答・無効

[全体男女別]

- ・男女の地位・立場は「平等である」と思うのは、男女ともに「(3)学校教育の場」が5割前後で最も高くなっています。
- ・男女別でみると、特に「平等である」と思う意識の差が大きいのは「(8)法律や制度の上」が21.0ポイント差、「(1)家庭生活の場」と「(4)政治の場」が9.1ポイント差となっており、いずれも男性が思うほど女性は平等と感じていないことがわかります。

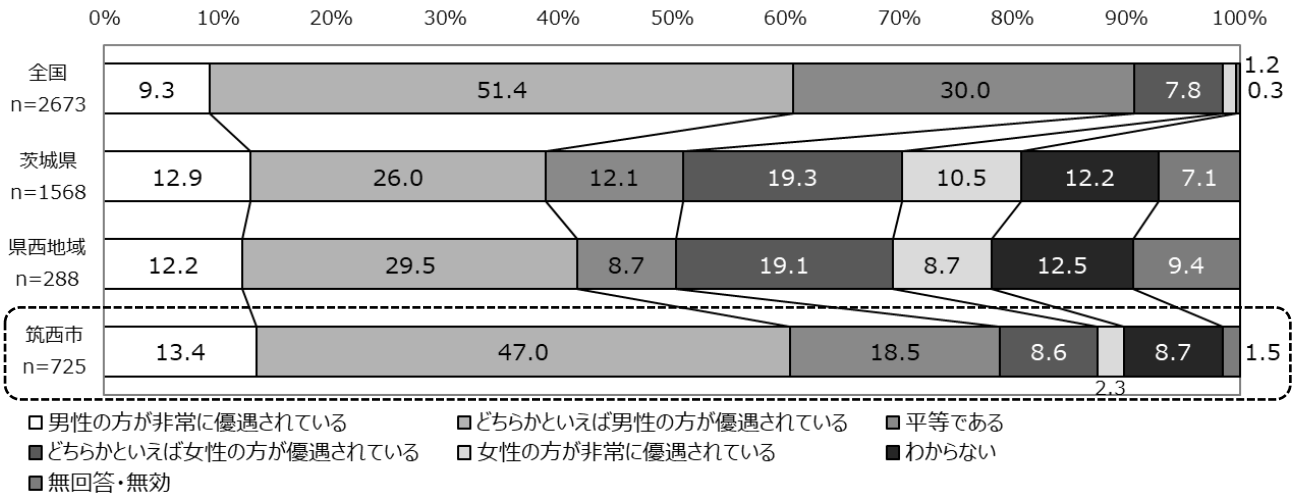


(1) 家庭生活の場（家事・育児など）

・家庭生活の場（家事・育児など）において、『男性が優遇されている』と思う割合（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）は6割以上となっています。

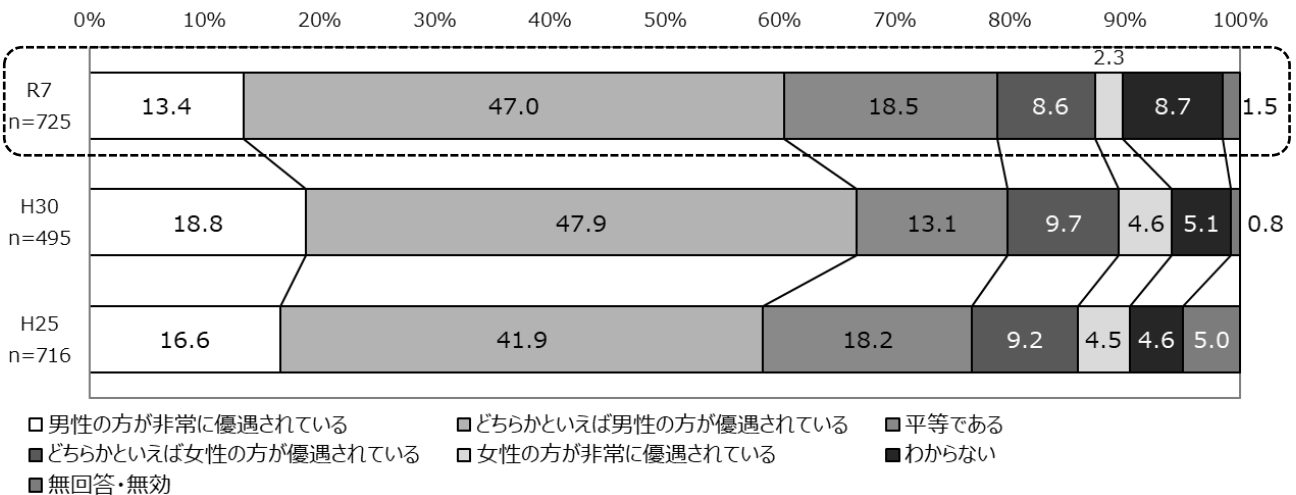
[国・県との比較]

・筑西市の「平等である」と思う割合（18.5%）は、令和6年男女共同参画社会に関する世論調査（以下『全国調査』）（30.0%）より低いものの、男女共同参画に関する県民の意識と実態に関する調査（以下『茨城県調査』）（12.1%）や同調査の県西地域（8.7%）より高い割合になっています。



[過去調査との比較]

・前回調査よりも「平等である」と思う割合が5.4ポイント増加し、男女どちらかが優遇されていると思う割合は減少しています。

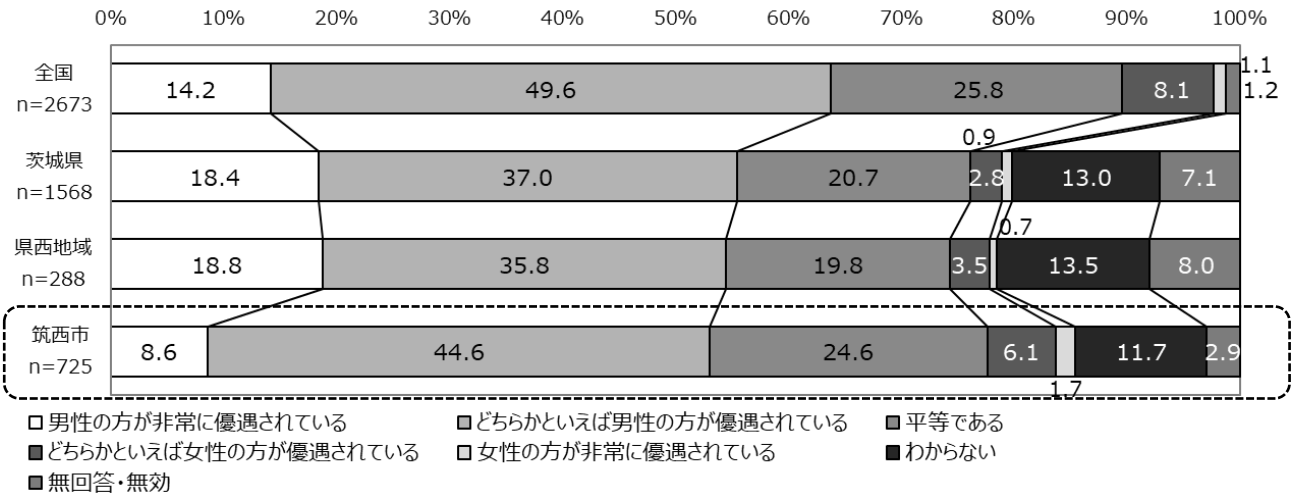


## (2) 職場

- ・職場において、『男性が優遇されている』と思う割合（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）が5割以上となっています。

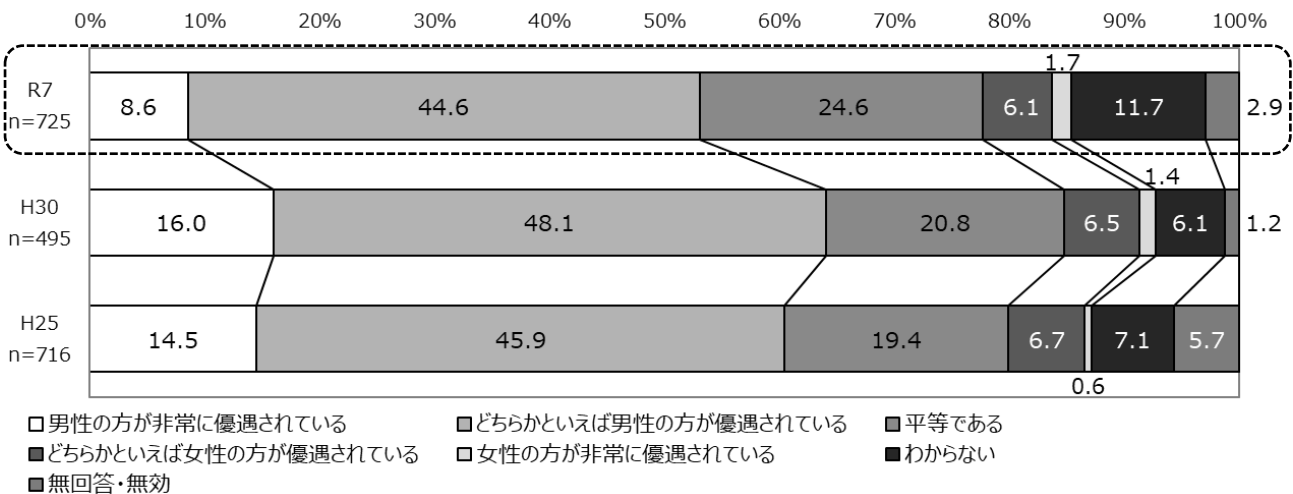
### [国・県との比較]

- ・筑西市の「平等である」と思う割合（24.6%）は、全国調査（25.8%）よりやや低いものの、茨城県調査（20.7%）や同調査の県西地域（19.8%）より高い割合になっています。



### [過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「平等である」と思う割合が3.8ポイント増加し、男女どちらかが優遇されていると思う割合は減少しています。

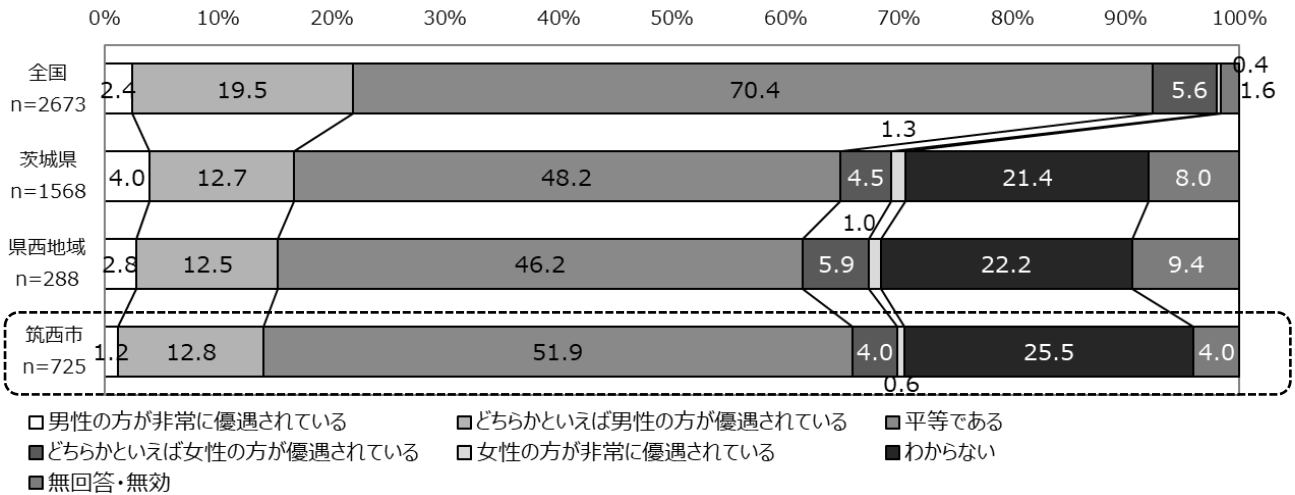


### (3) 学校教育の場

- ・学校教育の場において、「平等である」と思う割合が5割以上となっています。

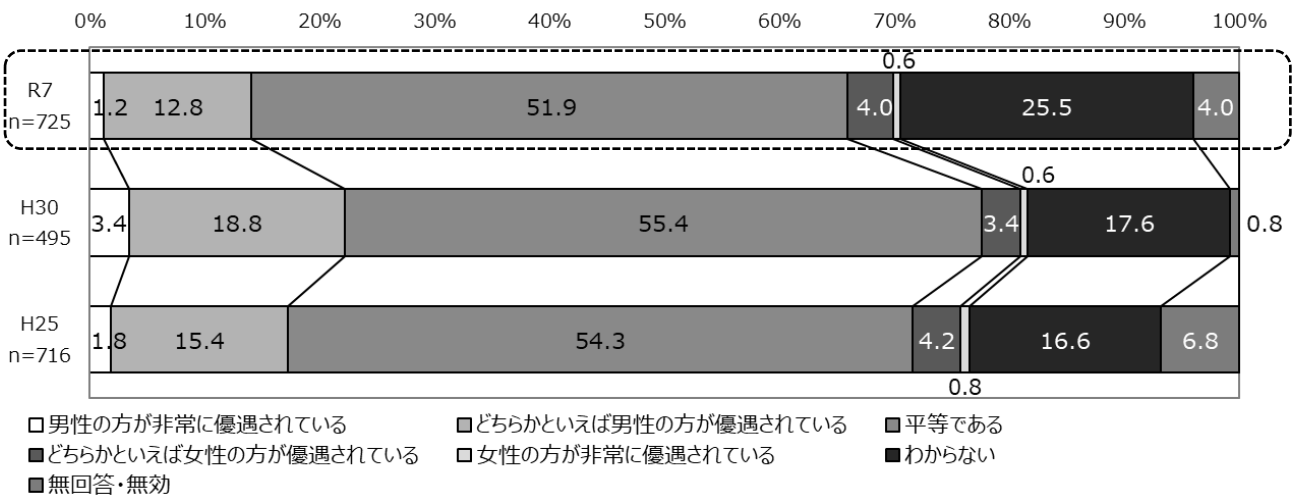
#### [国・県との比較]

- ・筑西市の「平等である」と思う割合（51.9%）は、全国調査（70.4%）より低いものの、茨城県調査（48.2%）や同調査の県西地域（46.2%）より高い割合になっています。



#### [過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「平等である」と思う割合が3.5ポイント減少し、「わからない」が7.9ポイント増加しています。

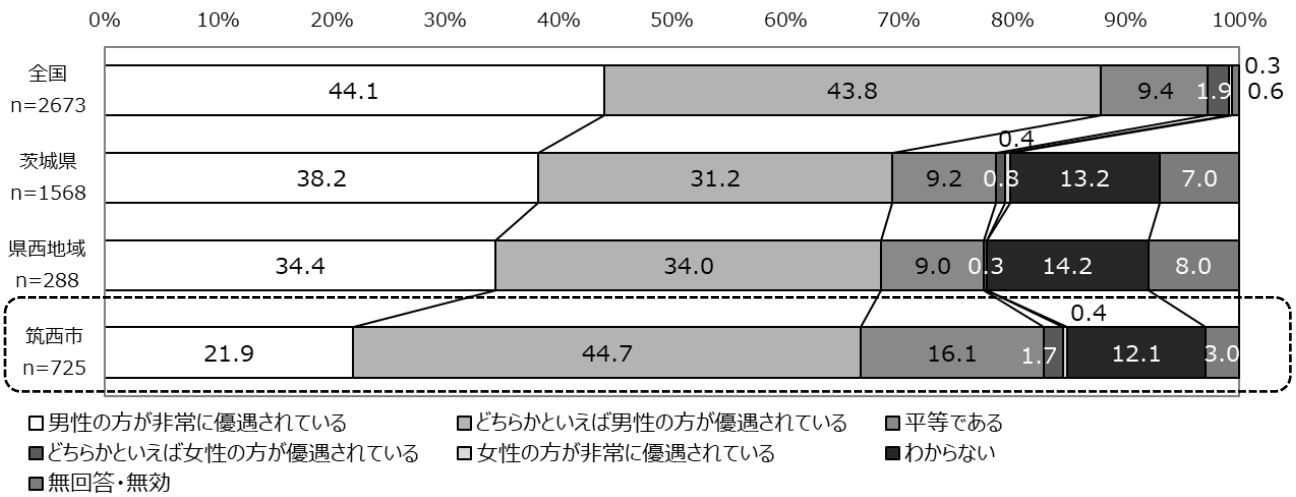


#### (4) 政治の場

- ・政治の場において、『男性が優遇されている』と思う割合（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）が7割弱となっています。

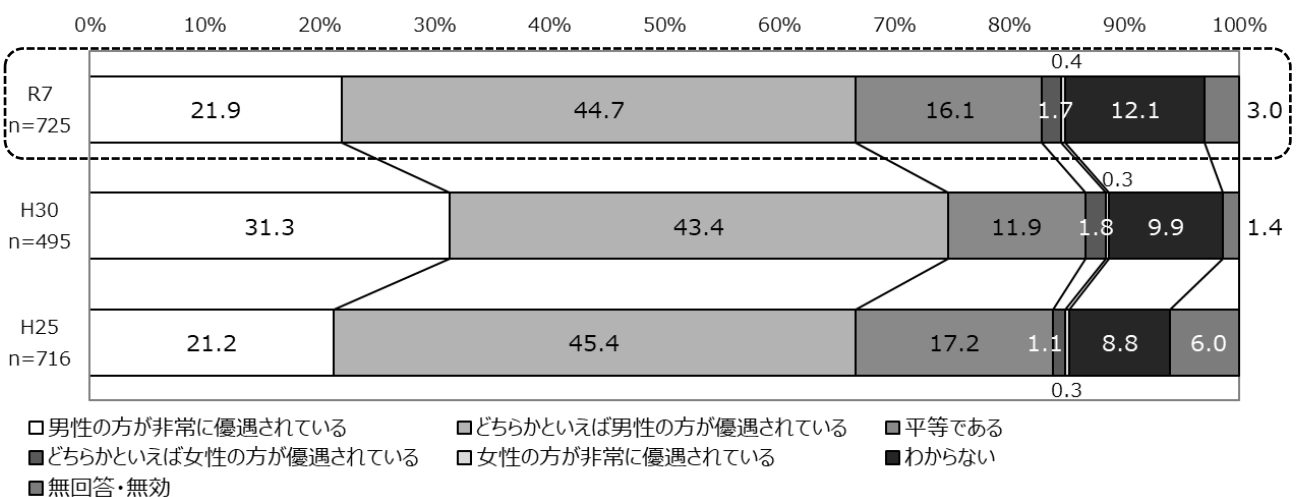
##### [国・県との比較]

- ・筑西市の「平等である」と思う割合（16.1%）は、全国調査（9.4%）や茨城県調査（9.2%）、同調査の県西地域（9.0%）より高い割合になっています。



##### [過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「平等である」と思う割合が4.2ポイント増加し、男性が優遇されていると思う割合は8.1ポイント減少しています。

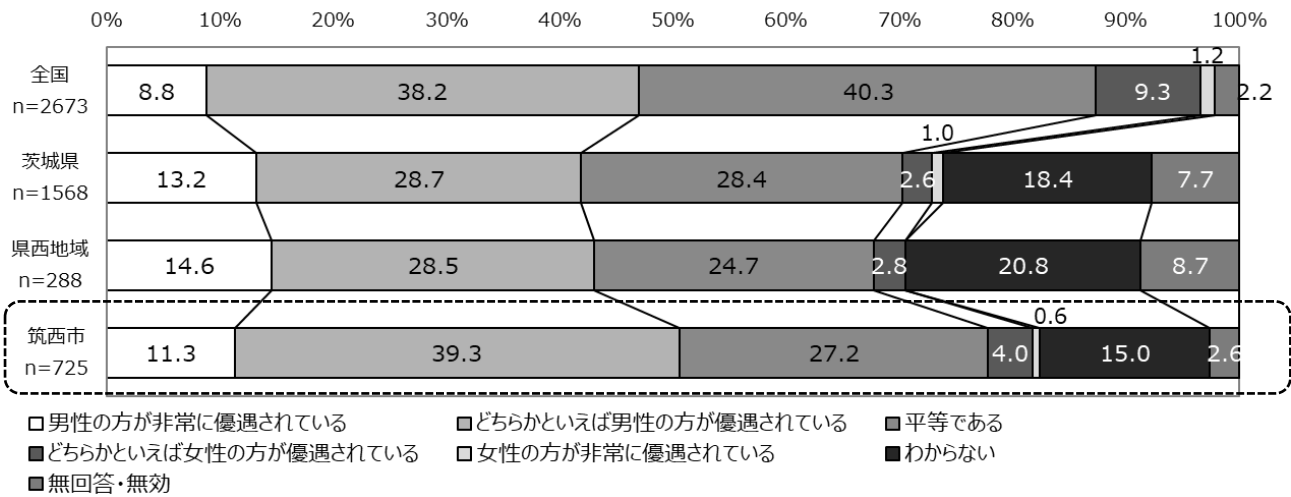


(5) 地域活動の場（町内会・自治会等）

- ・地域活動の場（町内会・自治会等）において、『男性が優遇されている』と思う割合（『男性の方が非常に優遇されている』+『どちらかといえば男性の方が優遇されている』）が5割以上となっています。

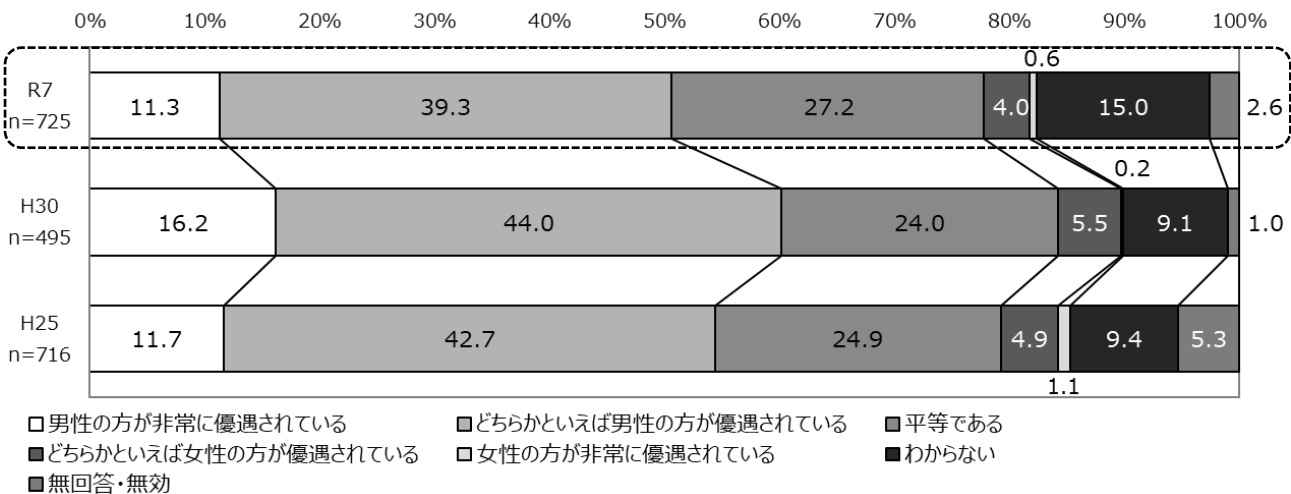
[国・県との比較]

- ・筑西市の「平等である」と思う割合（27.2%）は、全国調査（40.3%）や茨城県調査（28.4%）より低いものの、同調査の県西地域（24.7%）より高い割合になっています。



[過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「平等である」と思う割合がわずかながら3.2ポイント増加し、男女どちらかが優遇されていると思う割合は減少しています。

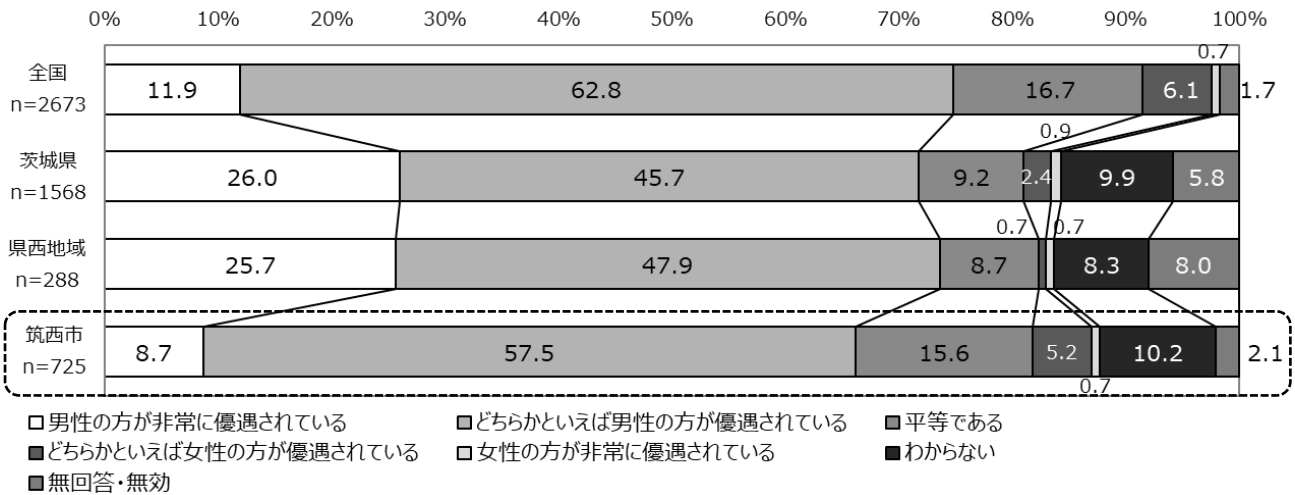


## (6) 社会全体

- ・社会全体において、『男性が優遇されている』と思う割合（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）が7割弱となっています。

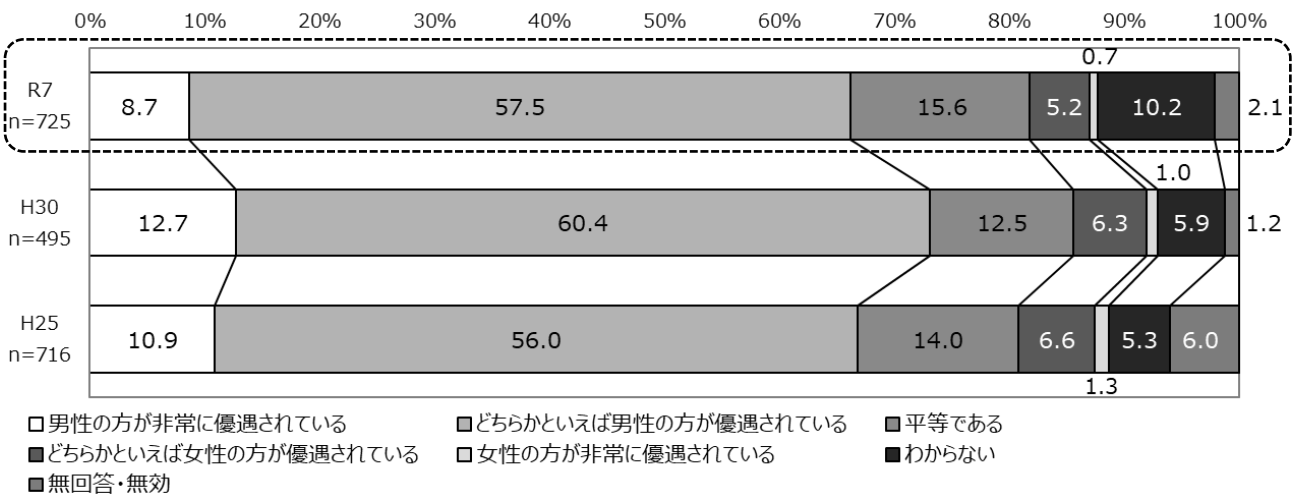
### [国・県との比較]

- ・筑西市の「平等である」と思う割合（15.6%）は、全国調査（16.7%）よりやや低いものの、茨城県調査（9.2%）や同調査の県西地域（8.7%）より高い割合になっています。



### [過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「平等である」と思う割合がわずかながら3.1ポイント増加し、男女どちらかが優遇されていると思う割合は減少しています。

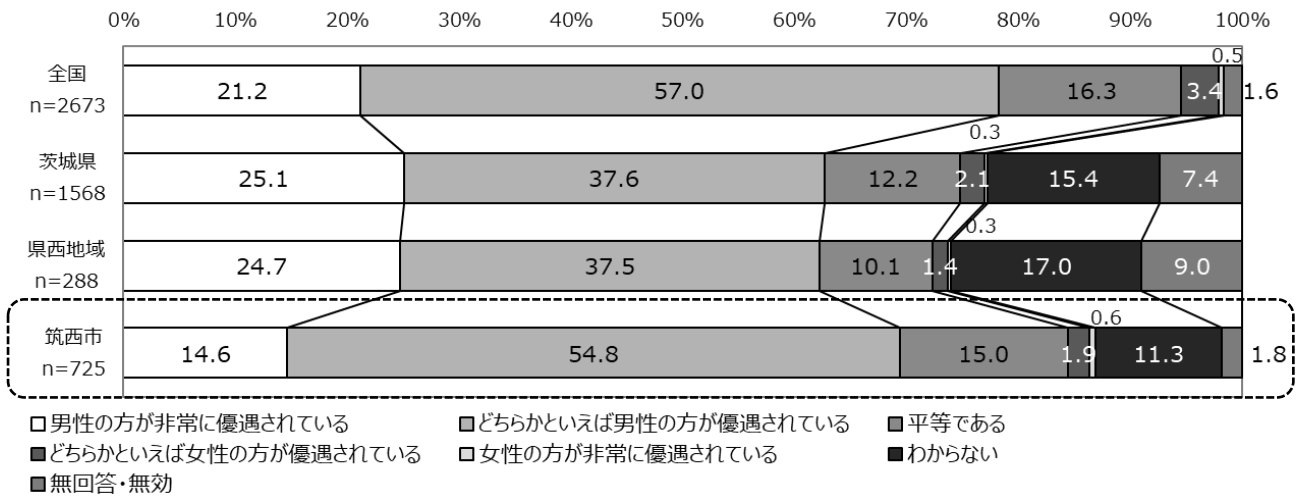


(7) 社会通念・習慣・しきたりなど

- ・社会通念・習慣・しきたりなどにおいて、『男性が優遇されている』と思う割合（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）が約7割となっています。

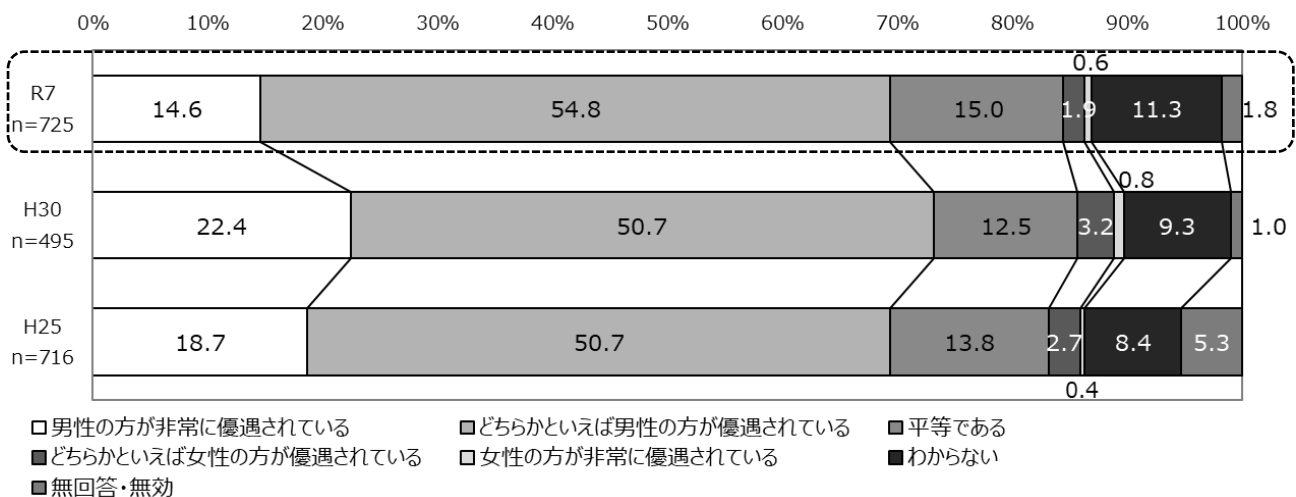
[国・県との比較]

- ・筑西市の「平等である」と思う割合（15.0%）は、全国調査（16.3%）よりやや低いものの、茨城県調査（12.2%）や同調査の県西地域（10.1%）より高い割合になっています。



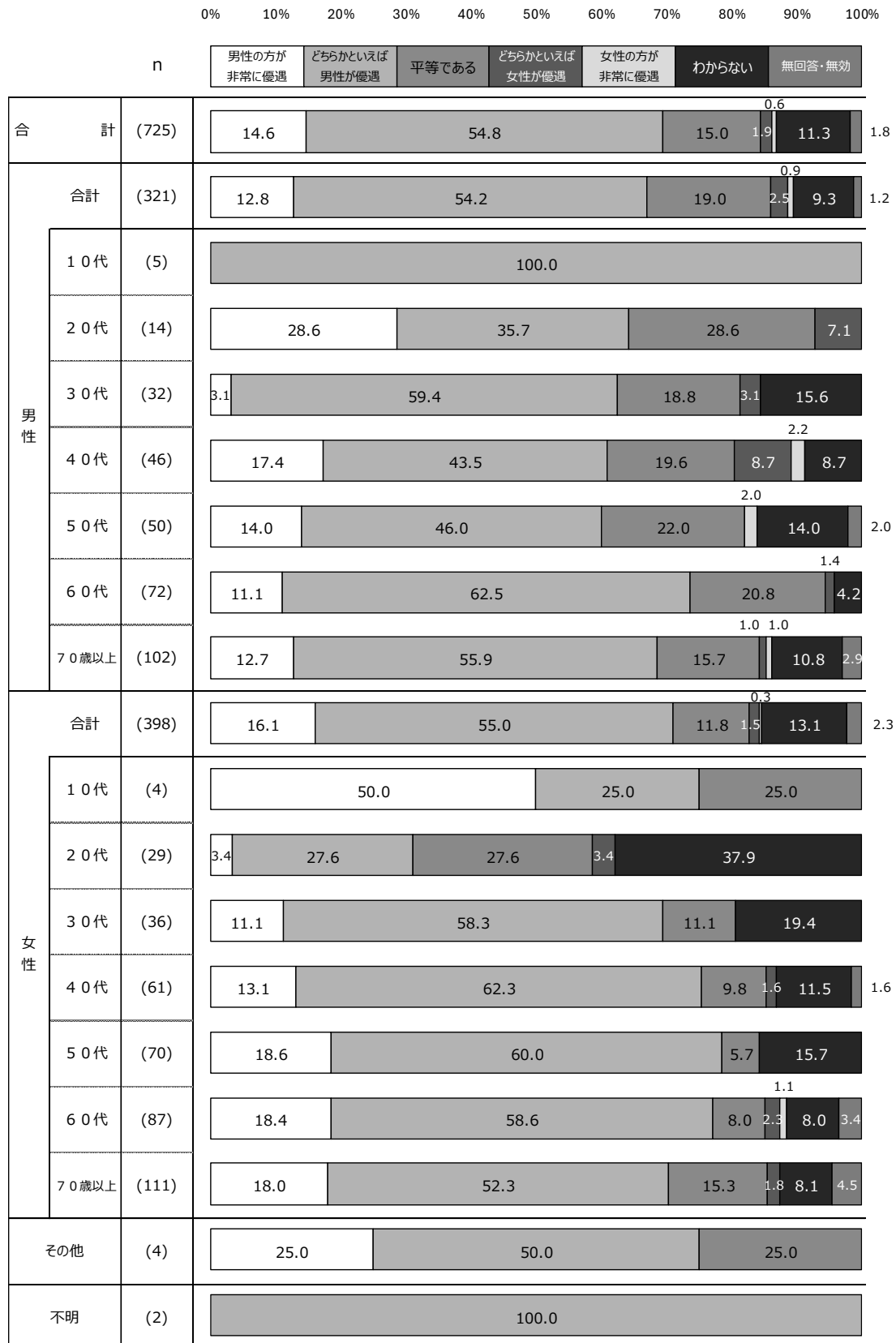
[過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「平等である」と思う割合がわずかながら 2.5 ポイント増加し、男女どちらかが優遇されていると思う割合は減少しています。



[男女年代別]

- ・ 8つの分野のうち、最も『男性が優遇されている』と思う割合（69.4%）が高かった「(7) 社会通念・習慣・しきたりなど」について、男女年代別で詳しくみると、回答数の少ない10代（18～19歳）を除き、女性50代（78.6%）、女性60代（77.0%）が高く、女性20代（31.0%）が低くなっています。

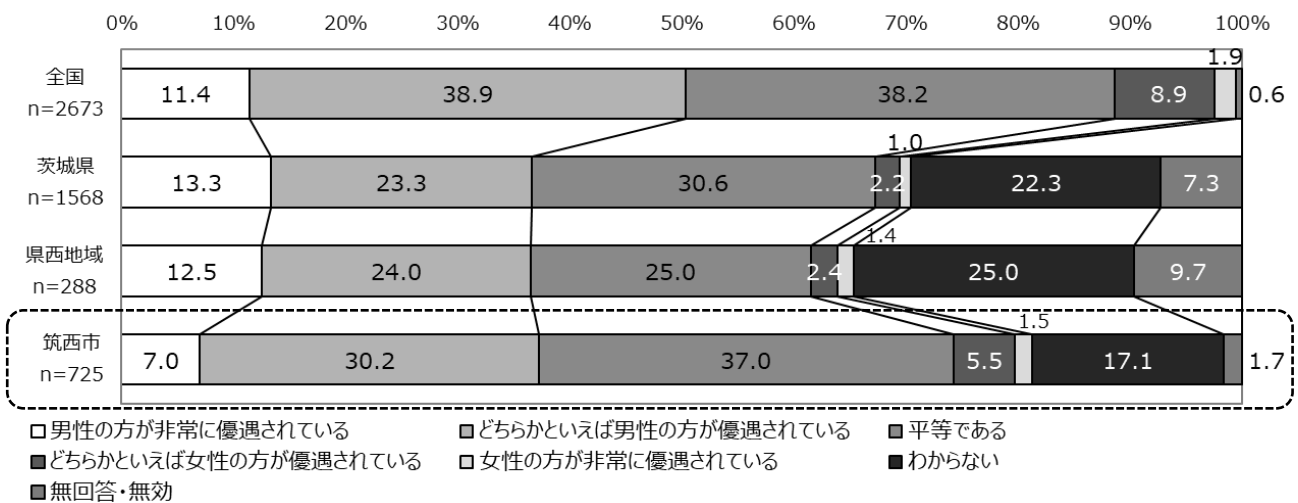


## (8) 法律や制度の上

- ・法律や制度の上において、『男性が優遇されている』と思う割合（「男性の方が非常に優遇されている」+「どちらかといえば男性の方が優遇されている」）が約4割となっています。
- ・一方で、「平等である」と思う割合も同様に約4割となっており、8つの分野のうち、「学校教育の場」に次いで「平等である」と思う割合が高くなっています。

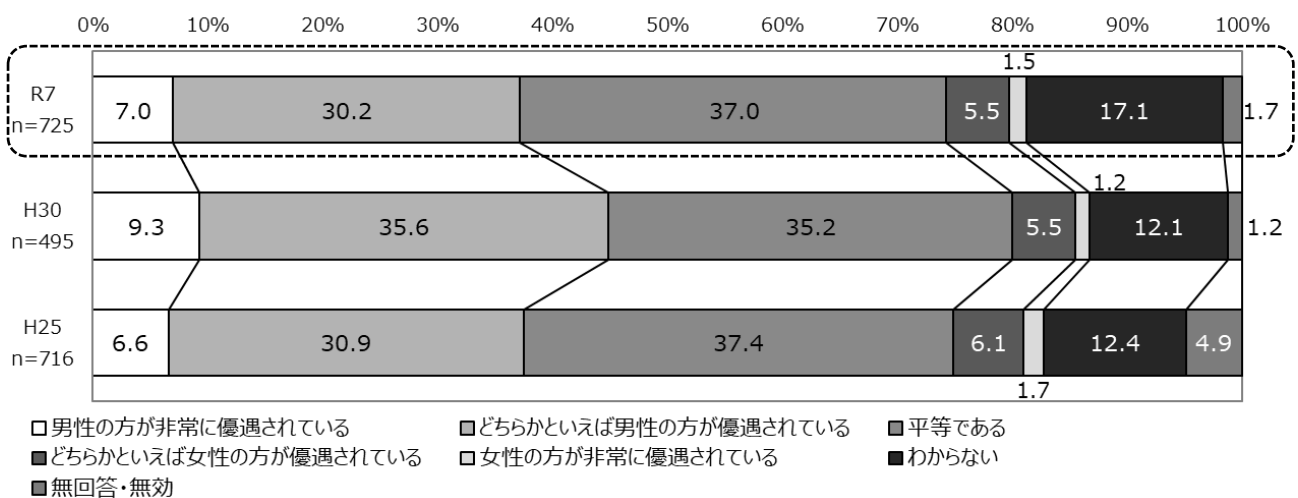
### [国・県との比較]

- ・筑西市の「平等である」と思う割合（37.0%）は、全国調査（38.2%）よりやや低いものの、茨城県調査（30.6%）や同調査の県西地域（25.0%）より高い割合になっています。



### [過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「平等である」と思う割合がわずかながら1.8ポイント増加し、女性が優遇されていると思う割合もわずかながら0.3ポイント増加しています。

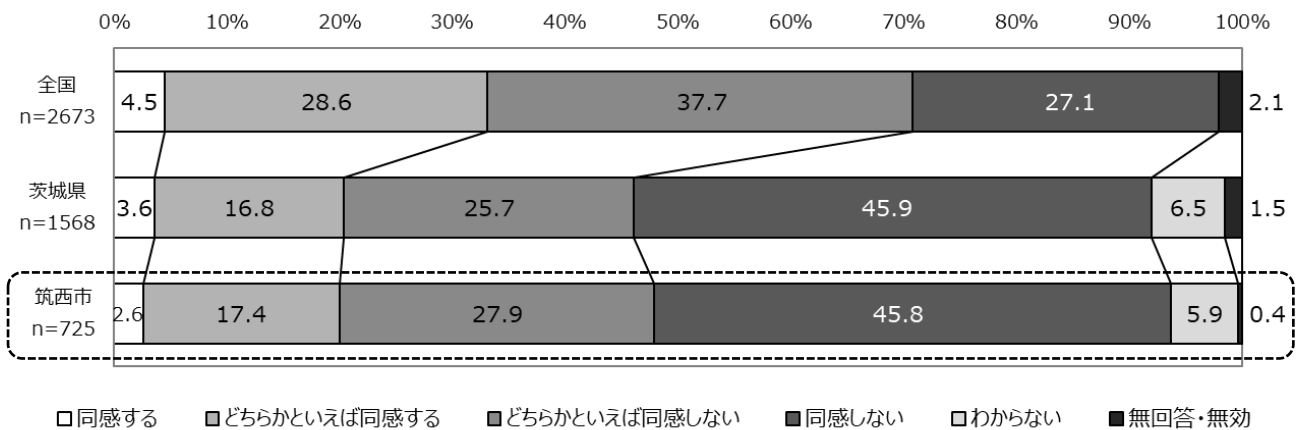


問2 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方をどう思いますか。

- ・「男は仕事、女は家庭」という考え方に『同感する』（「同感する」＋「どちらかといえば同感する」）は2割、『同感しない』割合（「どちらかといえば同感しない」＋「同感しない」）は7割以上となっています。

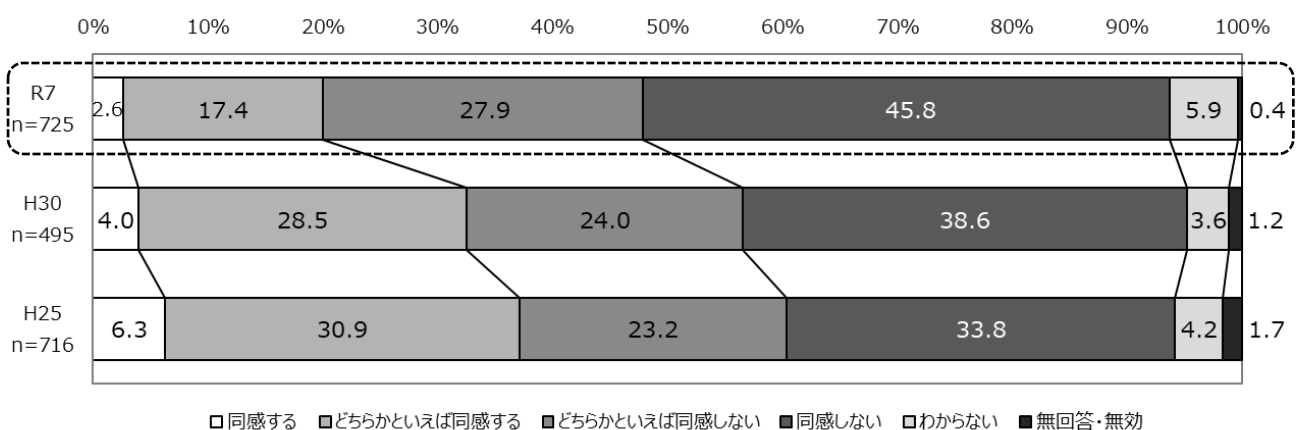
[国・県との比較]

- ・筑西市の『同感しない』と思う割合（73.7%）は、全国調査（64.8%）や茨城県調査（71.6%）より高い割合になっています。



[過去調査との比較]

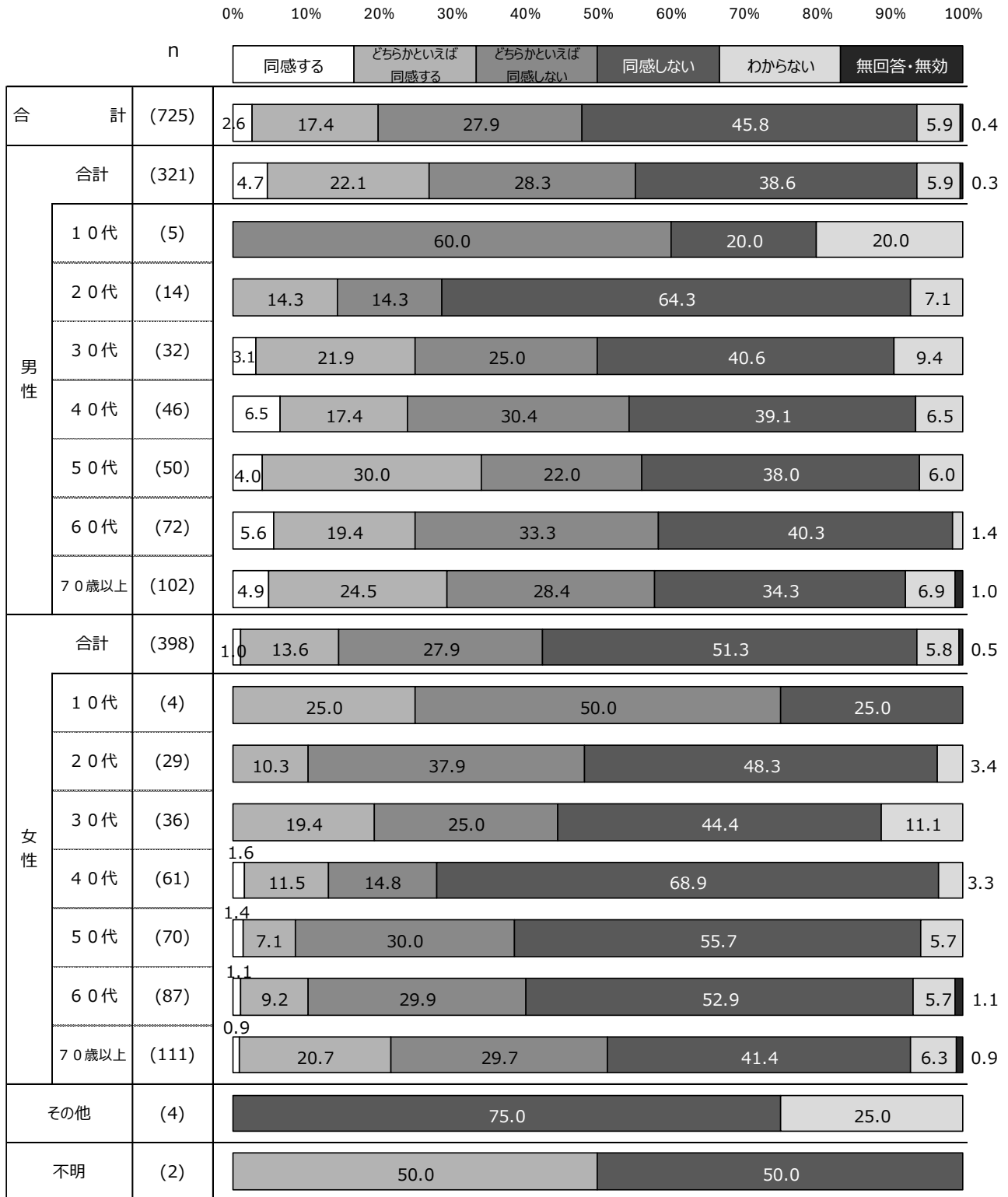
- ・前回調査よりも『同感しない』割合が11.1ポイント増加しています。



[男女別・男女年代別]

・『同感しない』割合は、男性が66.9%、女性は79.2%となっています。

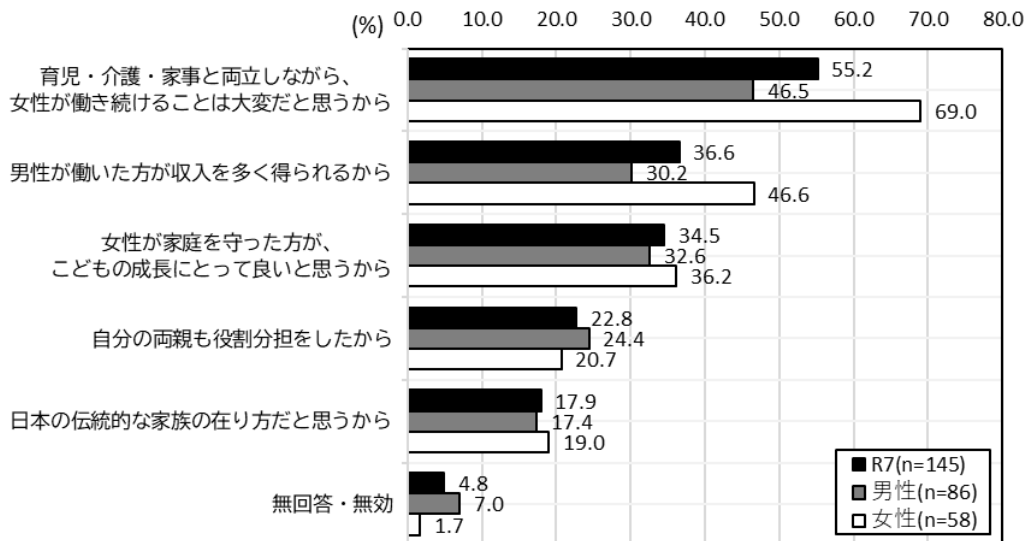
・男女年代別でみると、すべての年代で『同感しない』割合が『同感する』割合を上回っています。『同感しない』割合が特に多いのは、女性20代(86.2%)、女性50代(85.7%)、女性40代(83.7%)、女性60代(82.8%)となっています。



問3 問2で「1 同感する～4 同感しない」を選んだ方に伺います。その理由はなぜですか。  
(複数回答)

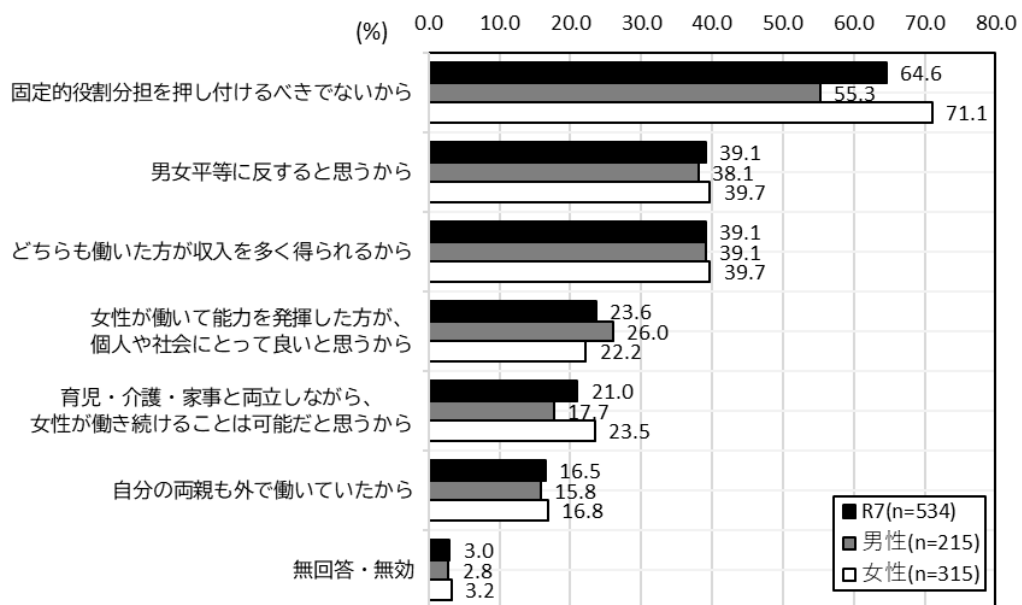
【1 同感する・2 どちらかといえば同感する】を選んだ方

- ・同感する理由は、「育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから」(55.2%)が最も高くなっています。
- ・男女別でみると、男性の2位は「女性が家庭を守った方が、こどもの成長にとって良いと思うから」(32.6%)ですが、女性の2位は「男性が働いた方が収入を多く得られるから」(46.6%)となっています。



【3 どちらかといえば同感しない・4 同感しない】を選んだ方

- ・同感しない理由は、「固定的役割分担を押し付けるべきでないから」(64.6%)が最も高くなっています。
- ・男女別でみると、男性の2位は「どちらも働いた方が収入を多く得られるから」(39.1%)、3位は「男女平等に反すると思うから」(38.1%)ですが、女性の2位は「男女平等に反すると思うから」(39.7%)、「どちらも働いた方が収入を多く得られるから」(39.7%)が同率となっています。



# ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について

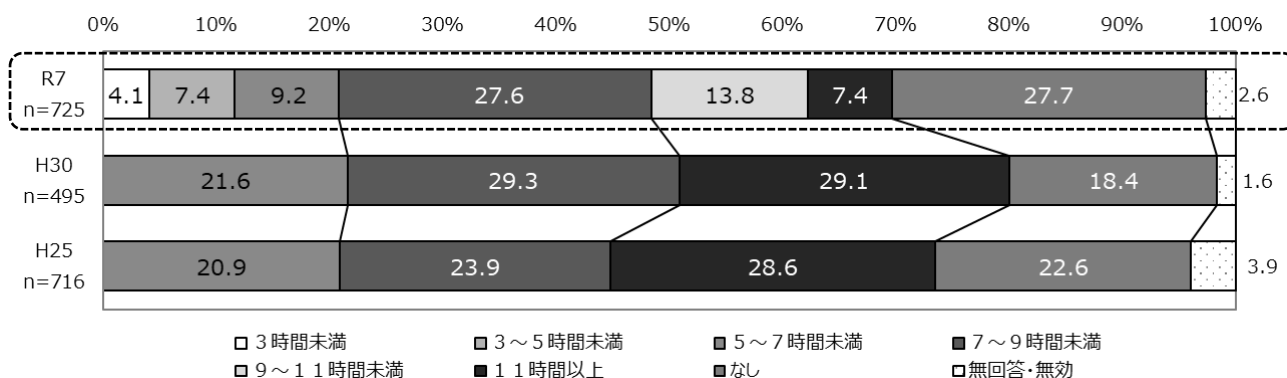
問4 1日のうちで、あなたが次のことに費やす時間は平均してどのくらいですか。

## (1) 仕事 (在宅勤務・通勤時間含む)

- ・1日のうちで仕事に費やす時間は、「7～9時間未満」(27.6%)が多く、次いで「9～11時間未満」(13.8%)となっています。(「なし」を除く)

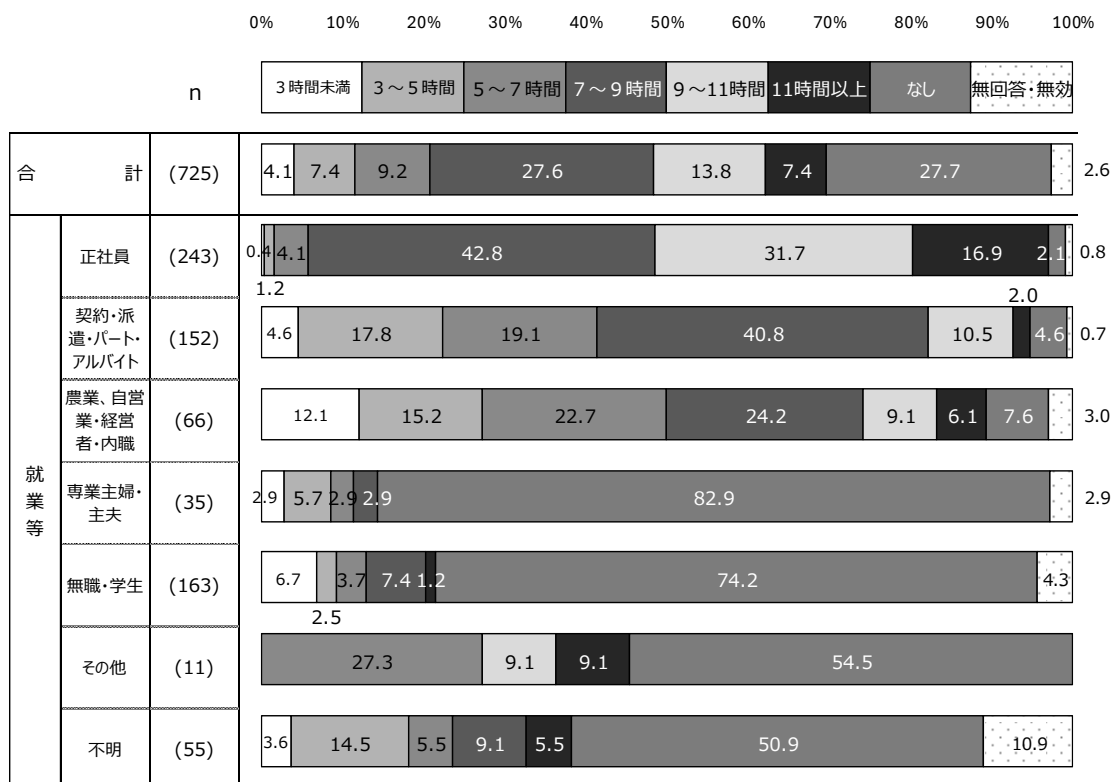
### [過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「なし」の割合が9.3ポイント増加しており、回答者の年齢構成で高齢者の割合が高くなっていることが要因と思われます。



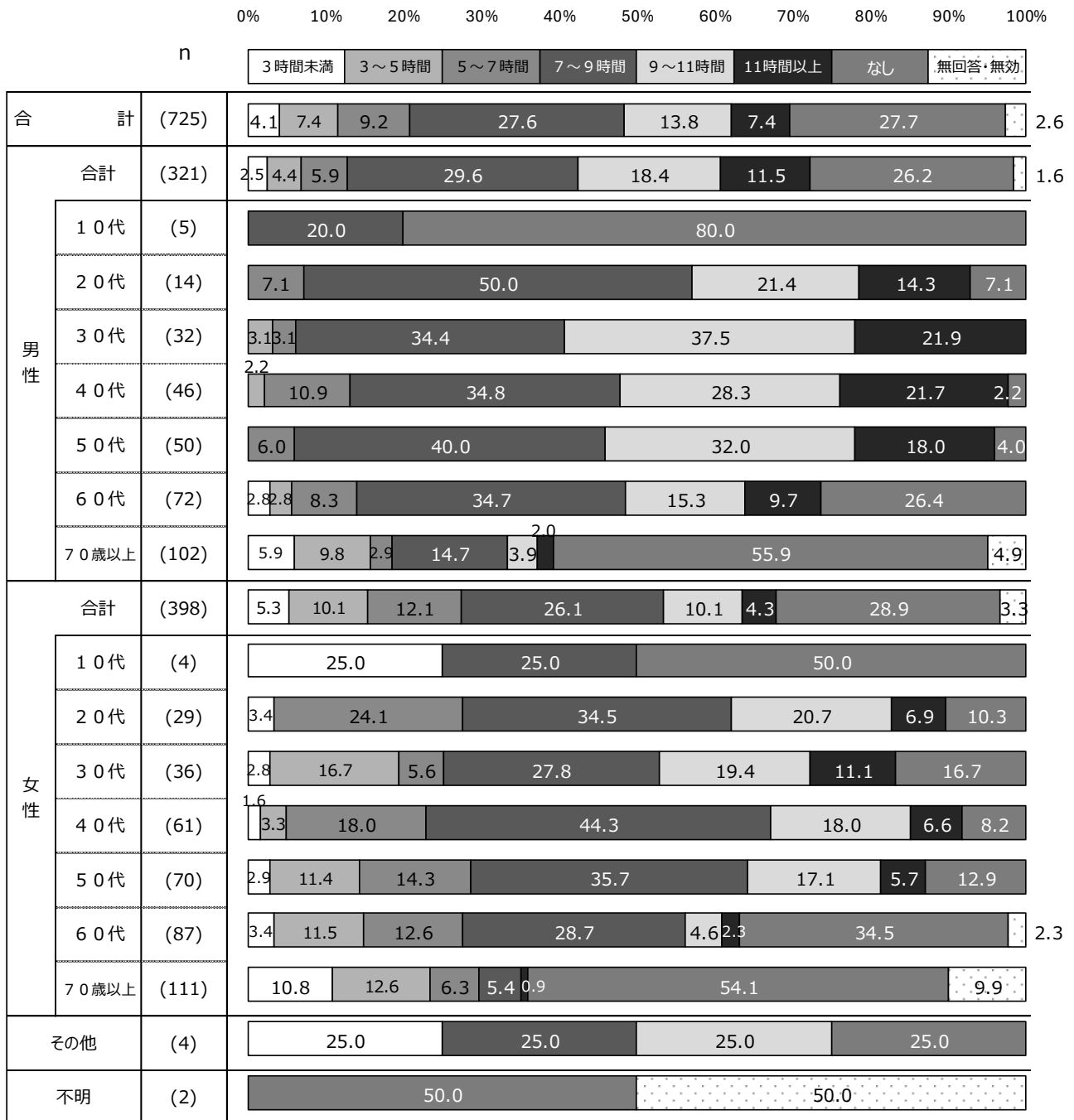
### [就業別]

- ・就業別でみると、正社員、契約社員・派遣社員・パート・アルバイト、農業、自営業・経営者・内職はいずれも「7～9時間未満」が最も高くなっています。



[男女別・男女年代別]

- ・男性は「7～9時間」(29.6%)が最も高く、次いで「9～11時間」(18.4%)となっています。(「なし」を除く)
- ・女性は「7～9時間」(26.1%)が多く、次いで「5～7時間」(12.1%)となっています。(「なし」を除く)
- ・男女年代別でみると、男性30代は「9～11時間未満」、20代と40～60代は「7～9時間未満」、70歳以上で「なし」が最も高くなっています。一方で、女性は20～50代まで「7～9時間未満」、60～70歳以上で「なし」が最も高くなっています。

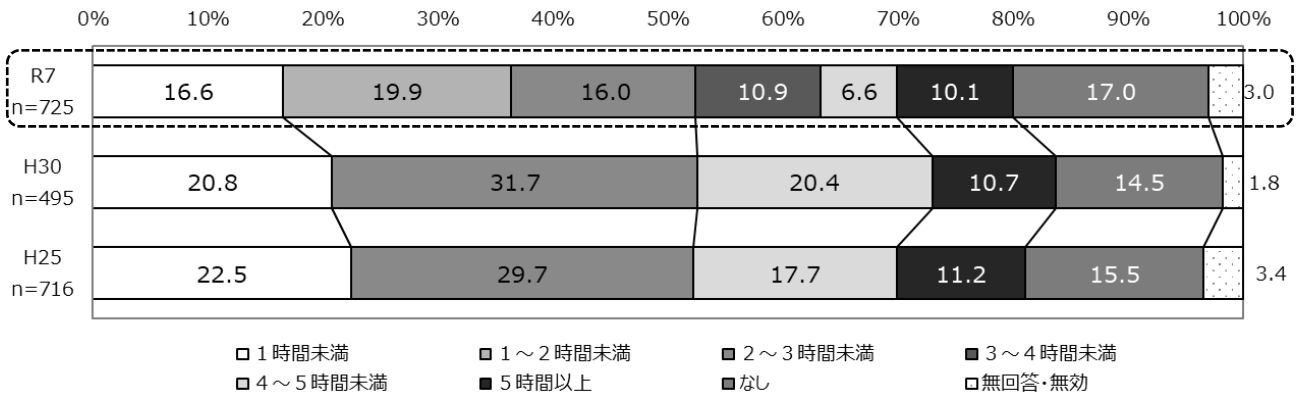


(2) 家事（育児・介護を含む）

- ・1日のうちで家事（育児・介護を含む）に費やす時間は、「1～2時間未満」（19.9%）が最も高く、次いで「1時間未満」（16.6%）となっています。（「なし」を除く）

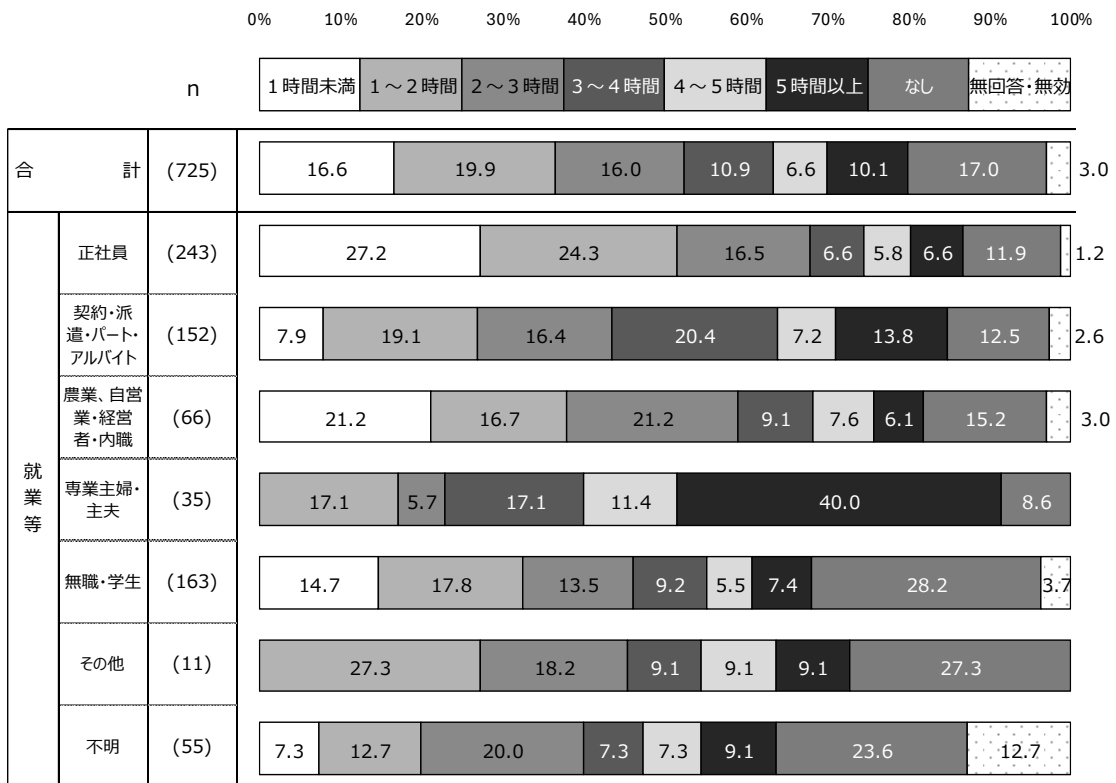
[過去調査との比較]

- ・前回調査よりも『1～3時間未満』の割合（「1～2時間未満」+「2～3時間未満」）がわずかながら4.2ポイント増加しています。



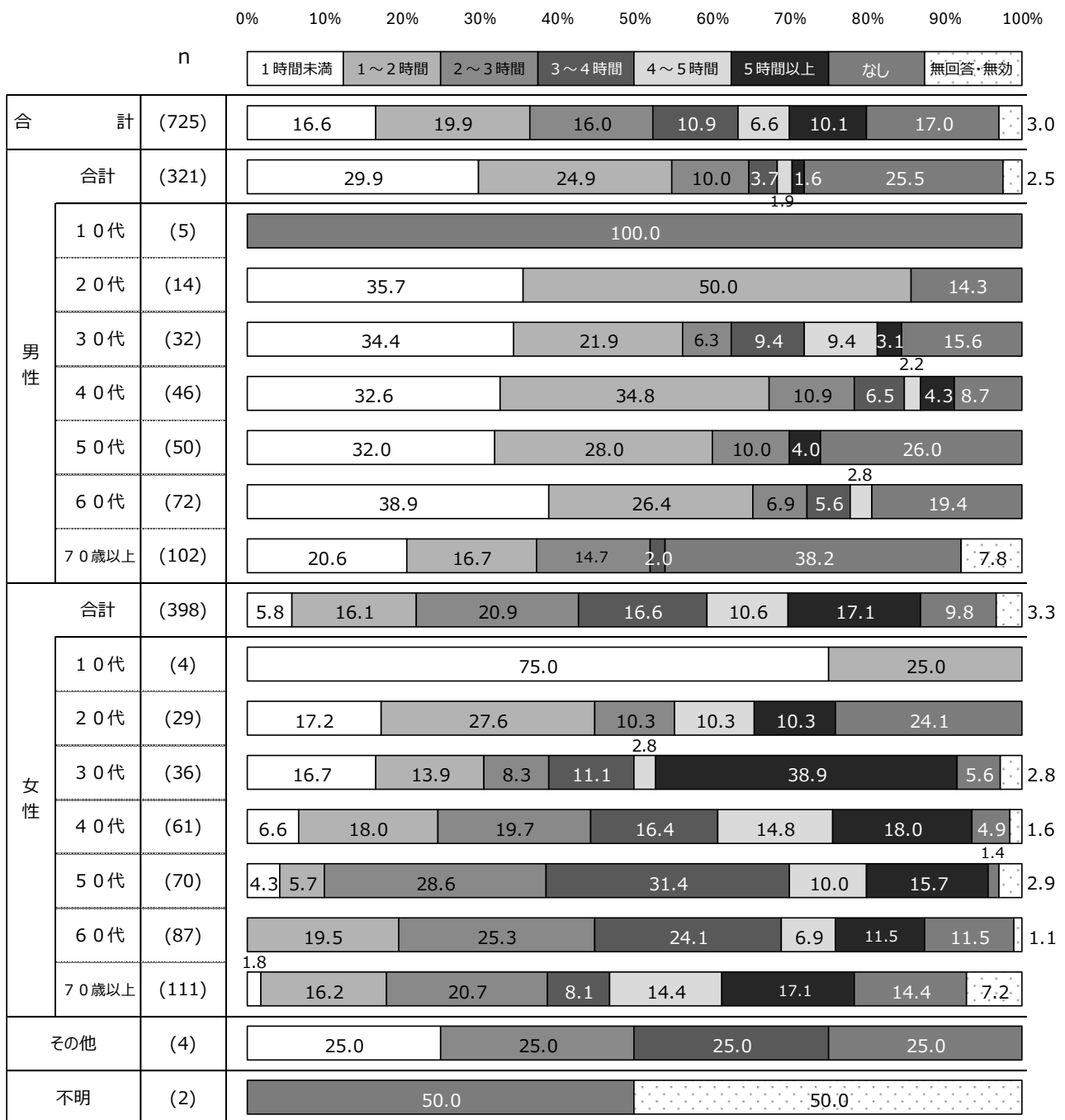
[就業別]

- ・就業別でみると、正社員は「1時間未満」、農業、自営業・経営者・内職は「1時間未満」「2～3時間」が同率、契約社員・派遣社員・パート・アルバイトは「3～4時間未満」、専業主婦・主夫は「5時間以上」が最も高くなっています。



[男女別・男女年代別]

- ・男性は「1時間未満」(29.9%)が最も高く、次いで「1～2時間」(24.9%)となっています。(「なし」を除く)
- ・女性は「2～3時間」(20.9%)が最も多く、次いで「5時間以上」(17.1%)、「3～4時間」(16.6%)となっており、男性と女性の家事の時間の差が顕著に現れています。
- ・男女年代別でみると、男性の20代と40代は「1～2時間未満」、30代と50～60代は「1時間未満」、70歳以上で「なし」が最も高くなっています。一方で、女性の30代は「5時間以上」、50代は「3～4時間」、40代と60～70歳以上は「2～3時間未満」、20代は「1～2時間未満」が最も高くなっています。

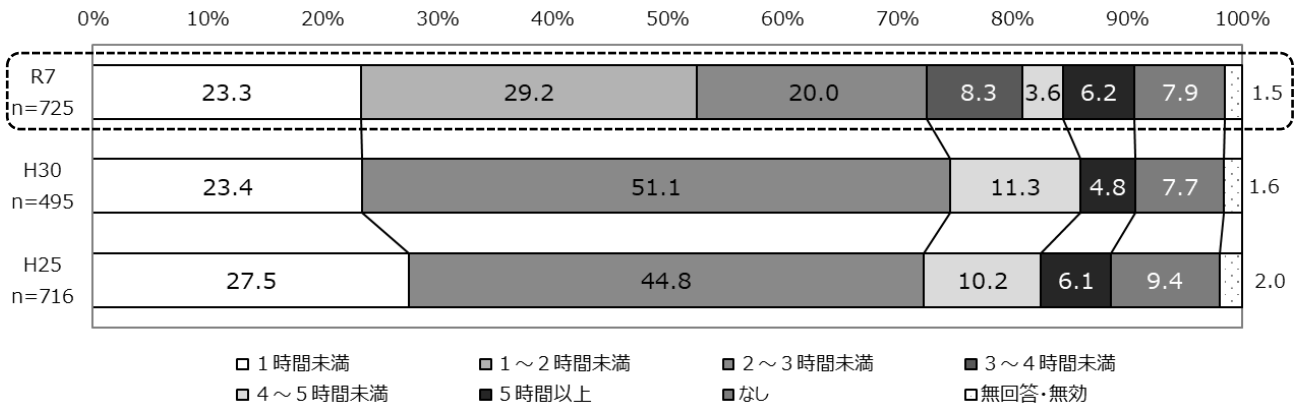


### (3) 趣味等の自分の時間

- ・1日のうちで趣味等の自分の時間に費やす時間は、「1～2時間未満」(29.2%)が最も高く、次いで「1時間未満」(23.3%)、「2～3時間未満」(20.0%)となっています。

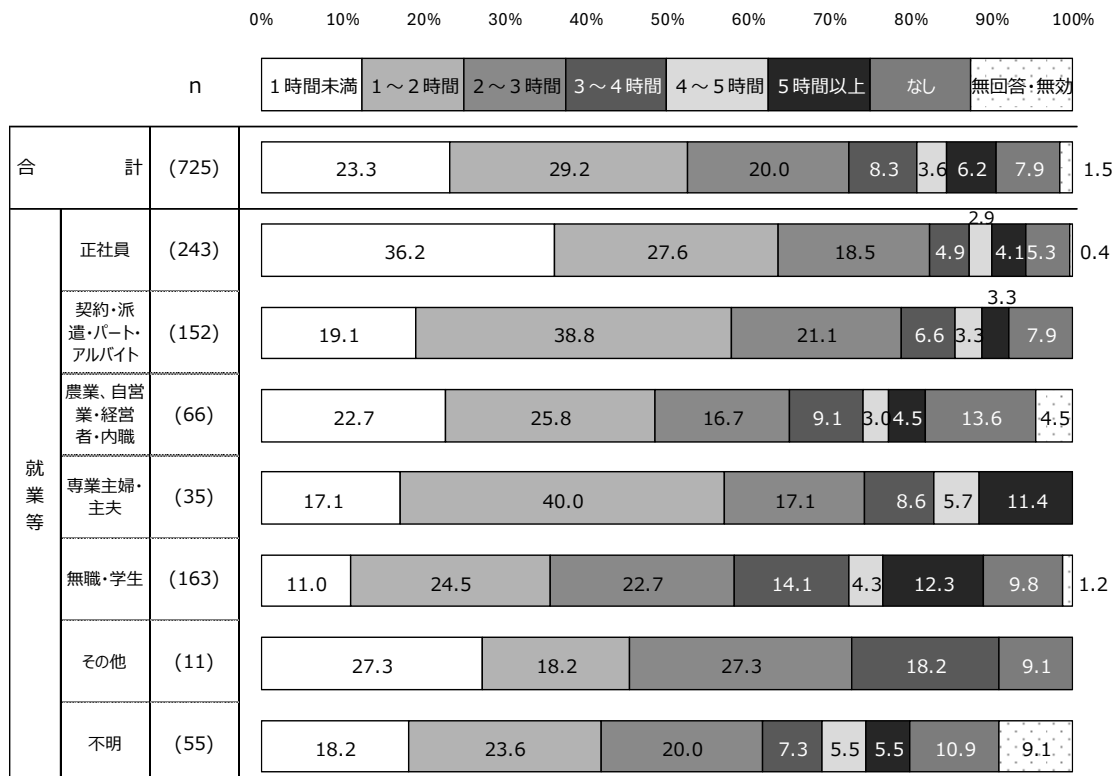
#### [過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「5時間以上」の割合がわずかながら1.4ポイント増加しています。



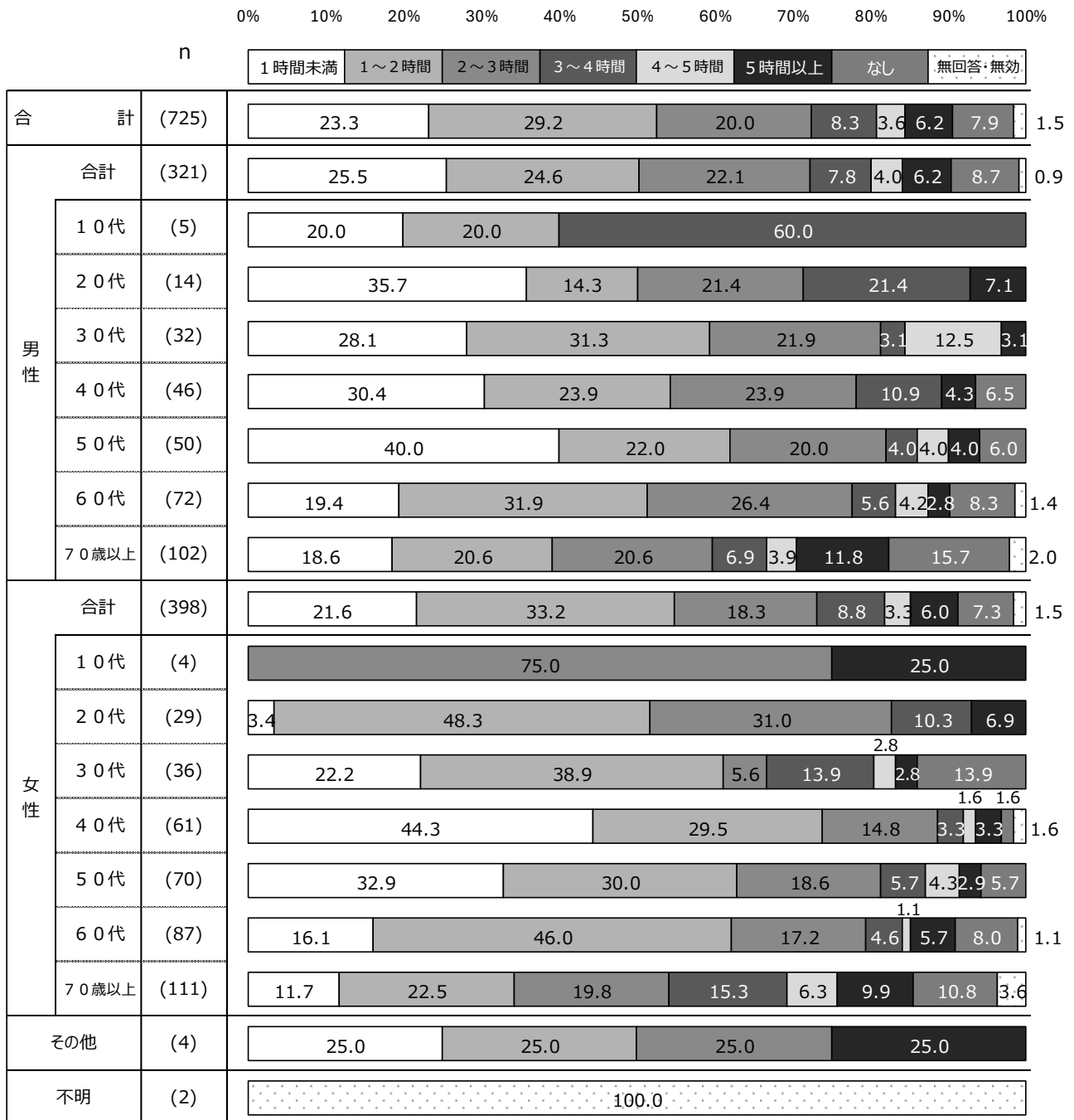
#### [就業別]

- ・就業別でみると、正社員は「1時間未満」、それ以外の属性では「1～2時間」が最も高くなっています。



[男女別・男女年代別]

- ・男性は「1時間未満」(25.5%)が最も高く、次いで「1～2時間」(24.6%)、「2～3時間」(22.1%)となっています。女性は「1～2時間」(33.2%)が最も多く、次いで「1時間未満」(21.6%)、「2～3時間」(18.3%)となっています。
- ・男女年代別でみると、男性は、20代と40～50代は「1時間未満」、30代と60代は「1～2時間未満」、70歳以上は「1～2時間未満」「2～3時間未満」が最も高くなっています。一方で、女性は、20～30代と60～70代は「1～2時間未満」、40～50代は「1時間未満」が最も高くなっています。

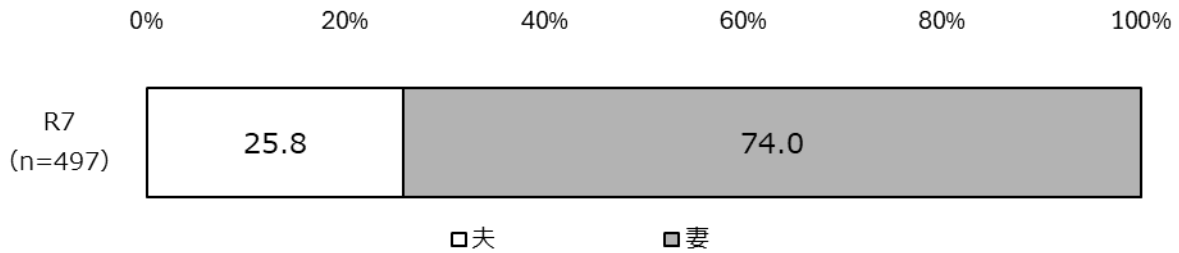


問5 配偶者（パートナー・事実婚含む）のいる方に伺います。夫婦で家事の分担はどのようにしていますか。全体を100パーセント(%)としてお答えください。

[平均値]

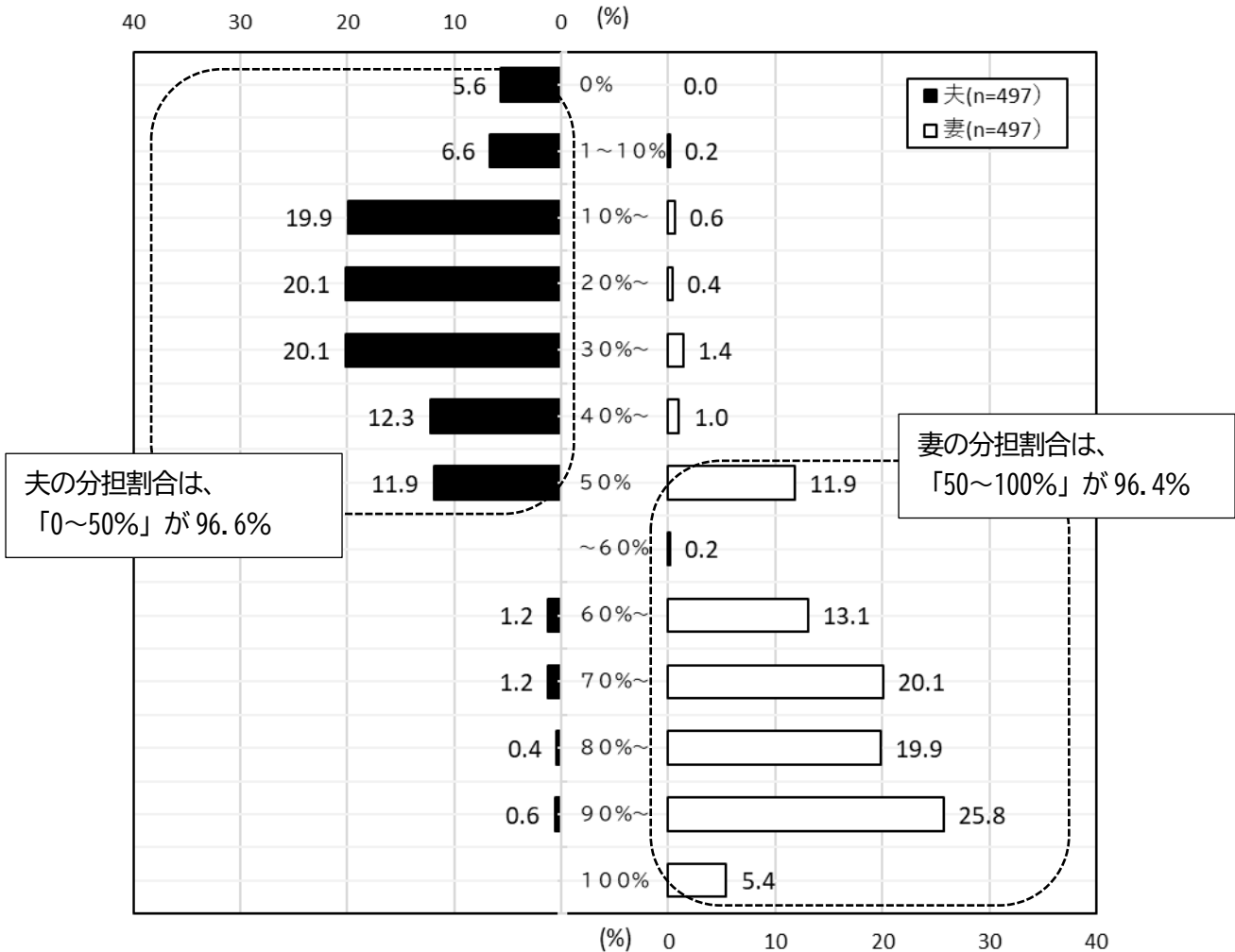
- 夫婦での家事の分担の割合を平均で算出すると、「夫」は25.8%、「妻」は74.0%となっています。

夫婦の家事の分担（全体平均）



[分担割合の傾向]

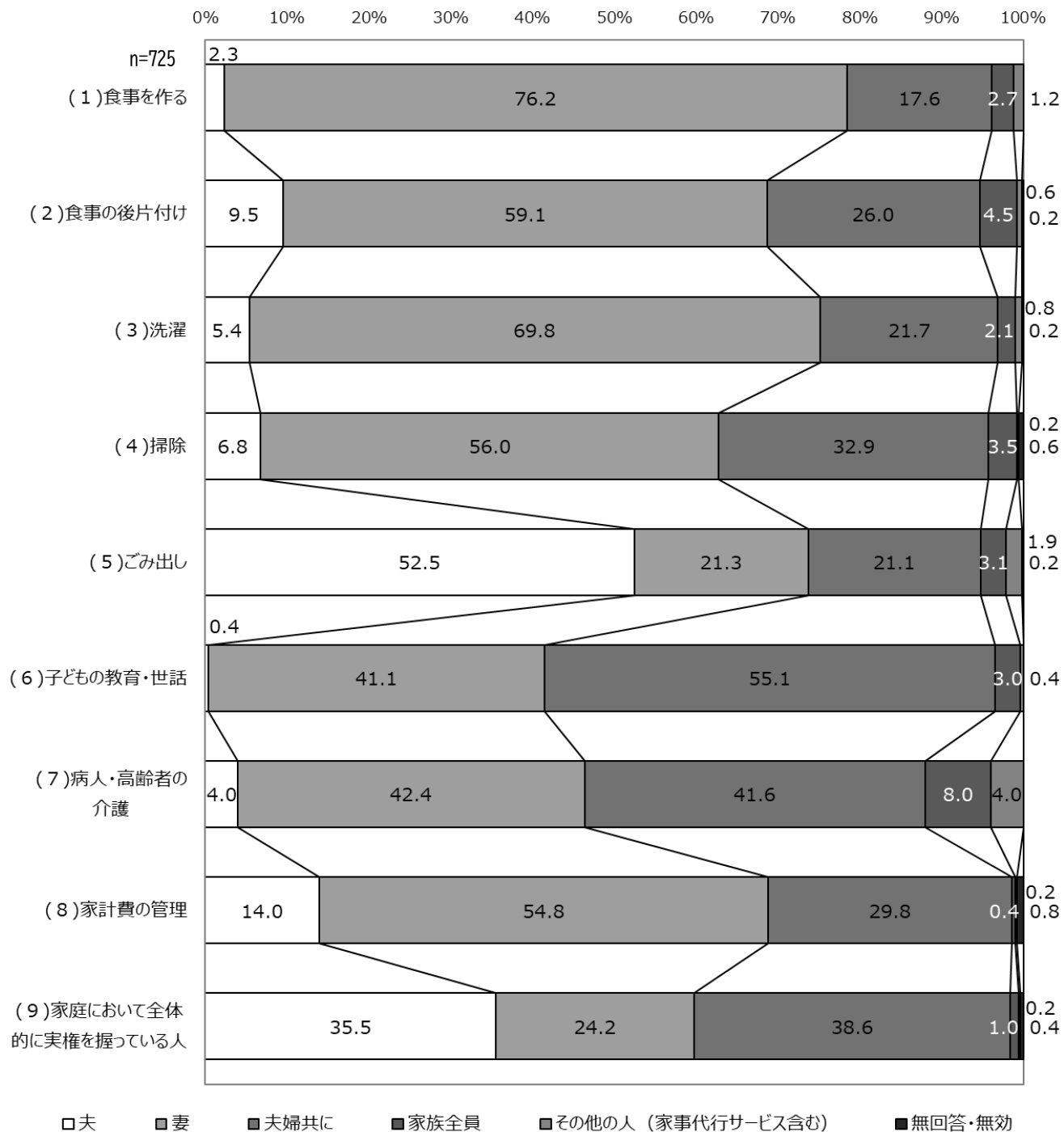
- 夫婦での家事の分担は、「夫」は2～4割（20.1%）、「妻」は9割以上の分担をする家庭（25.8%）が最も高くなっています。
- 全体を100%とした場合に、夫は「0～50%」（96.6%）、妻は「50～100%」（96.4%）の回答が多い傾向があります。



問6 配偶者（パートナー・事実婚含む）のいる方に伺います。あなたのご家庭では、次の項目は主に誰が分担していますか。

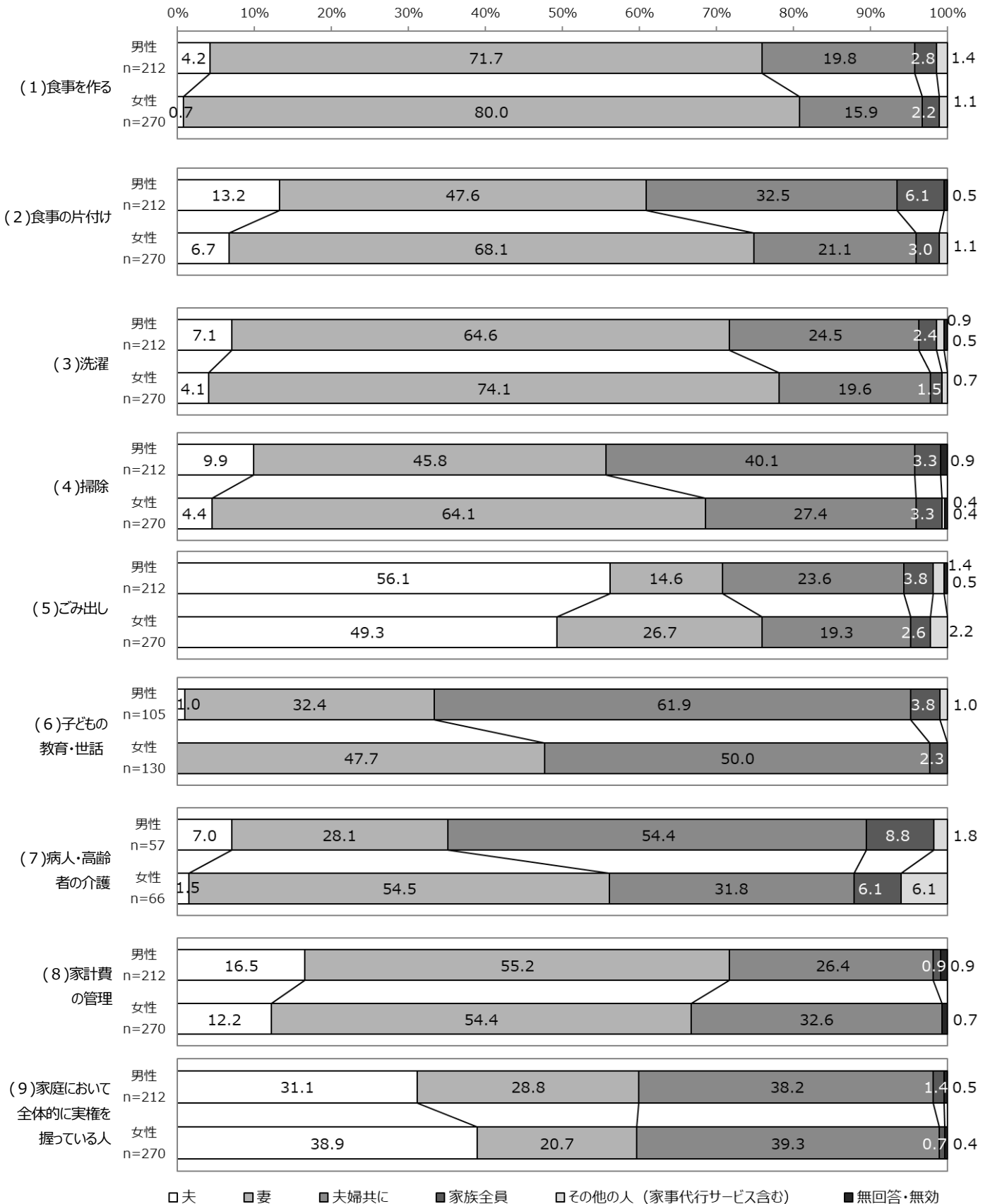
[全体]

・「(6) 子どもの教育・世話」(55.1%)と「(9) 家庭において全体的に実権を握っている人」(38.6%)の2項目は「夫婦共に」分担する割合が最も高く、「(5) ごみ出し」(52.5%)のみ「夫」、それ以外の項目は「妻」が最も高くなっています。



[全体男女別]

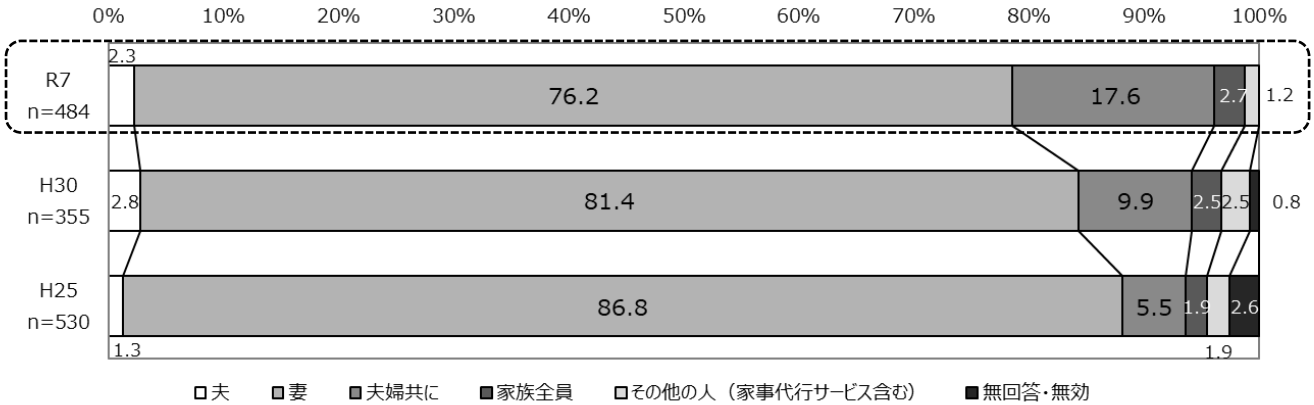
・男女別で見ると、特に男女で分担の差が大きいのは「(7)病人・高齢者の介護」の「妻」の割合が26.4ポイント差、「(2)食事の後片付け」が20.5ポイント差、「(4)掃除」が18.3ポイント差となっており、女性は「妻」としているのに対し、男性では「夫婦共に」分担しているとする割合が高くなっています。



[過去調査との比較]

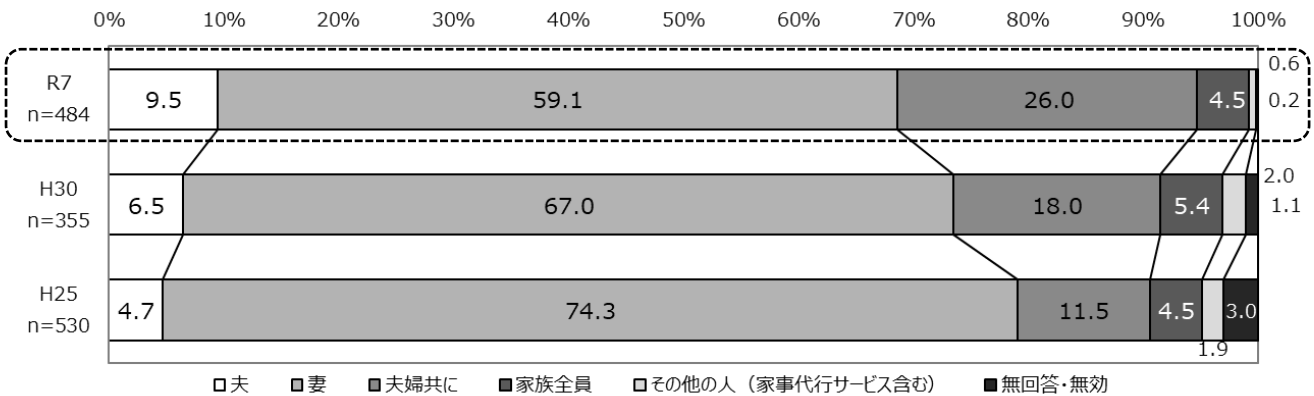
(1) 食事を作る

- ・ 食事を作るのは、「妻」(76.2%) が最も高く、次いで「夫婦共に」(17.6%) となっています。
- ・ 前回調査よりも「夫婦共に」の割合が7.7ポイント増加しています。



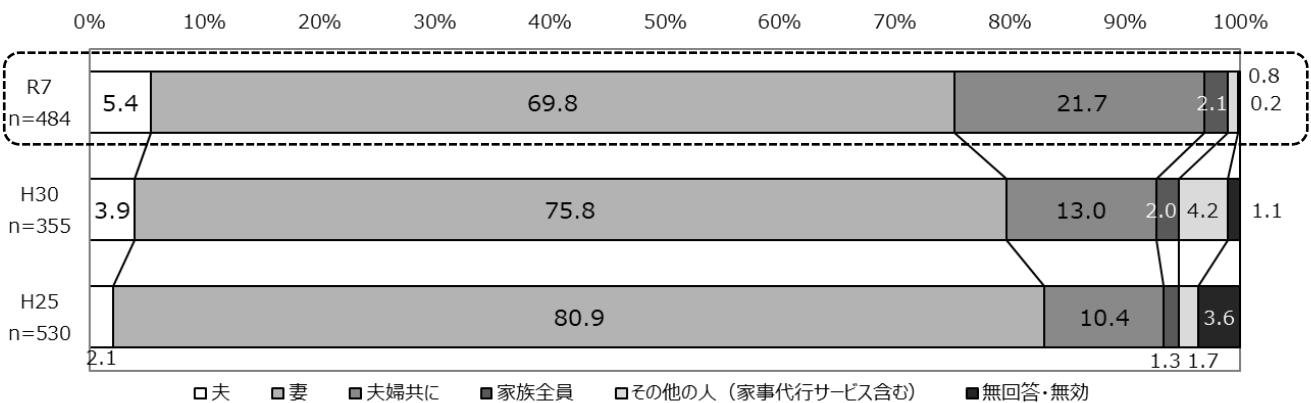
(2) 食事の後片付け

- ・ 食事の後片付けは、「妻」(59.1%) が最も高く、次いで「夫婦共に」(26.0%) となっています。
- ・ 前回調査よりも「夫婦共に」の割合が8.0ポイント、「夫」がわずかながら3.0ポイント増加しています。



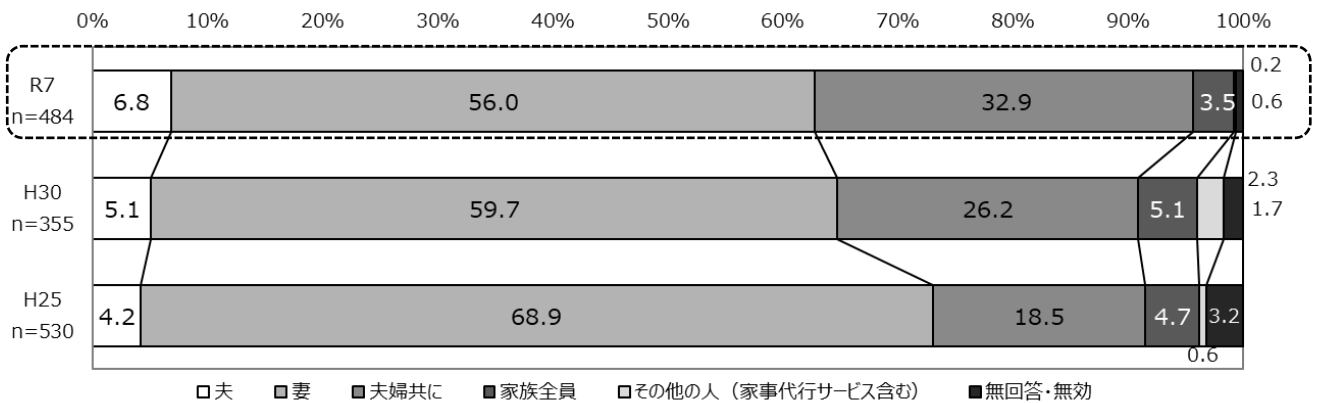
(3) 洗濯

- ・ 洗濯は、「妻」(69.8%) が最も高く、次いで「夫婦共に」(21.7%) となっています。
- ・ 前回調査よりも「夫婦共に」の割合が8.7ポイント、「夫」がわずかながら1.5ポイント増加しています。



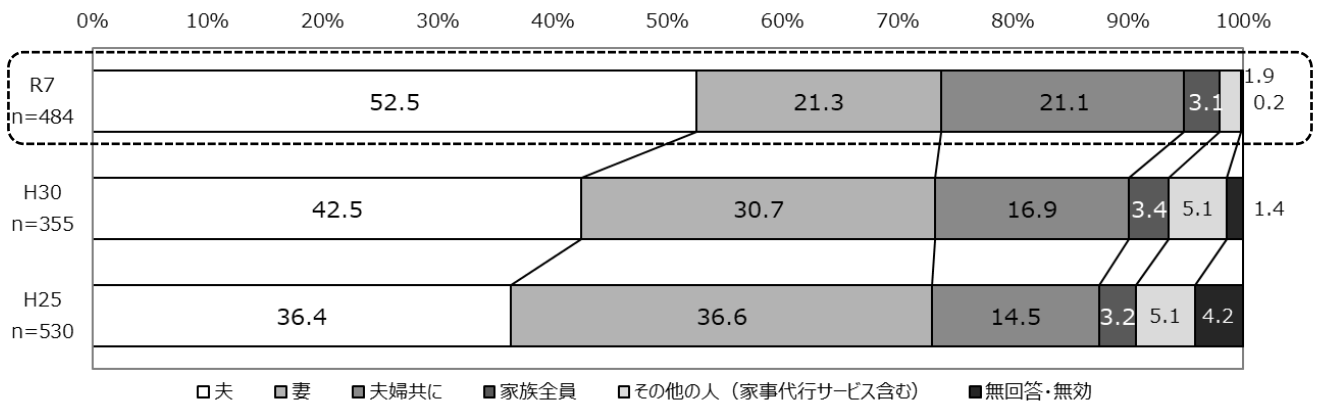
#### (4) 掃除

- ・掃除は、「妻」(56.0%) が最も高く、次いで「夫婦共に」(32.9%) となっています。
- ・前回調査よりも「夫婦共に」の割合が6.7ポイント、「夫」がわずかながら1.7ポイント増加しています。



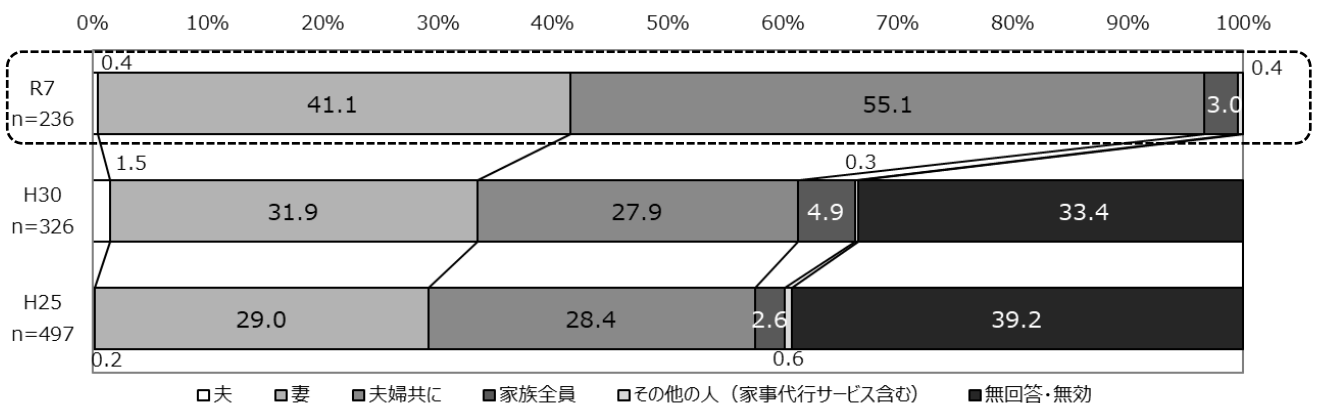
#### (5) ごみ出し

- ・ごみ出しは、「夫」(52.5%) が最も高く、次いで「妻」(21.3%) となっています。
- ・前回調査よりも「夫」の割合が10.0ポイント、「夫婦共に」が4.2ポイント増加しています。



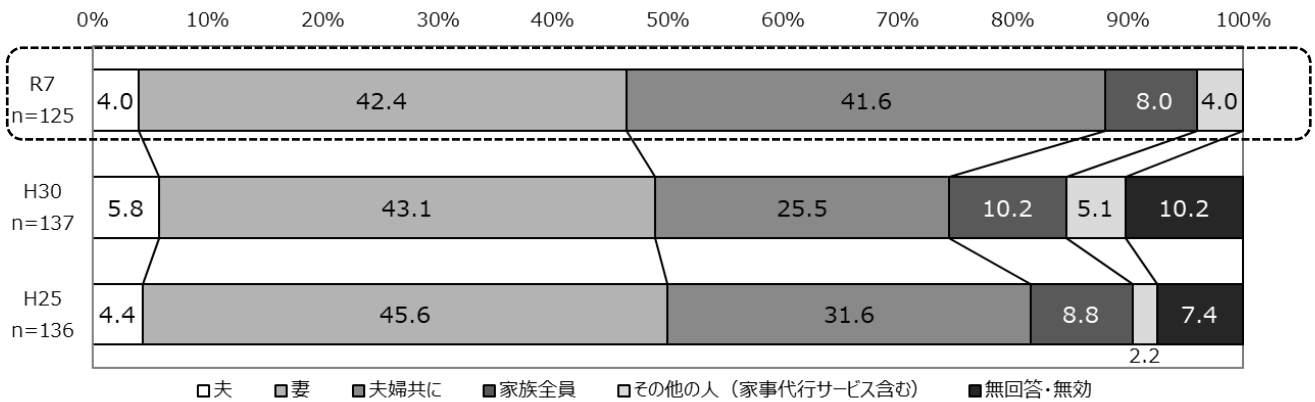
#### (6) 子どもの教育・世話 (子どもがいる方のみ)

- ・子どもの教育・世話は、「夫婦共に」(55.1%) が最も高く、次いで「妻」(41.1%) となっています。
- ・前回調査よりも「夫婦共に」の割合が27.2ポイントと大きく増加し、「妻」も9.2ポイント増加しています。



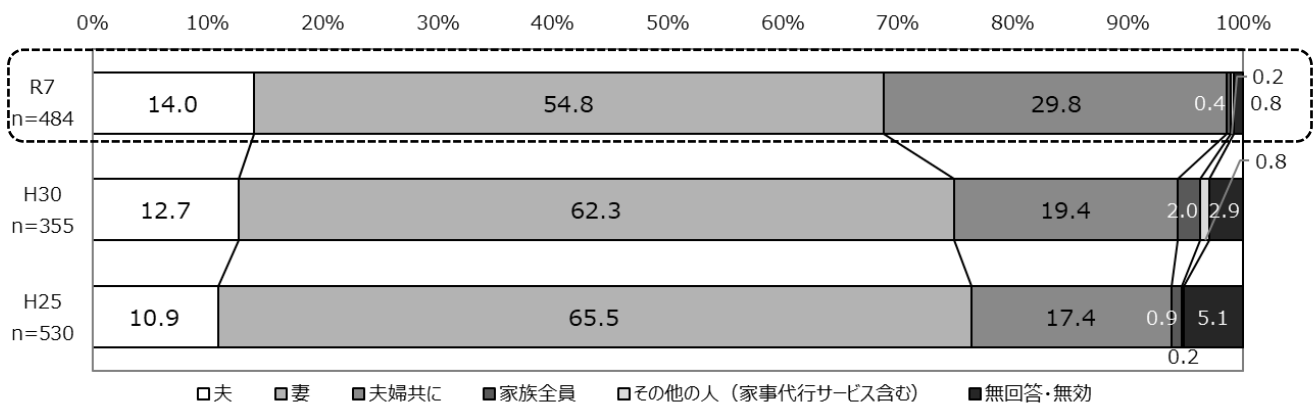
### (7) 病人・高齢者の介護（対象者がいる方のみ）

- ・病人・高齢者の介護は、「妻」（42.4%）が最も高いものの、「夫婦共に」（41.6%）も同程度の割合となっています。
- ・前回調査よりも「夫婦共に」の割合が16.1ポイント増加しています。



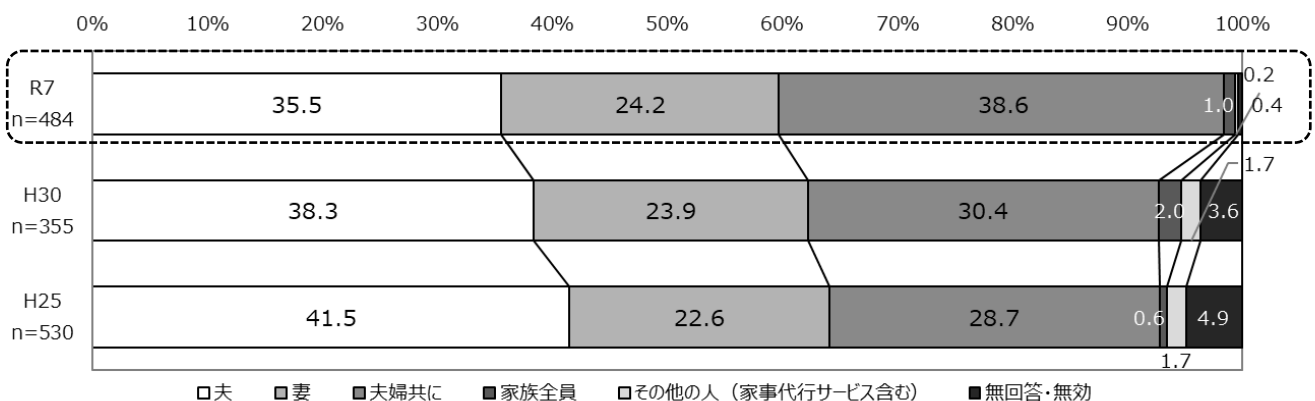
### (8) 家計費の管理

- ・家計費の管理は、「妻」（54.8%）が最も高く、次いで「夫婦共に」（29.8%）となっています。
- ・前回調査よりも「夫婦共に」の割合が10.4ポイント、「夫」がわずかながら1.3ポイント増加しています。



### (9) 家庭において全体的に実権を握っている人

- ・家庭において全体的に実権を握っている人は、「夫婦共に」（38.6%）が最も高く、次いで「夫」（35.5%）となっており、これまで男性が握っていた実権は夫婦でもつ形へと変化しています。
- ・前回調査よりも「夫婦共に」の割合が8.2ポイント、「妻」がわずかながら0.3ポイント増加しています。

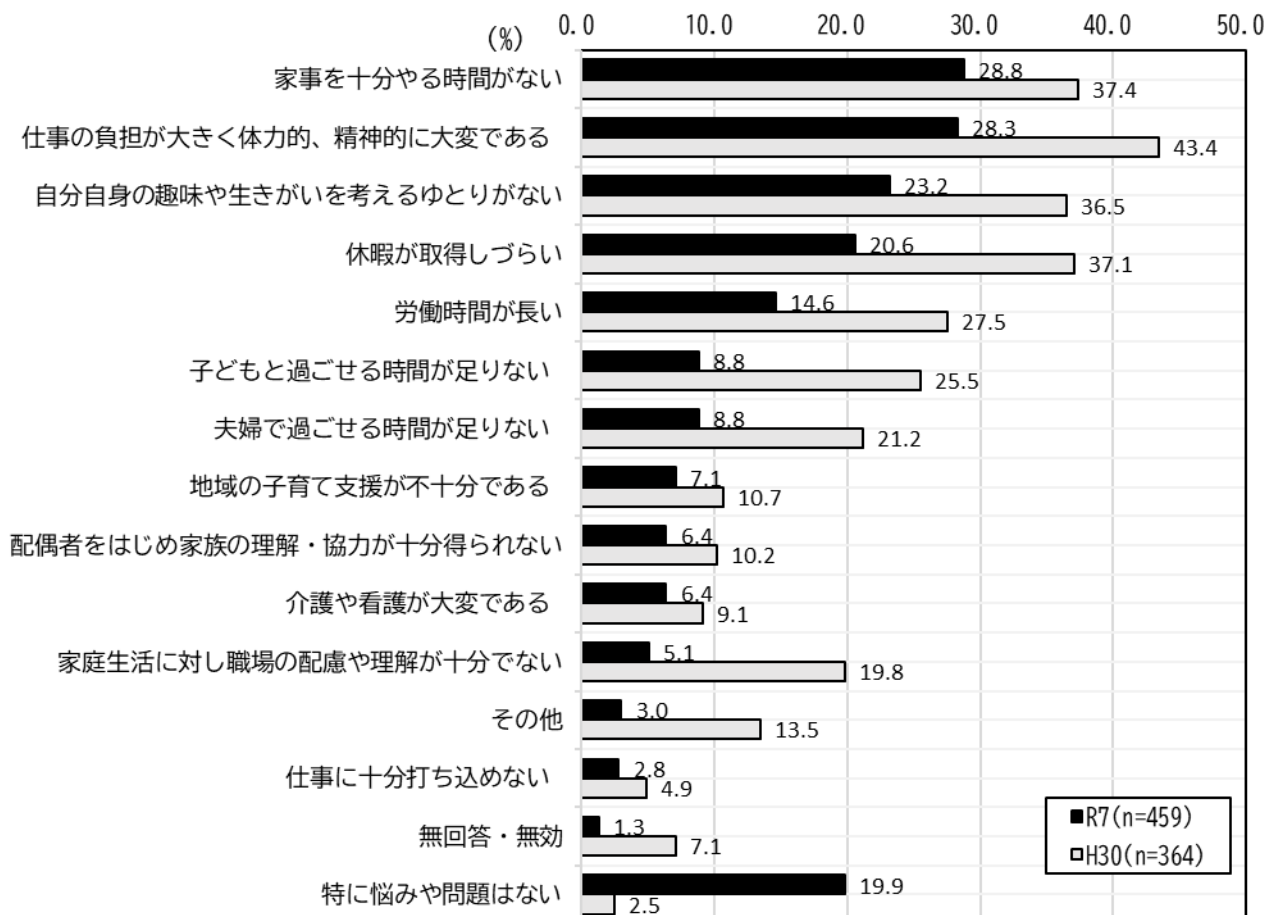


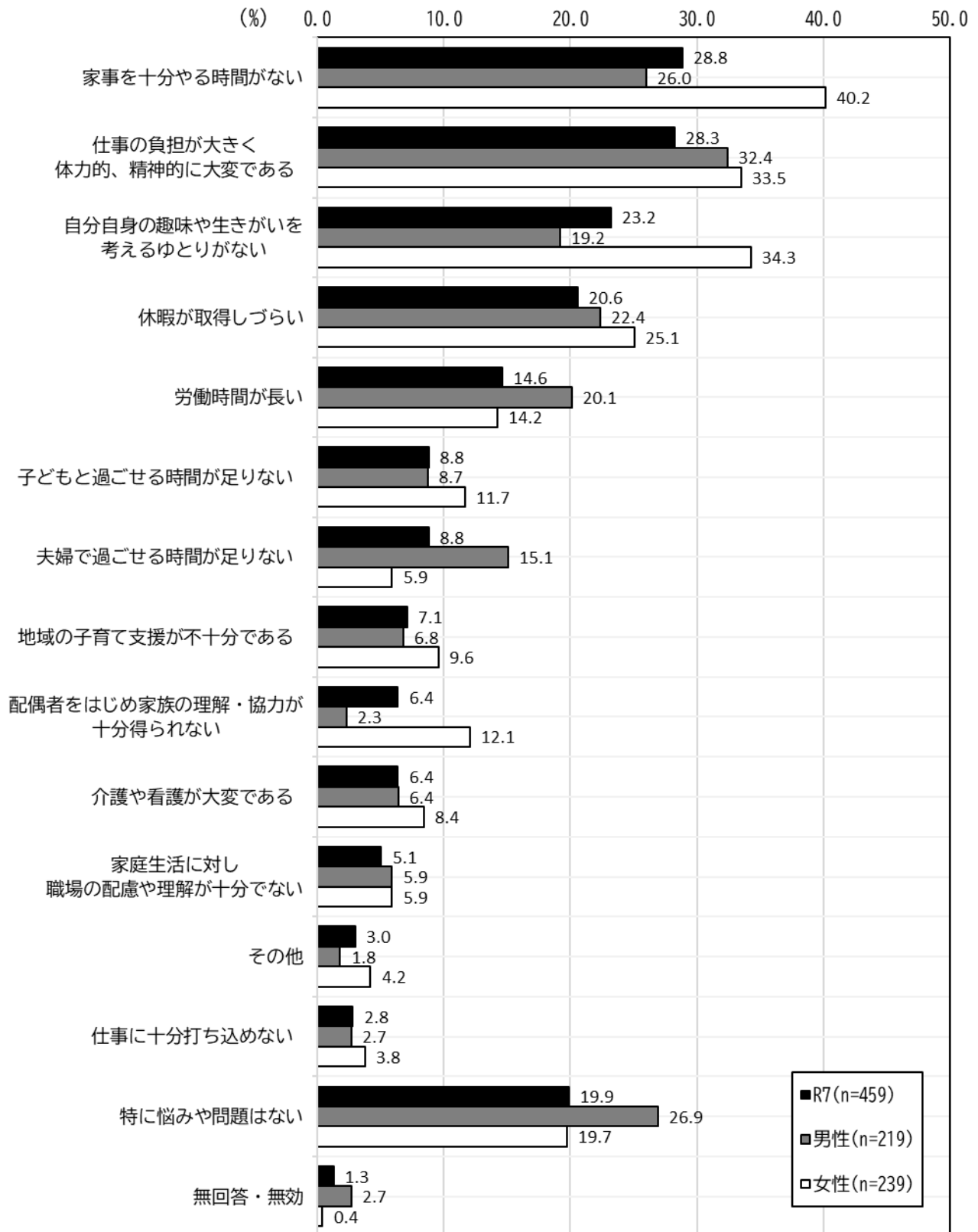
問7 現在働いている方に伺います。仕事と家庭生活を両立させる上での悩み、問題は何ですか。  
(複数回答)

- ・仕事と家庭生活を両立させる上での悩み、問題は、「家事を十分やる時間がない」(28.8%)が最も高く、次いで「仕事の負担が大きく体力的、精神的に大変である」(28.3%)、「自分自身の趣味や生きがいを考えるゆとりがない」(23.2%)となっています。

[男女別・過去調査との比較]

- ・前回調査よりもいずれの悩みや問題の割合が減少しており、「特に悩みや問題はない」が前回調査(2.5%)から今回調査(19.9%)になり、17.4ポイント増加しています。
- ・男性は、「仕事の負担が大きく体力的、精神的に大変である」(32.4%)が最も高く、次いで「特に悩みや問題はない」(26.9%)、「家事を十分やる時間がない」(26.0%)となっています。女性は、「家事を十分にやる時間がない」(40.2%)が最も高く、次いで「自分自身の趣味や生きがいを考えるゆとりがない」(34.3%)、「仕事の負担が大きく体力的、精神的に大変である」(33.5%)となっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「自分自身の趣味や生きがいを考えるゆとりがない」が15.1ポイント差、「家事を十分やる時間がない」が14.2ポイント差となっており、いずれも女性が男性を上回っています。





その他：仕事の悩みや問題（通勤時間、収入面、休暇取得で評価が下がる、ハラスメント） など

[男女年代別・就業別]

- ・男女年代別でみると、男性で1番目に高い「仕事の負担が大きく体力的、精神的に大変である」は男性30代(43.8%)で特に高く、女性で1番目に高い「家事を十分やる時間がない」は女性20代(52.4%)や40代(54.5%)で特に高くなっています。
- ・前回調査よりも増加した「特に悩みや問題はない」は、70歳以上男性(56.3%)、70歳以上女性(65.0%)で高くなっています。
- ・男女別で特に差が大きかった「自分自身の趣味や生きがいを考えるゆとりがない」は、女性30代(40.0%)が高くなっています。
- ・就業別でみると、正社員は「仕事の負担が大きく体力的、精神的に大変である」(39.7%)、「家事を十分やる時間がない」(38.8%)などが全体より高くなっています。

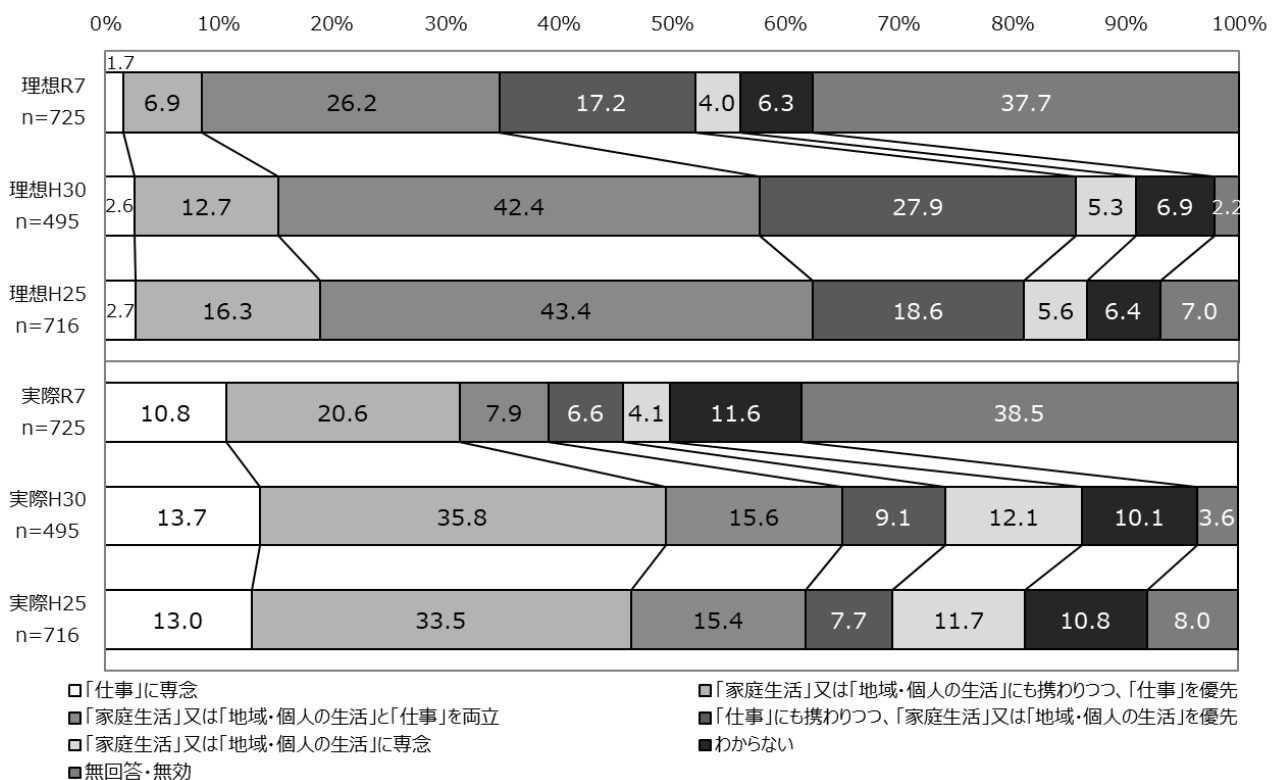
		n	家事を十分やる時間がない	仕事の精神的負担が大きく体力的	地域の子育て支援が不十分である	配偶者をはじめ家族の理解・協力が十分でない	家庭生活に十分な職場の配慮がない	自分自身の趣味や生きがい	子どもと過ごせる時間が足りない	夫婦で過ごせる時間が足りない	介護や看護が大変である	仕事に十分打ち込めない	労働時間が長い	休暇が取得しづらい	特に悩みや問題はない	その他	無回答・無効
合計		459	33.6	32.9	8.3	7.4	5.9	27.0	10.2	10.2	7.4	3.3	17.0	24.0	23.1	3.1	1.5
男性	20代	13	15.4	38.5		7.7	15.4	30.8	15.4	15.4	7.7		23.1	23.1			
	30代	32	34.4	43.8	18.8		6.3	28.1	12.5	12.5	6.3	15.6	25.0	34.4	15.6	3.1	
	40代	45	37.8	35.6	8.9		6.7	13.3	15.6	15.6			20.0	17.8	20.0	4.4	4.4
	50代	49	30.6	28.6	6.1	4.1	6.1	30.6	4.1	16.3	14.3		22.4	24.5	16.3	2.0	2.0
	60代	48	20.8	35.4	2.1	4.2	6.3	8.3	4.2	14.6	8.3		18.8	20.8	39.6		
	70歳以上	32	6.3	15.6	3.1			12.5	6.3	15.6		3.1	12.5	15.6	56.3		9.4
女性	20代	21	52.4	38.1	19.0	4.8	14.3	28.6	4.8		4.8	19.0	14.3	19.0	14.3	4.8	
	30代	30	40.0	43.3	23.3	10.0	3.3	40.0	26.7	20.0	3.3	10.0	23.3	30.0	13.3	3.3	
	40代	55	54.5	25.5	14.5	21.8	5.5	36.4	29.1	7.3	3.6	3.6	14.5	34.5	7.3	3.6	
	50代	61	42.6	41.0	3.3	13.1	6.6	37.7	4.9	4.9	11.5	1.6	16.4	26.2	18.0	4.9	
	60代	52	30.8	30.8	3.8	7.7	5.8	36.5		1.9	17.3	3.8	9.6	19.2	21.2	1.9	
	70歳以上	20	5.0	20.0		5.0		10.0			5.0			15.0	65.0		
その他		1	100.0										100.0				
就業等	正社員	237	38.8	39.7	9.7	5.5	8.9	27.8	15.2	12.2	7.2	3.0	23.6	26.6	15.6	3.4	1.3
	契約・派遣・パート・アルバイト	140	31.4	23.6	7.9	11.4	2.9	26.4	4.3	6.4	10.0	2.1	8.6	20.0	28.6	2.1	0.7
	農業、自営業・経営者・内職	53	24.5	26.4	3.8	7.5	0.0	28.3	3.8	13.2	3.8	7.5	11.3	20.8	37.7	3.8	1.9
	無職・学生	9	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	66.7	0.0	11.1
	その他	5	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	40.0	40.0	0.0	20.0	0.0
	不明	15	20.0	46.7	13.3	6.7	6.7	26.7	20.0	6.7	0.0	6.7	13.3	33.3	20.0	0.0	6.7

問8 「仕事」、「家庭生活（家事・育児・介護・看護など）」、「地域・個人の生活（趣味含む）」の状況について、理想はどうか。また、実際はどうか。現在、仕事を行っていない方は今後のお考えをお答えください。

- ・理想の状況は、「無回答」（37.7%）を除くと、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立（26.2%）が最も高く、次いで『仕事』にも携わりつつ、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』を優先（17.2%）となっています。
- ・実際の状況は「無回答」（38.5%）を除くと、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先（20.6%）が最も高く、次いで「わからない」（11.6%）となっています。

[過去調査との比較]

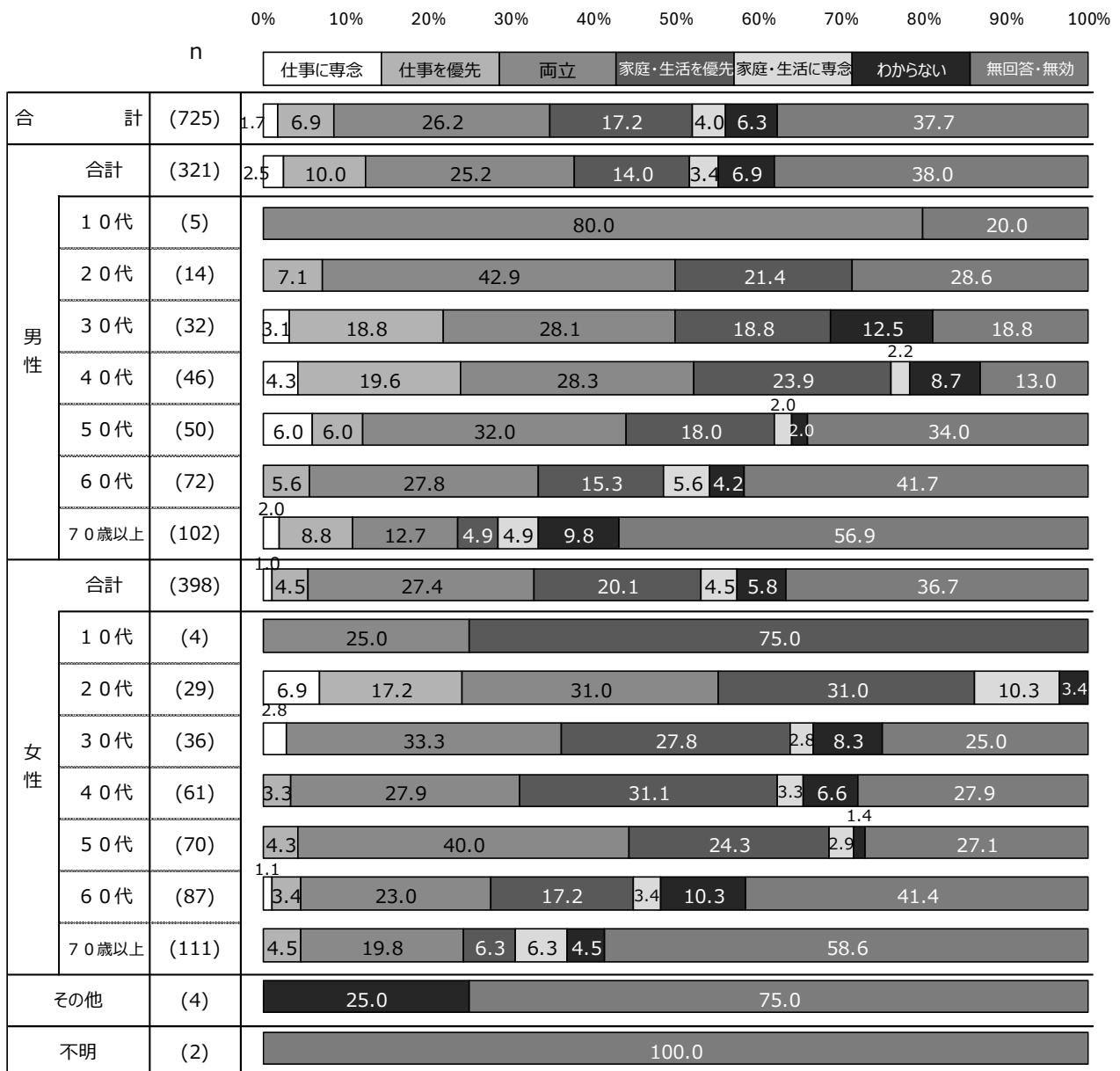
- ・理想の状況は、前回調査よりも『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立は16.2ポイント、『仕事』にも携わりつつ、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』を優先が10.7ポイント減少しています。
- ・実際の状況は、前回調査よりも『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先が15.2ポイント減少しています。



[男女年代別（理想）]

① 理想の状況

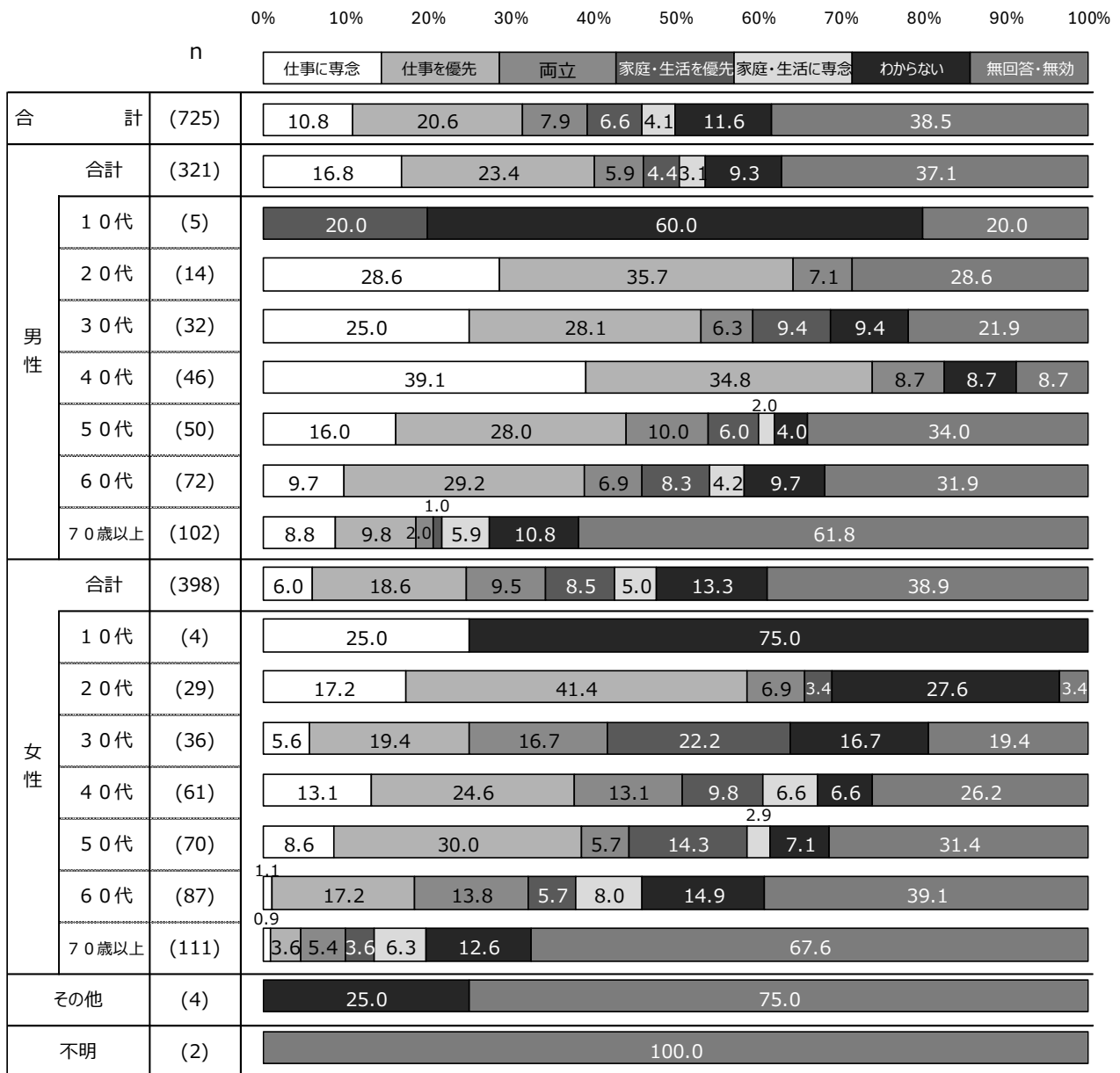
- ・男女ともに「無回答・無効」（男性 38.0%、女性 36.7%）を除くと、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立（男性 25.2%、女性 27.4%）が最も高く、次いで『仕事』にも携わりつつ、『家庭生活』又は『地域・個人の生活』を優先（男性 14.0%、女性 20.1%）となっています。
- ・全体で2番目に高い『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立をみると、男性 20代~40代と女性 30代・50代で特に高い割合になっています。
- ・男女ともに退職後のシニア世代（60代~70歳以上）で無回答が高い割合となっています。



【男女年代別（実際）】

② 実際の状況

- ・男女ともに「無回答・無効」（男性 37.1%、女性 38.9%）を除くと『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先」（男性 23.4%、女性 18.6%）が最も高く、次に男性は『仕事』に専念」（16.8%）、女性は「わからない」（13.3%）となっています。
- ・全体で2番目に高い『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先」をみると、男性 20~30 代、女性 20 代で特に高い割合になっています。
- ・男女ともに退職後のシニア世代（70 歳以上）で無回答が高い割合となっています。

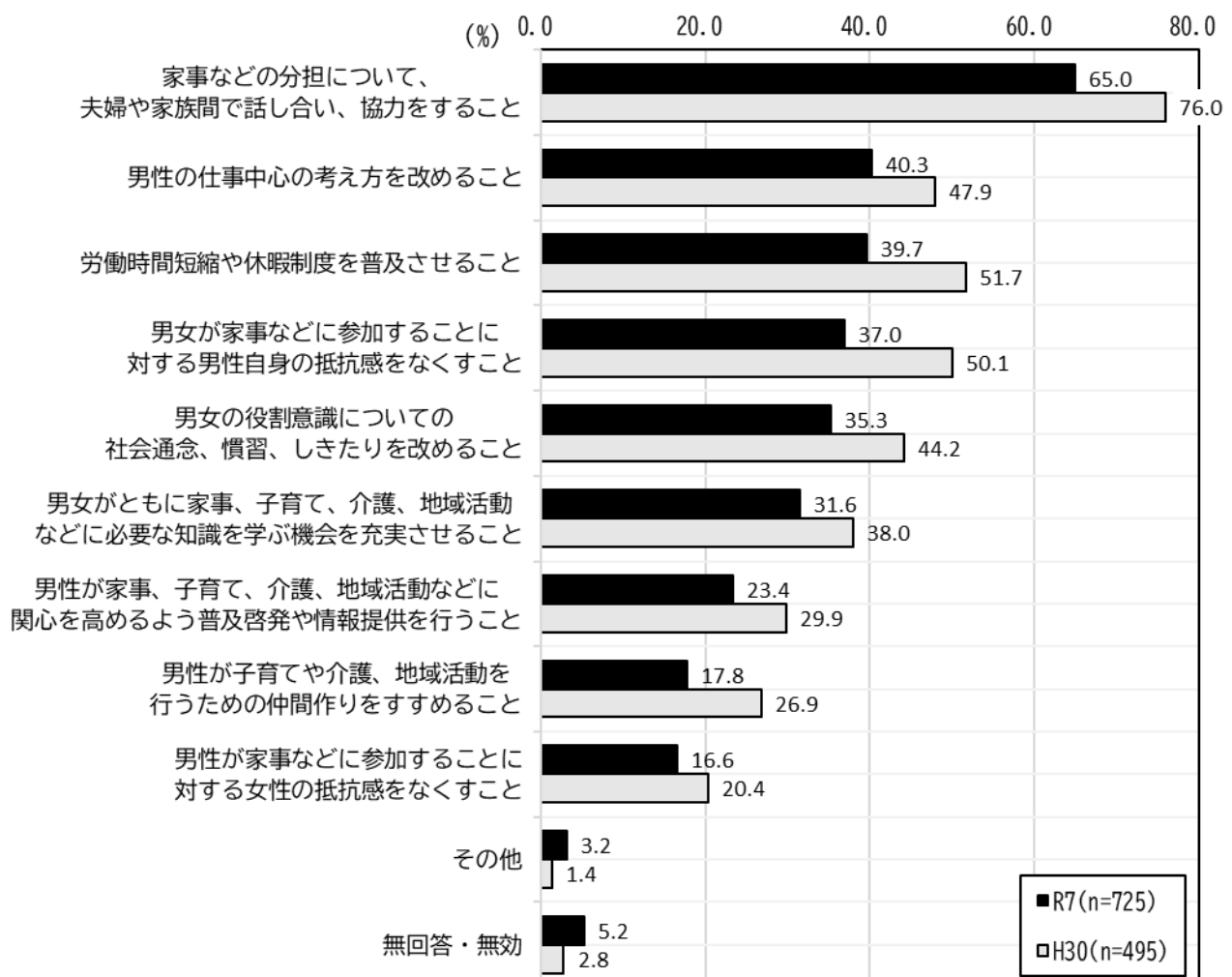


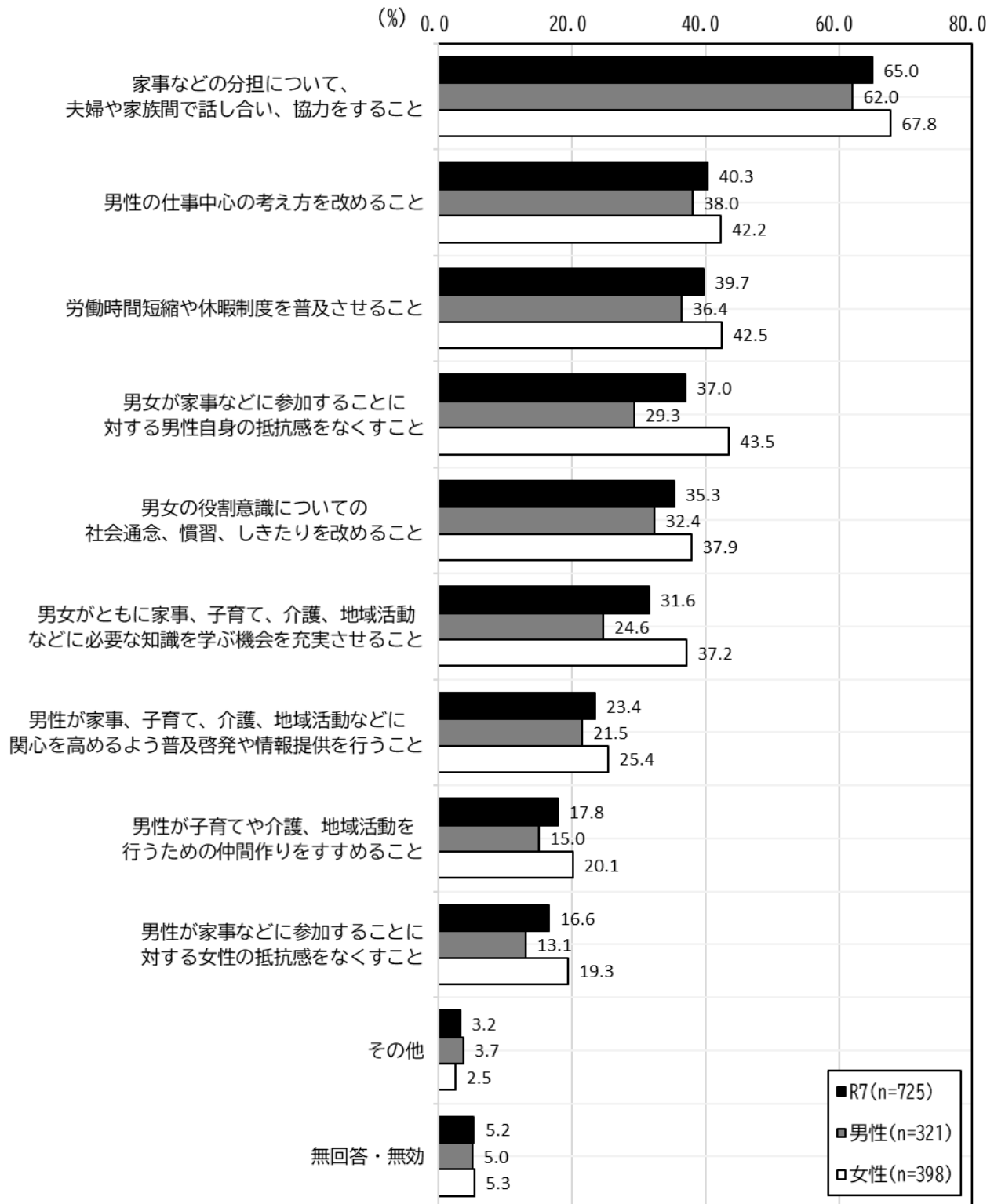
問9 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(複数回答)

- ・「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」(65.0%)が最も高く、次いで「男性の仕事中心の考え方を改めること」(40.3%)、「労働時間短縮や休暇制度を普及させること」(39.7%)となっています。

[男女別・過去調査との比較]

- ・前回調査では3番目に多かった「男女が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が13.1ポイント減少しています。
- ・男女ともに「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」(男性62.0%、女性67.8%)が最も高く、次いで男性は「男性の仕事中心の考え方を改めること」(38.0%)、女性は「男女が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(43.5%)になっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「男女が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」が14.2ポイント差、「男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること」が12.6ポイント差となっており、いずれも女性が男性を大きく上回っています。





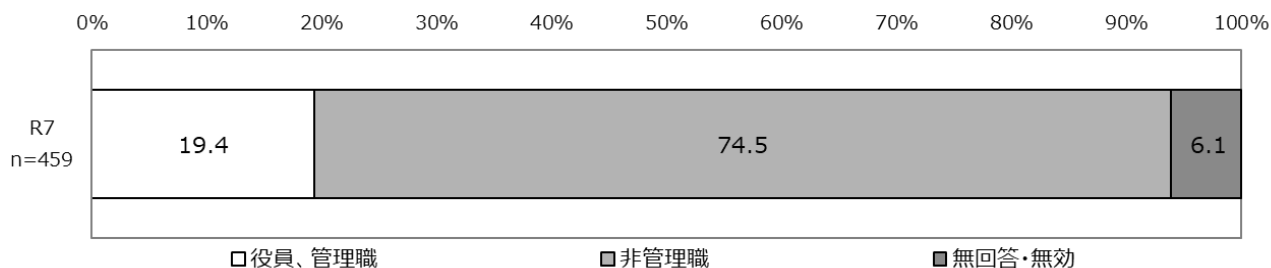
その他：「家事に関する教育や学びの場の拡大」、「企業の働き方改善」、「賃上げ」、「男性が消極的であることが前提で疑問がある」、「個人の力量や出来る事を認め合う社会通念」、「全てが変化する必要がある」、「既に変化してきている」 など



## 働き方や就業について

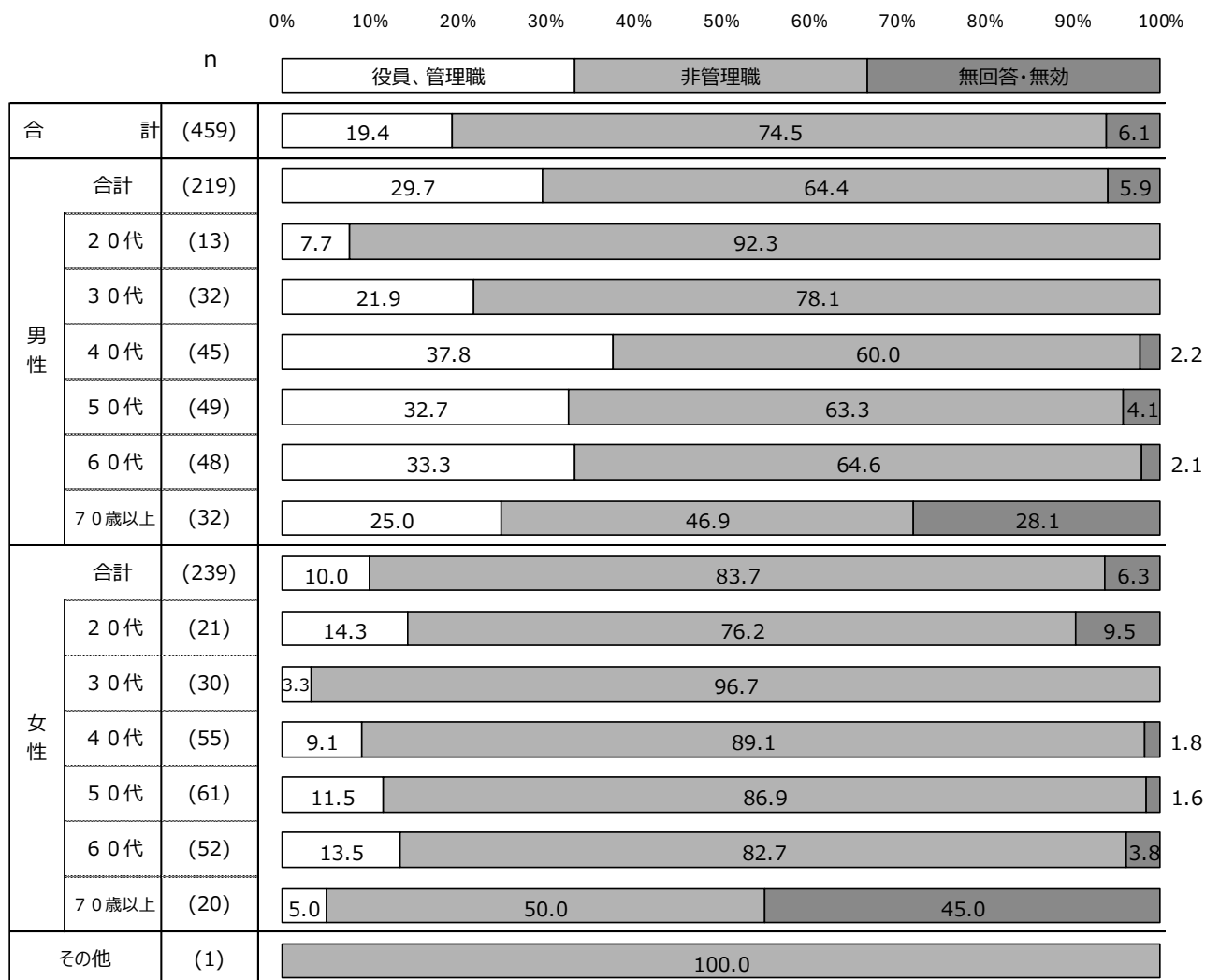
問 10 現在働いている方に伺います。あなたの役職は何ですか。

- ・回答者の役職は、「非管理職」(74.5%)が最も高く、次いで「役員、管理職」(19.4%)となっています。



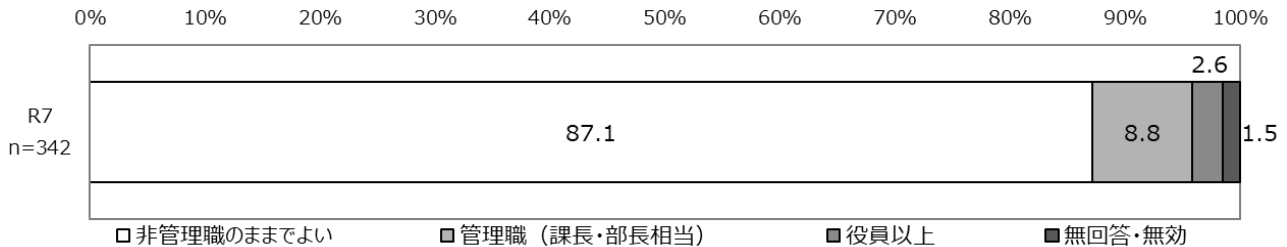
### [男女別・男女年代別]

- ・「役員、管理職」の割合は、男性(29.7%)が女性(10.0%)を大きく上回っています。
- ・男性は20代(7.7%)を除いた年代で「役員、管理職」が2割以上、女性はいずれも1割程度となっていますが、女性30代(3.3%)は特に低い割合となっています。



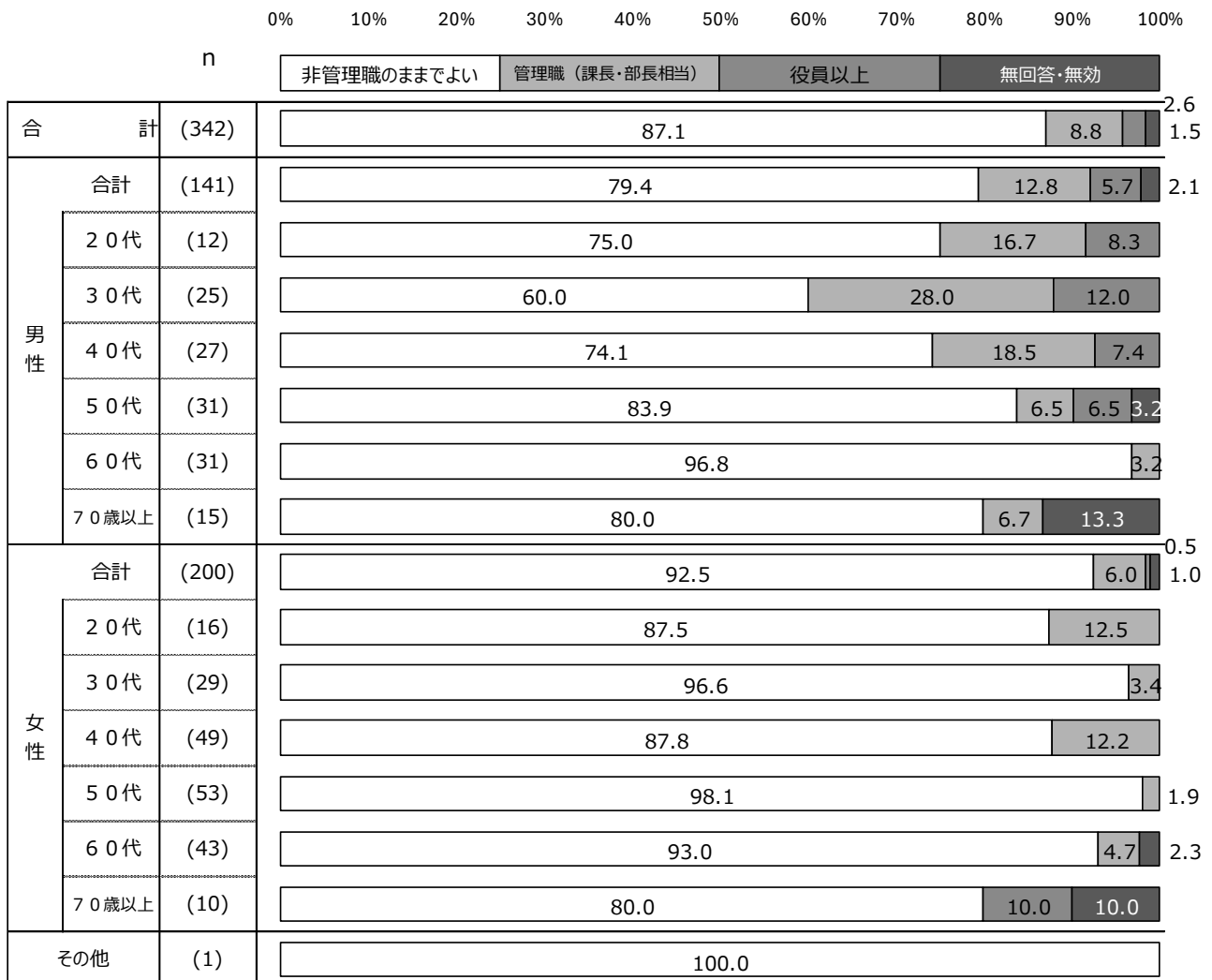
問 11 【問 10 で「2.非管理職」を選択】 あなたご自身は、これから先、どの役職まで目指したいと考えていますか。あなたが目指したい最も高い役職をお答えください。

・「非管理職のままでよい」(87.1%) が最も高く、次いで「管理職 (課長・部長相当)」(8.8%) となっています。



[男女別・男女年代別]

- ・管理職以上を目指したい割合は、男性 (18.5%) が女性 (6.5%) を大きく上回っています。
- ・管理職以上の役職を目指したいのは、男性 30 代 (40.0%) が特に高い割合になっています。

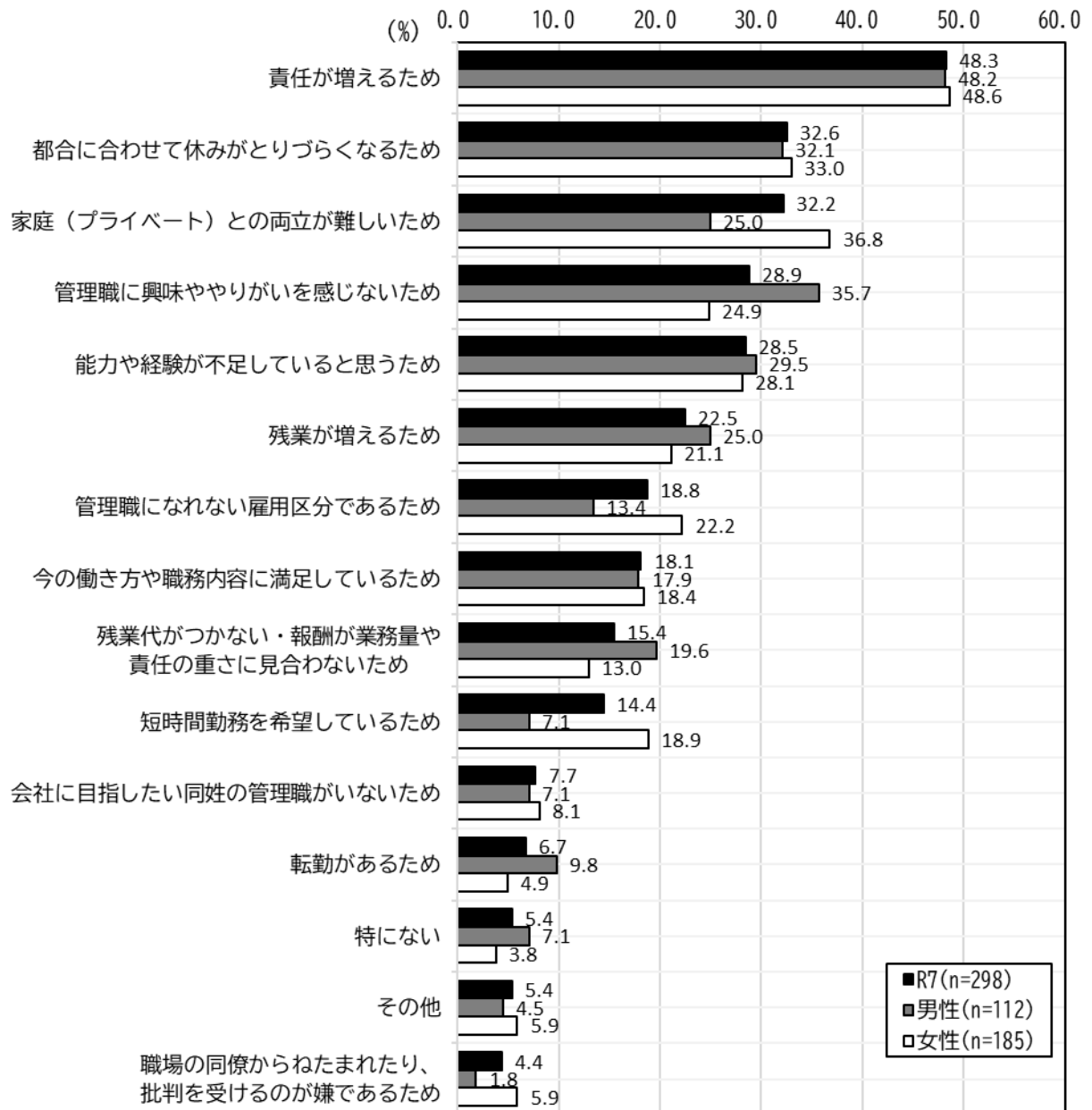


問 12 問 11 で「1. 非管理職のままでよい」と回答した方に伺います。  
 管理職・役員を目指さない理由はなんですか。(複数回答)

- ・非管理職のままでよい理由は、「責任が増えるため」(48.3%) が最も高く、次いで「都合に合わせて休みがとりづらくなるため」(32.6%)、「家庭(プライベート)との両立が難しいため」(32.2%) となっています。

[男女別]

- ・男女ともに「責任が増えるため」(男性 48.2%、女性 48.6%) が最も高く、次いで男性は「管理職に興味ややりがいを感じないため」(35.7%)、女性は「家庭(プライベート)との両立が難しいため」(36.8%) となっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「家庭(プライベート)との両立が難しいため」と「短時間勤務を希望しているため」が 11.8 ポイント差で、女性が男性を上回っています。



[男女年代別・就業別]

・男女年代別でみると、男女共に1番高い「責任が増えるため」は、男性30代(66.7%)や40代(65.0%)、女性20代(78.6%)で高くなっています。また、男性で2番目に高い「管理職に興味ややりがいを感じないため」は男性30代(73.3%)、女性で2番目に高い「家庭(プライベート)との両立が難しいため」は女性20代(64.3%)や30代(64.3%)で高くなっています。

・就業別でみると、「管理職に興味ややりがいを感じないため」は正社員(46.2%)が全体より高くなっています。

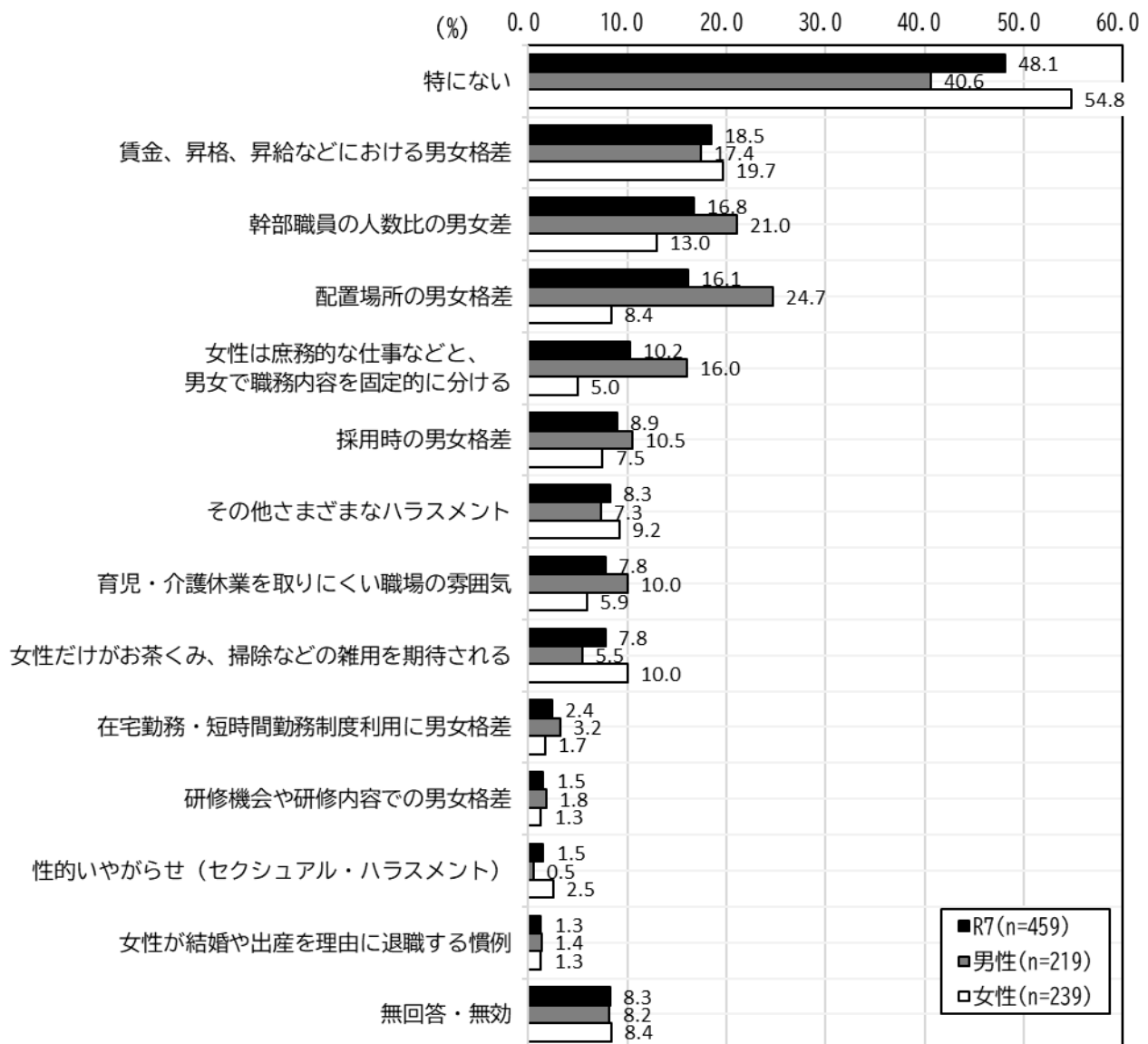
	n	責任が増えるため	残業が増えるため	都合に合わせて休みがとれなくなるため	家庭(プライベート)との両立が難しいため	能力や経験が不足しているため	管理職に興味ややりがいを感じないため	会社で管理職を目指したいが、同僚の管理職に目指したくないため	報酬に見合わない責任の重さ	残業代がつかない・重労働	区分であるため	管理職になれない雇用	短時間勤務を希望しているため	転動があるため	職場の同僚からねたまの嫌味や批判を受けるため	職場の同僚からねたまの嫌味や批判を受けるため	今の働き方や職務内容に満足しているため	特になし	その他	無回答・無効
合計	298	48.3	22.5	32.6	32.2	28.5	28.9	7.7	15.4	18.8	14.4	6.7	4.4	18.1	5.4	5.4				
性別																				
男性	112	48.2	25.0	32.1	25.0	29.5	35.7	7.1	19.6	13.4	7.1	9.8	1.8	17.9	7.1	4.5				
女性	185	48.6	21.1	33.0	36.8	28.1	24.9	8.1	13.0	22.2	18.9	4.9	5.9	18.4	3.8	5.9				
その他	1																100.0			
年代																				
20代	9	55.6	55.6	44.4	22.2	44.4	22.2	33.3	33.3				22.2			22.2				
30代	15	66.7	40.0	53.3	46.7	60.0	73.3		40.0	6.7				6.7	26.7	6.7				
40代	20	65.0	35.0	40.0	30.0	40.0	45.0	10.0	25.0	10.0	5.0	20.0		15.0		5.0				
50代	26	46.2	19.2	34.6	34.6	26.9	50.0	7.7	15.4	11.5		19.2	3.8	19.2						
60代	30	36.7	16.7	16.7	13.3	13.3	16.7	3.3	13.3	23.3	16.7			10.0	13.3	10.0				
70歳以上	12	25.0		16.7		8.3					16.7				25.0	8.3				
性別																				
20代	14	78.6	42.9	64.3	64.3	50.0	21.4	28.6	28.6	14.3	21.4	14.3	14.3	14.3	7.1					
30代	28	60.7	42.9	42.9	64.3	39.3	42.9	10.7	21.4	14.3	28.6	7.1	7.1	21.4						
40代	43	60.5	30.2	41.9	48.8	25.6	44.2	4.7	16.3	20.9	9.3	4.7	9.3	16.3		7.0				
50代	52	51.9	9.6	28.8	23.1	28.8	17.3	5.8	9.6	17.3	15.4	1.9	3.8	21.2	1.9	5.8				
60代	40	22.5	7.5	15.0	20.0	17.5	7.5	7.5	5.0	37.5	25.0	5.0	2.5	17.5	12.5	12.5				
70歳以上	8			12.5		12.5				25.0	25.0			25.0	12.5					
その他	1																100.0			
就業等																				
正社員	143	56.6	28.7	39.9	35.0	35.0	46.2	10.5	18.9	5.6	2.8	7.7	3.5	16.1	1.4	4.9				
契約・派遣・パート・アルバイト	126	39.7	15.9	28.6	31.7	24.6	15.1	4.8	12.7	32.5	27.0	7.1	4.8	20.6	7.9	5.6				
農業・自営業・経営者・内職	15	40.0	6.7	6.7		20.0			6.7	26.7			6.7	20.0	6.7	13.3				
無職・学生	3	66.7	50.0																	
その他	3				66.7						33.3				33.3	33.3				
不明	8	62.5	50.0	37.5	37.5	12.5	12.5	25.0	25.0	37.5	50.0			12.5	12.5	12.5				

問 13 現在働いている方に伺います。あなたの職場では、次のようなことはありますか。  
(複数回答)

- ・職場での雇用環境としては、「特にない」(48.1%)が最も高く、次いで「賃金、昇格、昇給などにおける男女格差」(18.5%)、「幹部の人数費の男女格差」(16.8%)となっています。

[男女別]

- ・男女ともに「特にない」(男性 40.6%、女性 54.8%)が最も高く、次いで男性は「配置場所の男女格差」(24.7%)、女性は「賃金、昇格、昇給などにおける男女格差」(19.7%)となっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「配置場所の男女格差」が16.3ポイント差、「女性は庶務的な仕事などと、男女で職務内容を固定的に分ける」が11.0ポイント差で、男性が女性を上回っています。また、「特にない」は14.2ポイント差で、女性が男性を上回っています。



[男女年代別・就業別]

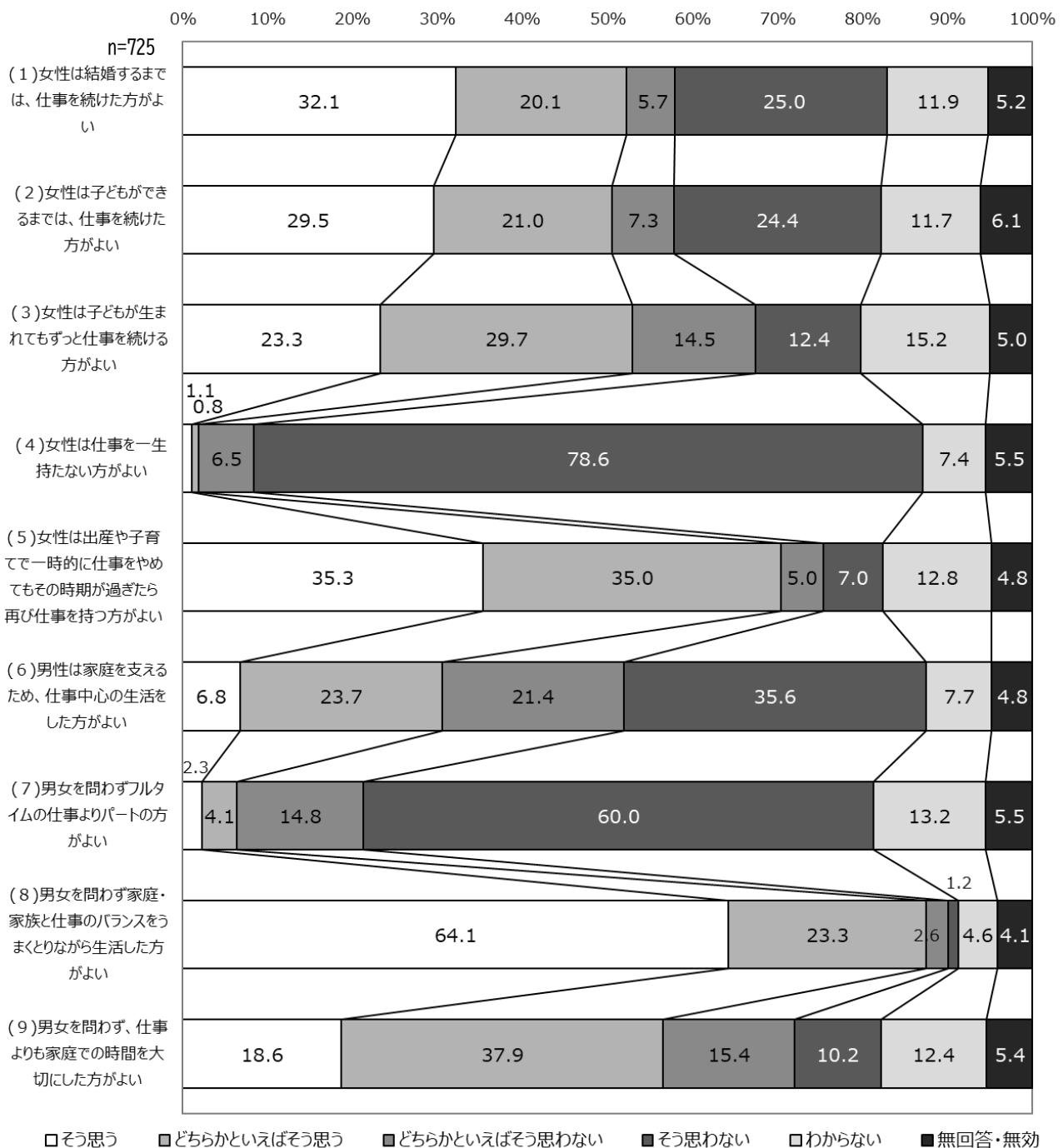
- ・男女年代別でみると、男性で2番目に高い「配置場所の男女格差」は男性20代(38.5%)で高くなっています。また、女性で2番目に高い「賃金、昇格、昇給などにおける男女格差」は女性40代(30.9%)で高くなっています。
- ・就業別でみると、正社員は「配置場所の男女格差」(23.6%)、「幹部職員の人数比の男女差」(26.2%)が全体より高くなっています。

		n	採用時の男女格差	に賃金、昇格、昇給など	配置場所の男女格差	女幹部職員の人数比の男	由に女性が結婚するや出産を理	に育児・介護の雰囲気を取り	を固定・男的に区分ける職務内容な	ど女性には庶務的な仕事内容な	掃除などの雑用を期待、	在宅勤務に・短時間勤務	の研修機会や研修内容で	トシユアル・ハラセ(メンク	性的いやがらせ(セク	その他さまざまなハラ	特にな	無回答・無効
合計		459	8.9	18.5	16.1	16.8	1.3	7.8	10.2	7.8	2.4	1.5	1.5	8.3	48.1	8.3		
性別	男性	219	10.5	17.4	24.7	21.0	1.4	10.0	16.0	5.5	3.2	1.8	0.5	7.3	40.6	8.2		
	女性	239	7.5	19.7	8.4	13.0	1.3	5.9	5.0	10.0	1.7	1.3	2.5	9.2	54.8	8.4		
	その他	1													100.0			
男性	20代	13	23.1	7.7	38.5	15.4		23.1	7.7					7.7	23.1	15.4		
	30代	32	15.6	18.8	31.3	18.8	3.1	18.8	21.9	3.1	9.4			12.5	43.8			
	40代	45	8.9	15.6	28.9	24.4	4.4	11.1	26.7	2.2	4.4			4.4	37.8	2.2		
	50代	49	8.2	8.2	26.5	26.5		6.1	8.2	6.1			2.0	10.2	40.8	4.1		
	60代	48	8.3	33.3	16.7	22.9		8.3	12.5	8.3	4.2	4.2	4.2	8.3	50.0	2.1		
	70歳以上	32	9.4	12.5	15.6	9.4		3.1	15.6	9.4			6.3		34.4	37.5		
	その他	1													100.0			
女性	20代	21		14.3	4.8		4.8	14.3	9.5	14.3		4.8		4.8	61.9	9.5		
	30代	30	3.3	13.3	13.3	13.3		3.3		3.3	3.3		3.3	13.3	60.0			
	40代	55	9.1	30.9	9.1	29.1		5.5	7.3	12.7	5.5	1.8	3.6	12.7	34.5	5.5		
	50代	61	11.5	19.7	6.6	11.5	1.6	3.3	3.3	9.8		1.6	1.6	9.8	63.9	3.3		
	60代	52	7.7	17.3	7.7	5.8	1.9	7.7	5.8	13.5			3.8	7.7	65.4	5.8		
	70歳以上	20	5.0	10.0	10.0	5.0		5.0	5.0						40.0	50.0		
	その他	1													100.0			
就業等	正社員	237	11.0	24.1	23.6	26.2	2.1	11.0	13.1	9.3	3.4	2.1	2.1	10.1	41.4	2.1		
	契約・派遣・パート・アルバイト	140	7.9	15.7	8.6	9.3		4.3	7.1	6.4	2.1	0.7	1.4	9.3	59.3	5.0		
	農業、自営業・経営者・内職	53	5.7	7.5	9.4	1.9	1.9	3.8	5.7	7.5					50.9	30.2		
	無職・学生	9	11.1												44.4	44.4		
	その他	5		20.0					20.0						80.0			
	不明	15		6.7	6.7	6.7		13.3	13.3	6.7		6.7		6.7	33.3	40.0		

問 14 仕事へのかかわり方について、あなたはどうお考えですか。

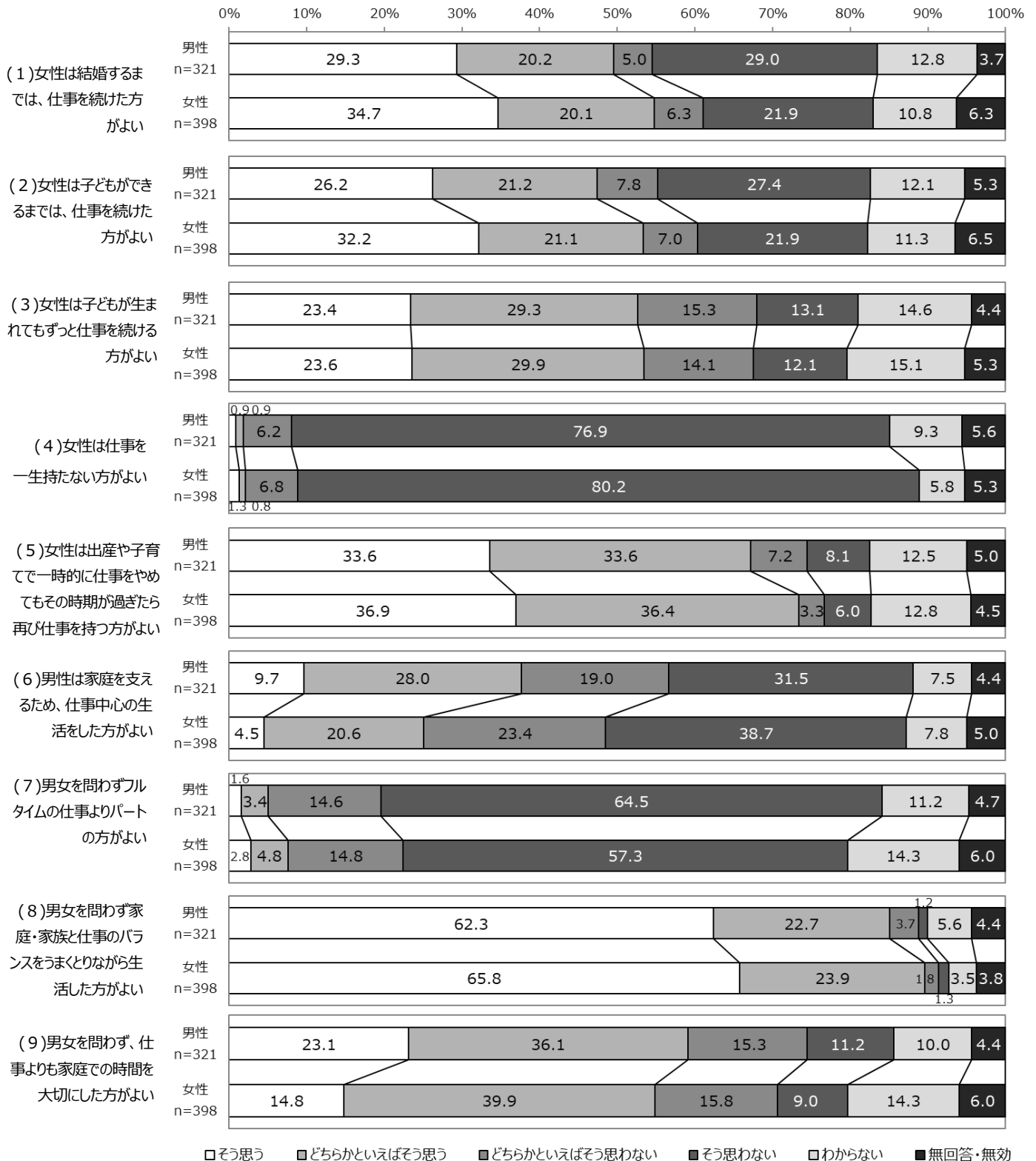
[全体]

- ・仕事へのかかわり方で『そう思う』割合（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が高い項目は、「(8)男女を問わず家庭・家族と仕事のバランスをうまくとりながら生活した方がよい」(87.4%)、次いで「(5)女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめてもその時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい」(70.3%)となっています。
- ・一方で、『そう思う』割合が最も低い項目は「(4)女性は仕事を一生持たない方がよい」(1.9%)となっています。



[全体男女別]

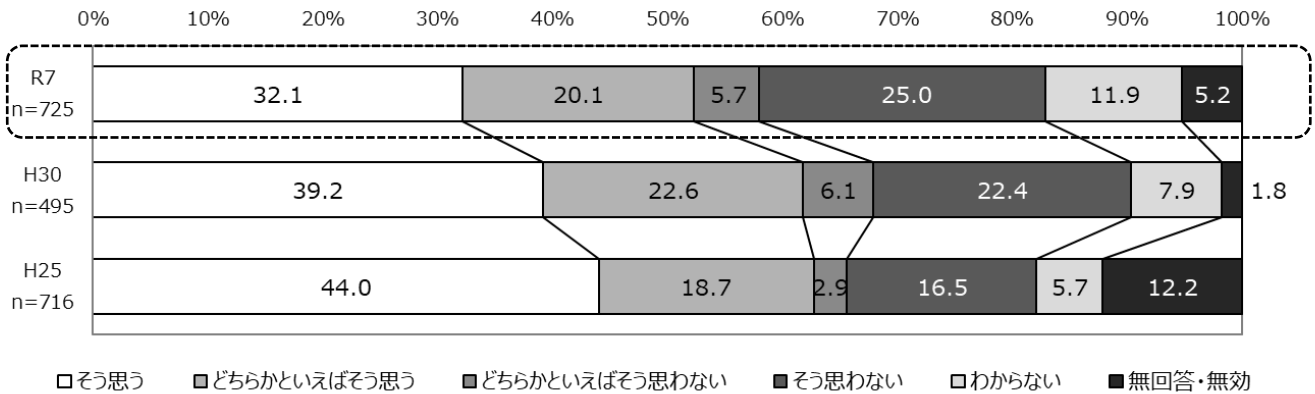
・特に男女で仕事へのかかわり方の意識の差が大きいのは、「(6)男性は家庭を支えるため、仕事中心の生活をした方がよい」が12.6ポイント差で男性が上回っており、「(5)女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめてもその時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい」は6.1ポイント差で女性が上回っています。



〔過去調査との比較〕

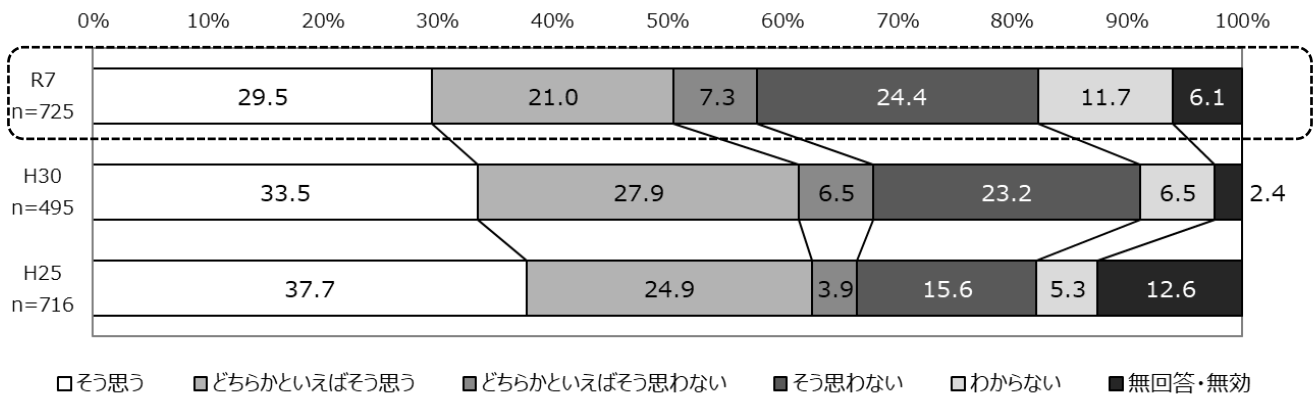
(1) 女性は結婚するまでは、仕事を続けた方がよい

- ・『そう思う』割合（『そう思う』+『どちらかといえばそう思う』）が5割以上となっています。
- ・前回調査よりも『そう思う』割合が9.6ポイント減少しています。



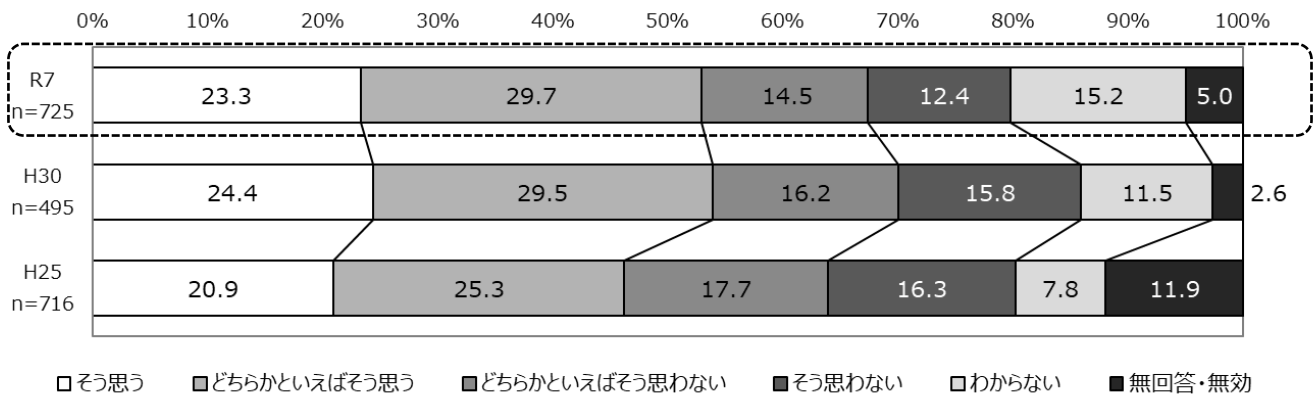
(2) 女性は子どもができるまでは、仕事を続けた方がよい

- ・『そう思う』割合（『そう思う』+『どちらかといえばそう思う』）が5割以上となっています。
- ・前回調査よりも『そう思う』割合が10.9ポイント減少しています。



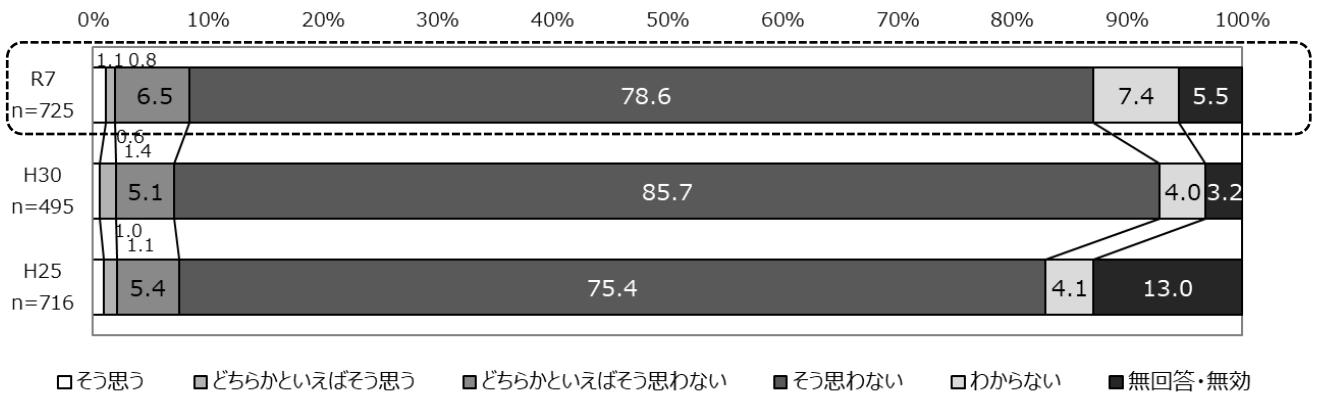
(3) 女性は子どもが生まれてもずっと仕事を続ける方がよい

- ・『そう思う』割合（『そう思う』+『どちらかといえばそう思う』）が5割以上となっています。
- ・前回調査よりも「わからない」割合がわずかながら3.7ポイント増加しています。



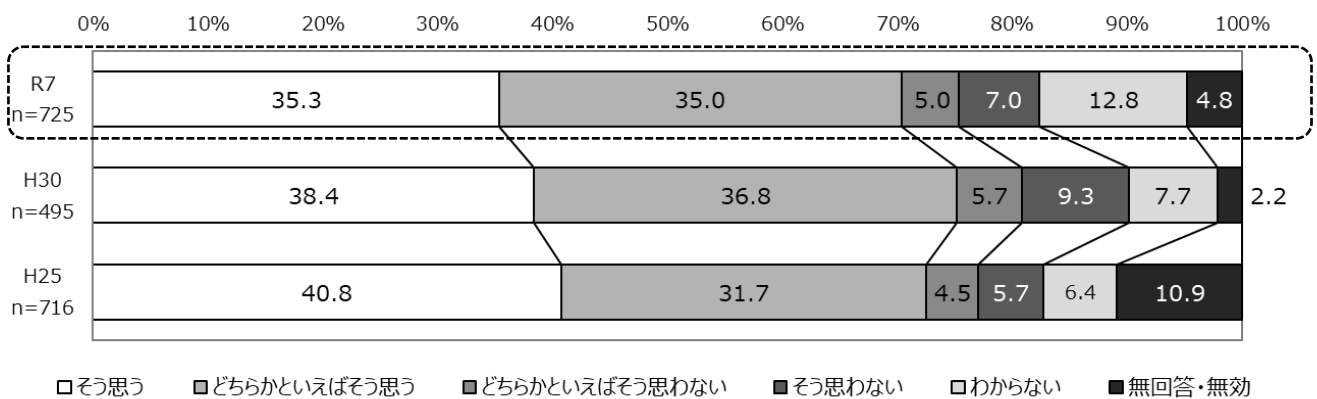
(4) 女性は仕事を一生持たない方がよい

- ・『そう思わない』割合（「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」）が約9割となっています。
- ・前回調査よりも『そう思わない』割合が5.7ポイント減少しています。



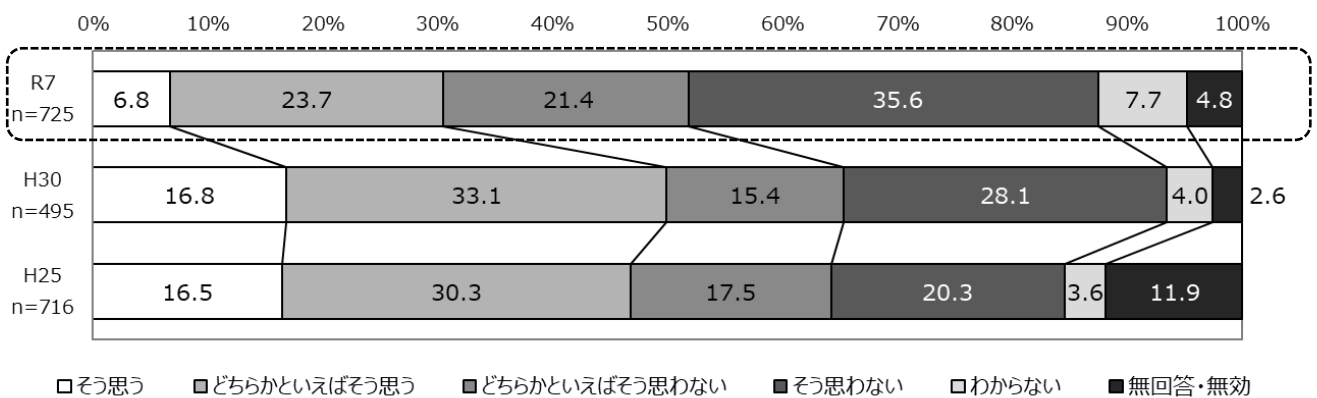
(5) 女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめてもその時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい

- ・『そう思う』割合（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）が7割以上となっています。
- ・前回調査よりも「わからない」割合が5.1ポイント増加しています。



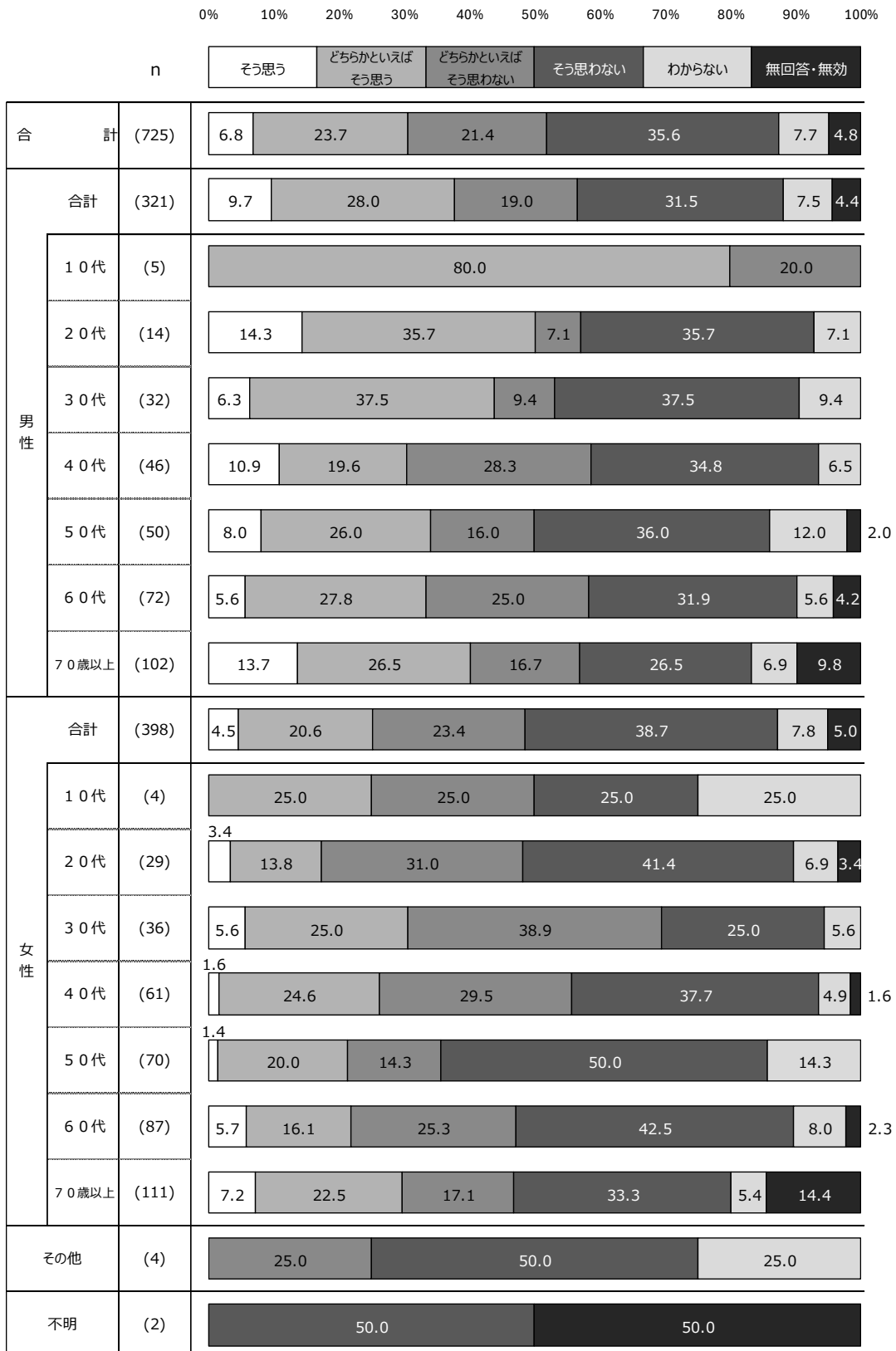
(6) 男性は家庭を支えるため、仕事中心の生活をした方がよい

- ・『そう思わない』割合（「そう思わない」+「どちらかといえばそう思わない」）が約6割となっています。
- ・前回調査よりも『そう思わない』割合が13.5ポイント増加しています。



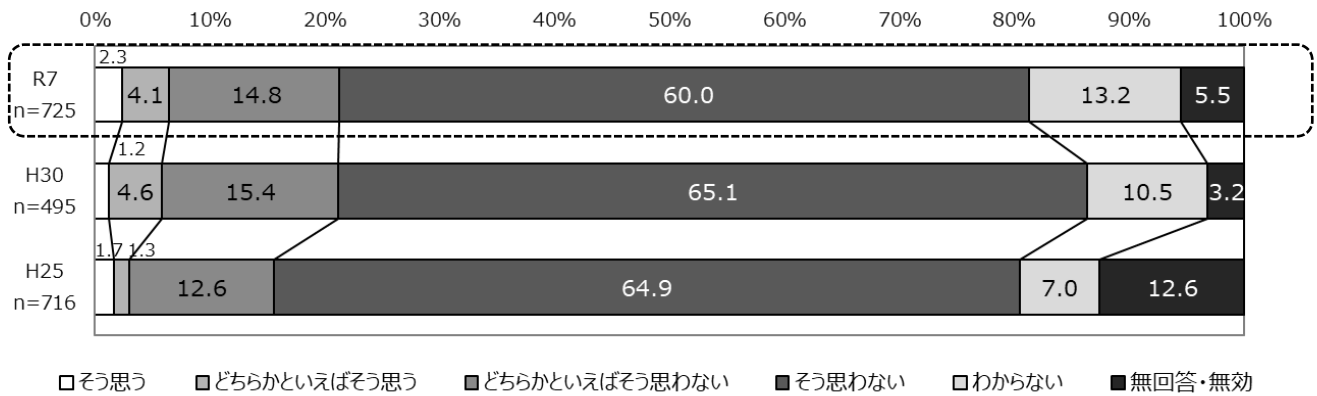
[男女年代別]

- ・ 9つの仕事へのかかり方のうち、「(6)男性は家庭を支えるため、仕事中心の生活をした方がよい」は『そう思う』割合（男性 37.7%、女性 25.1%）が男女で最も差が大きくなっています。
- ・ 男女年代別で詳しく見ると、『そう思う』割合は、男性 20代（50.0%）、男性 30代（43.8%）、男性 70歳以上（40.2%）が高く、女性 20代（17.2%）、女性 50代（21.4%）、女性 60代（21.8%）が低くなっています。



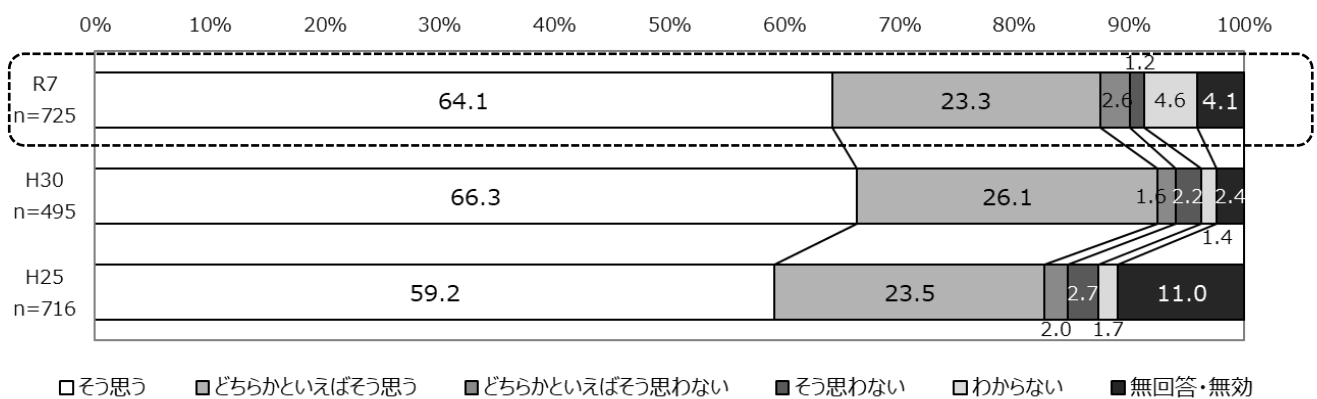
(7) 男女を問わずフルタイムの仕事よりパートの方がよい

- ・『そう思わない』割合（『そう思わない』+『どちらかといえばそう思わない』）が7割以上となっています。
- ・前回調査よりも『そう思わない』割合が5.7ポイント減少しています。



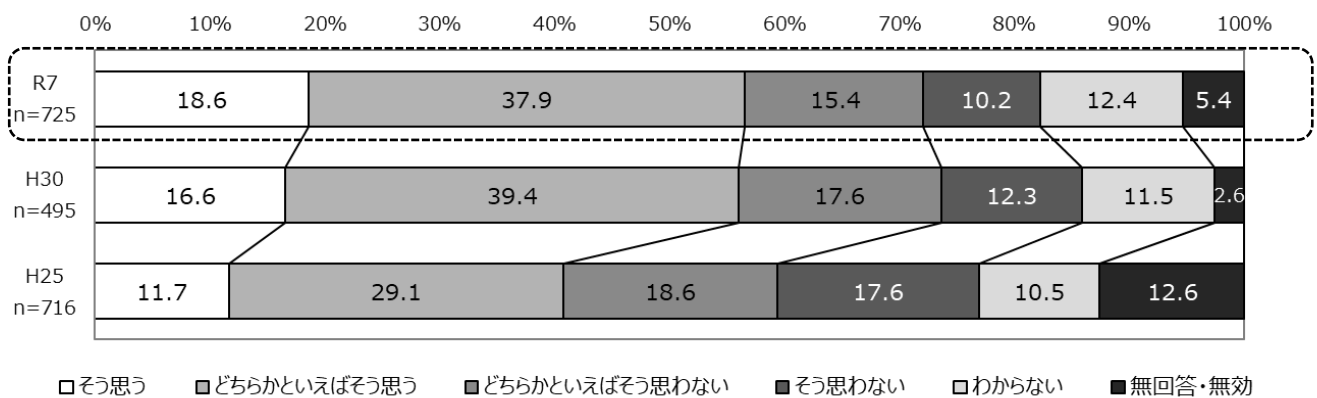
(8) 男女を問わず家庭・家族と仕事のバランスをうまくとりながら生活した方がよい

- ・『そう思う』割合（『そう思う』+『どちらかといえばそう思う』）が9割弱となっています。
- ・前回調査よりも『そう思う』割合が5.0ポイント減少しています。



(9) 男女を問わず、仕事よりも家庭での時間を大切にしたい方がよい

- ・『そう思う』割合（『そう思う』+『どちらかといえばそう思う』）が6割弱となっています。
- ・前回調査よりも『そう思う』割合がわずかながら0.5ポイント増加しています。

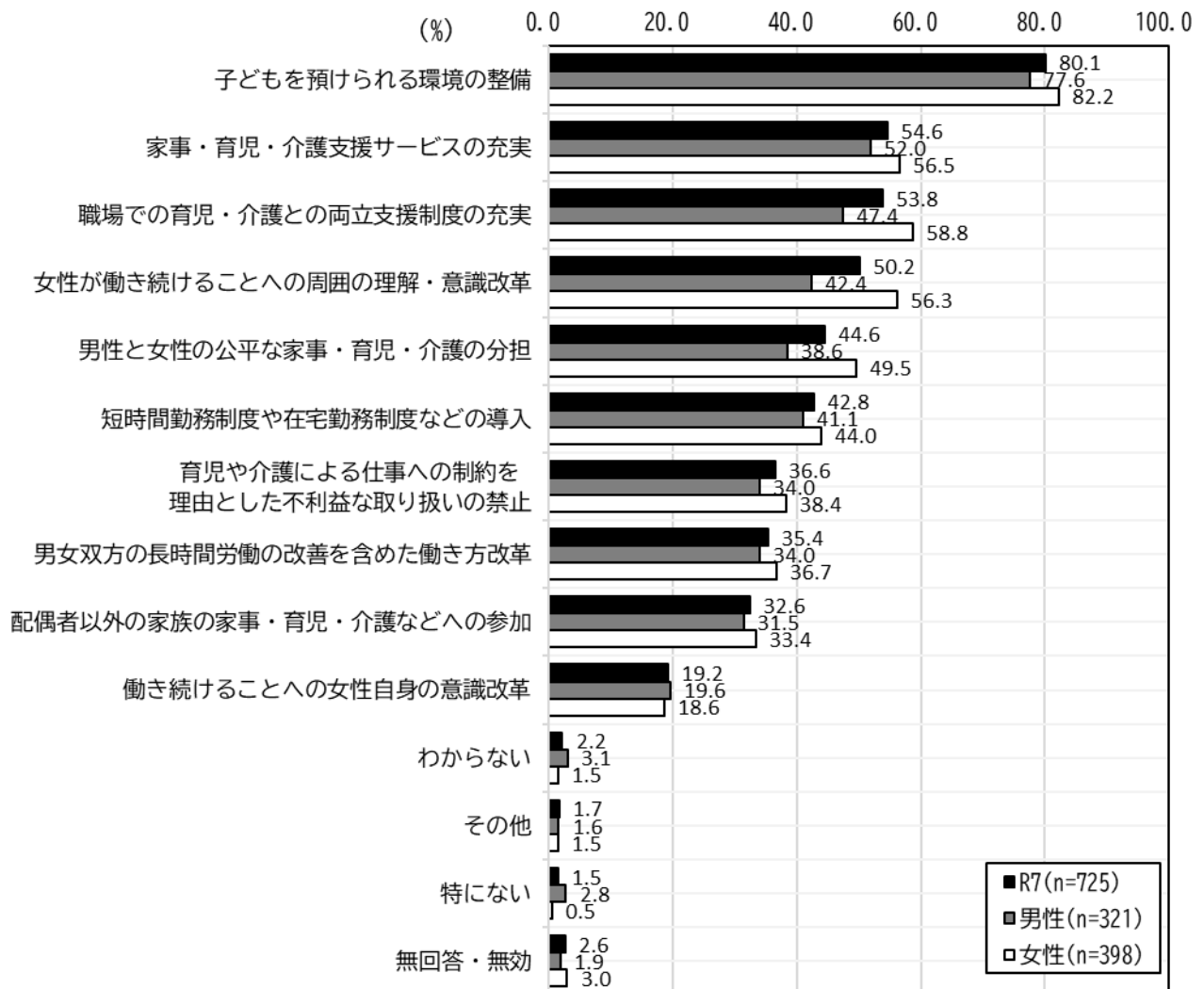


問 15 あなたは、女性が出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(複数回答)

- ・女性が出産後も退職せずに働き続けるために重要だと思うことは、「子どもを預けられる環境の整備」(80.1%)が最も高く、次いで「家事・育児・介護支援サービスの充実」(54.6%)、「職場での育児・介護との両立支援制度の充実」(53.8%)となっています。

[男女別]

- ・男性は、「子どもを預けられる環境の整備」(77.6%)が最も高く、次いで「家事・育児・介護支援サービスの充実」(52.0%)、「職場での育児・介護との両立支援制度の充実」(47.4%)となっています。女性は、「子どもを預けられる環境の整備」(82.2%)が最も高く、次いで「職場での育児・介護との両立支援制度の充実」(58.8%)、「家事・育児・介護支援サービスの充実」(56.5%)となっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が13.9ポイント差で、女性が男性を上回っています。



その他：「職場全般の育児や少子化に対する意識改革」、「個人の希望に応じて働き方が選択できる環境」、「男女同程度の年収や賃上げ」、「家族と同居することによる負担軽減」、「夫婦が共に育児家庭で育てられる環境づくり」、「家族（高齢者）の病院への送迎手段の充実」 など

[男女年代別・就業別]

- ・男女年代別でみると、男女ともに1番目に高い「子どもを預けられる環境の整備」は、男性10代、30代、60代や女性の10代～60代で8割を超えています。また、女性で2番目に高い「職場での育児・介護との両立支援制度の充実」は、女性30代（63.9%）で特に高くなっています。
- ・男女別で特に差が大きかった「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」は、女性60代（70.1%）が全体より高くなっています。
- ・就業別でみると、専業主婦・主夫は「職場での育児・介護との両立支援制度の充実」（65.7%）、「育児や介護による仕事への制約を理由とした不利益な取り扱いの禁止」（57.1%）などが全体より高くなっています。

		n	の子どもを預けられる環境	家事・育児・介護支援	参加・育児以外の家族への	配偶者・育児・介護の公平な	男性・女性・介護の公平な	の女性が働き続けることへの	自働きの意欲改革への女性	改善を含めた長時間労働改革の	両立支援制度の充実との	職務時間勤務の導入	益な取り扱いは禁止する	の育児や介護による仕事への	特にな	わから	その他	無回答・無効
合計		725	80.1	54.6	32.6	44.6	50.2	19.2	35.4	53.8	42.8	36.6	1.5	2.2	1.7	2.6		
性別	男性	321	77.6	52.0	31.5	38.6	42.4	19.6	34.0	47.4	41.1	34.0	2.8	3.1	1.6	1.9		
	女性	398	82.2	56.5	33.4	49.5	56.3	18.6	36.7	58.8	44.0	38.4	0.5	1.5	1.5	3.0		
	その他	4	100.0	75.0	50.0	25.0	75.0	25.0	50.0	75.0	50.0	50.0			25.0			
	不明	2	50.0	50.0		50.0	50.0	50.0		50.0	50.0	50.0					50.0	
男性	10代	5	80.0	60.0	80.0	80.0	40.0	40.0	60.0	40.0	80.0	40.0						
	20代	14	71.4	35.7	42.9	35.7	42.9	28.6	42.9	50.0	57.1	42.9	7.1					
	30代	32	87.5	56.3	50.0	50.0	43.8	21.9	43.8	40.6	34.4	31.3	3.1	3.1	3.1			
	40代	46	78.3	56.5	28.3	39.1	37.0	17.4	28.3	39.1	43.5	19.6		6.5				
	50代	50	66.0	42.0	34.0	36.0	44.0	20.0	26.0	38.0	28.0	22.0		8.0	2.0			
	60代	72	86.1	55.6	27.8	38.9	40.3	19.4	37.5	54.2	44.4	40.3	4.2		1.4	1.4		
	70歳以上	102	74.5	52.9	24.5	34.3	45.1	17.6	32.4	52.9	42.2	41.2	3.9	2.0	2.0	4.9		
女性	10代	4	100.0	100.0	75.0	75.0	100.0	50.0	75.0	50.0	75.0	100.0						
	20代	29	82.8	51.7	34.5	62.1	65.5	10.3	41.4	55.2	58.6	34.5	3.4		3.4			
	30代	36	83.3	61.1	44.4	66.7	38.9	13.9	50.0	63.9	58.3	52.8		2.8	2.8			
	40代	61	85.2	54.1	36.1	68.9	50.8	14.8	47.5	59.0	50.8	32.8		1.6	1.6	1.6		
	50代	70	85.7	57.1	28.6	44.3	50.0	15.7	28.6	58.6	41.4	27.1			2.9			
	60代	87	81.6	56.3	35.6	44.8	70.1	25.3	33.3	60.9	40.2	40.2		2.3	1.1	1.1		
	70歳以上	111	77.5	55.9	27.9	36.0	54.1	19.8	31.5	56.8	35.1	41.4	0.9	1.8		9.0		
その他	4	100.0	75.0	50.0	25.0	75.0	25.0	50.0	75.0	50.0	50.0			25.0				
不明	2	50.0	50.0		50.0	50.0	50.0		50.0	50.0	50.0					50.0		
就業等	正社員	243	79.8	53.9	38.3	49.0	46.5	21.0	37.0	51.4	39.9	28.4	1.2	3.7	1.6	0.4		
	契約・派遣・パート・アルバイト	152	84.2	53.9	28.3	46.1	53.9	15.1	32.9	57.2	46.1	31.6	1.3		1.3	1.3		
	農業、自営業・経営者・内職	66	74.2	48.5	31.8	43.9	54.5	16.7	24.2	37.9	27.3	27.3	4.5	3.0	1.5	4.5		
	専業主婦・主夫	35	88.6	62.9	34.3	51.4	54.3	25.7	37.1	65.7	51.4	57.1			2.9			
	無職・学生	163	81.0	55.8	28.8	40.5	50.3	19.6	41.1	58.3	47.9	49.1	1.2	1.2	0.6	3.1		
	その他	11	72.7	45.5	18.2	18.2	45.5	27.3	36.4	54.5	36.4	45.5		18.2	9.1			
	不明	55	70.9	60.0	32.7	34.5	49.1	18.2	30.9	52.7	45.5	45.5	1.8	1.8	3.6	14.5		

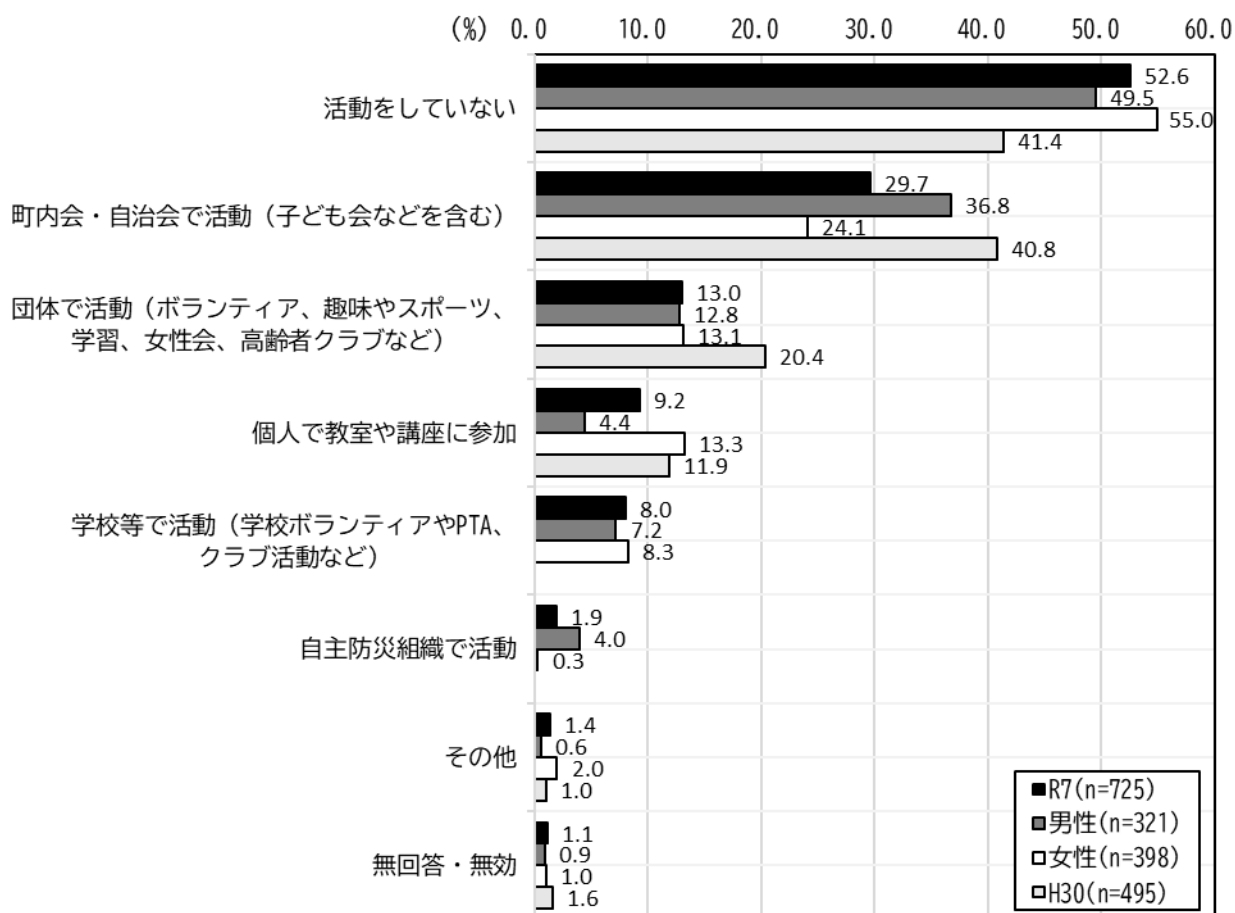
## 地域活動について

問 16 あなたは現在、次のような地域活動をしていますか。(複数回答)

- ・地域活動については、「活動をしていない」(52.6%)が最も高く、次いで「町内会・自治会で活動(子ども会などを含む)」(29.7%)、「団体で活動(ボランティア、趣味やスポーツ、学習、女性会、高齢者クラブなど)」(13.0%)となっています。

### [男女別・過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「活動をしていない」が11.2ポイント増加し、「町内会・自治会で活動(子ども会などを含む)」が11.1ポイント減少しています。
- ・男女ともに2番目に高いのは「町内会・自治会で活動(子ども会などを含む)」(男性36.8%、女性24.1%)で、3番目に高いのは、男性は「団体で活動(ボランティア、趣味やスポーツ、学習、女性会、高齢者クラブなど)」(12.8%)、女性は「個人で教室や講座に参加」(13.3%)になっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「町内会・自治会で活動(子ども会などを含む)」が12.7ポイント差で、男性が女性を上回っています。



その他：民生委員、リサイクル当番、組合当番制、市外のデザイン教育、地域清掃、交流(お茶のみ、麻雀)など

[男女年代別・就業別]

- ・男女年代別でみると、「活動をしていない」は女性20代（86.2%）、2番目に高い「町内会・自治会で活動（子ども会などを含む）」は男性60代（51.4%）がそれぞれ全体より高くなっています。また、女性で3番目に高い「個人で教室や講座に参加」は、女性70歳以上（19.8%）が高くなっています。
- ・就業別では、特徴的な差はみられませんでした。

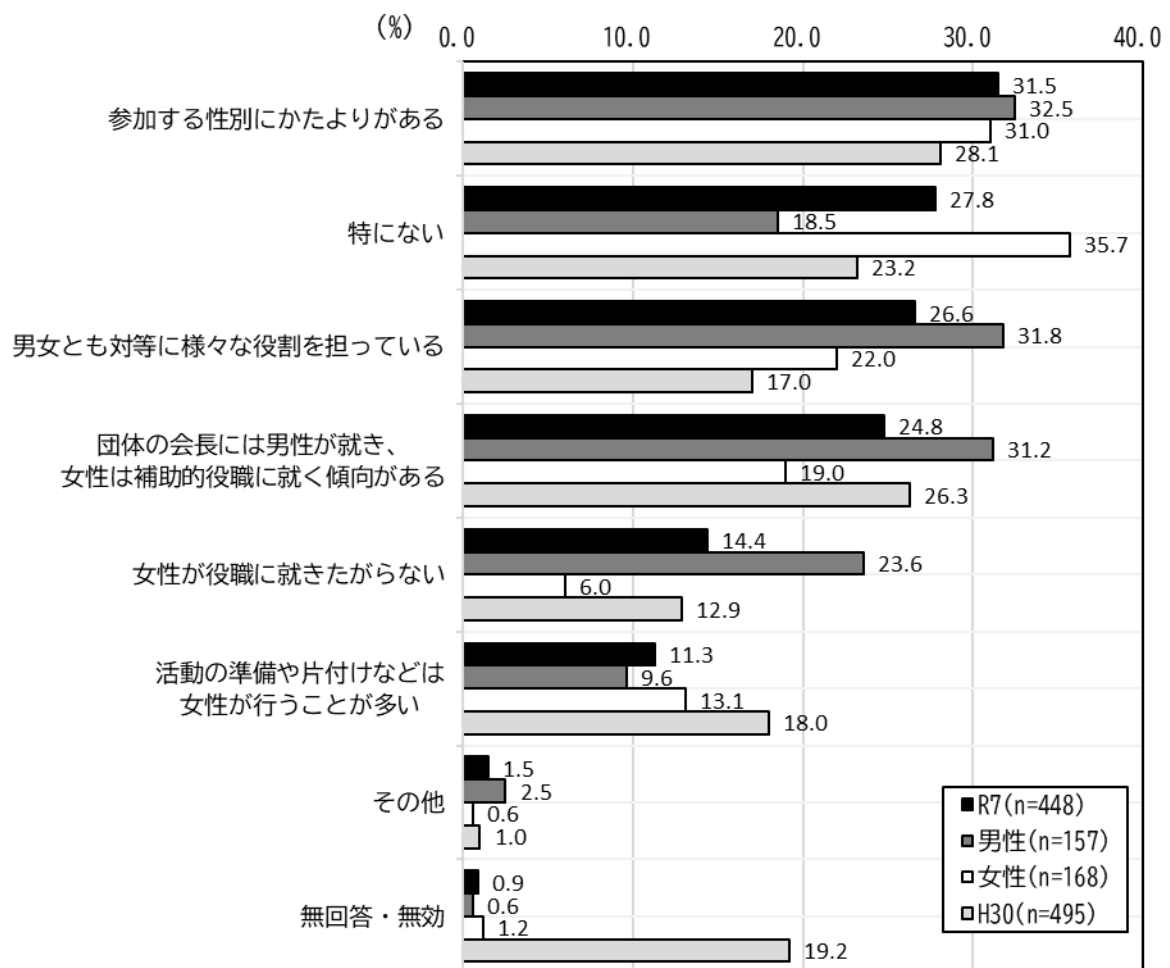
		n	町内会・自治会などを含む（子ども会などを含む）	学校等で活動（PTA、クラブ活動など）	年齢、学習、女性会、高	団体、趣味、ボランティア、高	個人で教室や講座に参加	自主防災組織で活動	活動をしていない	その他	無回答・無効
合計		725	29.7	8.0	13.0	9.2	1.9	52.6	1.4	1.1	
性別	男性	321	36.8	7.2	12.8	4.4	4.0	49.5	0.6	0.9	
	女性	398	24.1	8.3	13.1	13.3	0.3	55.0	2.0	1.0	
	その他	4	25.0	50.0	25.0			50.0			
	不明	2						50.0		50.0	
男性	10代	5	20.0	60.0	20.0			40.0			
	20代	14	21.4	7.1	14.3		7.1	57.1			
	30代	32	15.6	9.4	9.4		3.1	71.9			
	40代	46	30.4	15.2	8.7		6.5	54.3			
	50代	50	36.0	2.0	6.0	4.0	6.0	50.0	2.0		
	60代	72	51.4	4.2	11.1	2.8		43.1			
	70歳以上	102	39.2	4.9	19.6	9.8	4.9	44.1	1.0	2.9	
女性	10代	4		25.0	25.0			75.0			
	20代	29	3.4	10.3	3.4			86.2			
	30代	36	30.6	27.8	2.8	2.8		55.6			
	40代	61	36.1	18.0	8.2	8.2		52.5	1.6	1.6	
	50代	70	34.3	8.6	8.6	12.9	1.4	47.1			
	60代	87	20.7	1.1	20.7	18.4		51.7	3.4		
	70歳以上	111	18.0	0.9	18.0	19.8		55.0	3.6	2.7	
その他		4	25.0	50.0	25.0			50.0			
不明		2						50.0		50.0	
就業等	正社員	243	31.7	11.1	8.6	6.2	2.9	54.7		0.4	
	契約・派遣・パート・アルバイト	152	30.3	10.5	8.6	5.9	1.3	56.6		0.7	
	農業、自営業・経営者・内職	66	39.4	4.5	16.7	7.6	3.0	40.9	1.5	3.0	
	専業主婦・主夫	35	25.7	2.9	8.6	25.7		48.6			
	無職・学生	163	25.2	6.7	22.1	9.8	1.8	52.1	2.5	1.2	
	その他	11	36.4		27.3	36.4		18.2	18.2	9.1	
	不明	55	21.8			12.7	16.4		56.4	5.5	1.8

問 17 問 16 で「1～5」活動していると回答した方に伺います。活動のなかで、役割分担などについて感じていることはありますか。次の中から選んでください。(複数回答)

- ・地域活動をするなかで、役割分担などについて感じていることは、「参加する性別にかたよりのある」(31.5%) が最も高く、次いで「特にない」(27.8%)、「男女とも対等に様々な役割を担っている」(26.6%) となっています。

[男女別・過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「男女とも対等に様々な役割を担っている」が 9.6 ポイント増加し、「活動の準備や片付けなどは女性が行うことが多い」が 6.7 ポイント減少しています。
- ・男性は「参加する性別にかたよりのある」(32.5%) が最も高く、次いで「男女とも対等に様々な役割を担っている」(31.8%)、「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く傾向がある」(31.2%) となっています。女性は「特にない」(35.7%) が最も高く、次いで「参加する性別にかたよりのある」(31.0%)、「男女とも対等に様々な役割を担っている」(22.0%) となっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「女性が役職に就きたがらない」が 17.6 ポイント差で、男性 (23.6%) が女性 (6.0%) を大きく上回っています。



その他：地域活動に参加したばかりで分からない、高齢化で役割を受けられない、男性主体の組織になっている、昔のしきたりや行事がそのまま引き継がれていて若者は住まない、回覧板は古い習慣だと感じる など

[男女年代別・就業別]

- ・男女年代別でみると、男性で3番目に高い「団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く傾向がある」は男性70歳以上(43.4%)、女性で1番目に高い「特にない」は女性50代(43.2%)がそれぞれ全体より高くなっています。
- ・男女別で特に差が大きかった「女性が役職に就きたがらない」は、男性50代(29.2%)や男性60代(29.3%)が全体より高くなっています。
- ・就業別でみると、農業、自営業・経営者・内職は「男女とも対等に様々な役割を担っている」(32.4%)が全体より高くなっています。

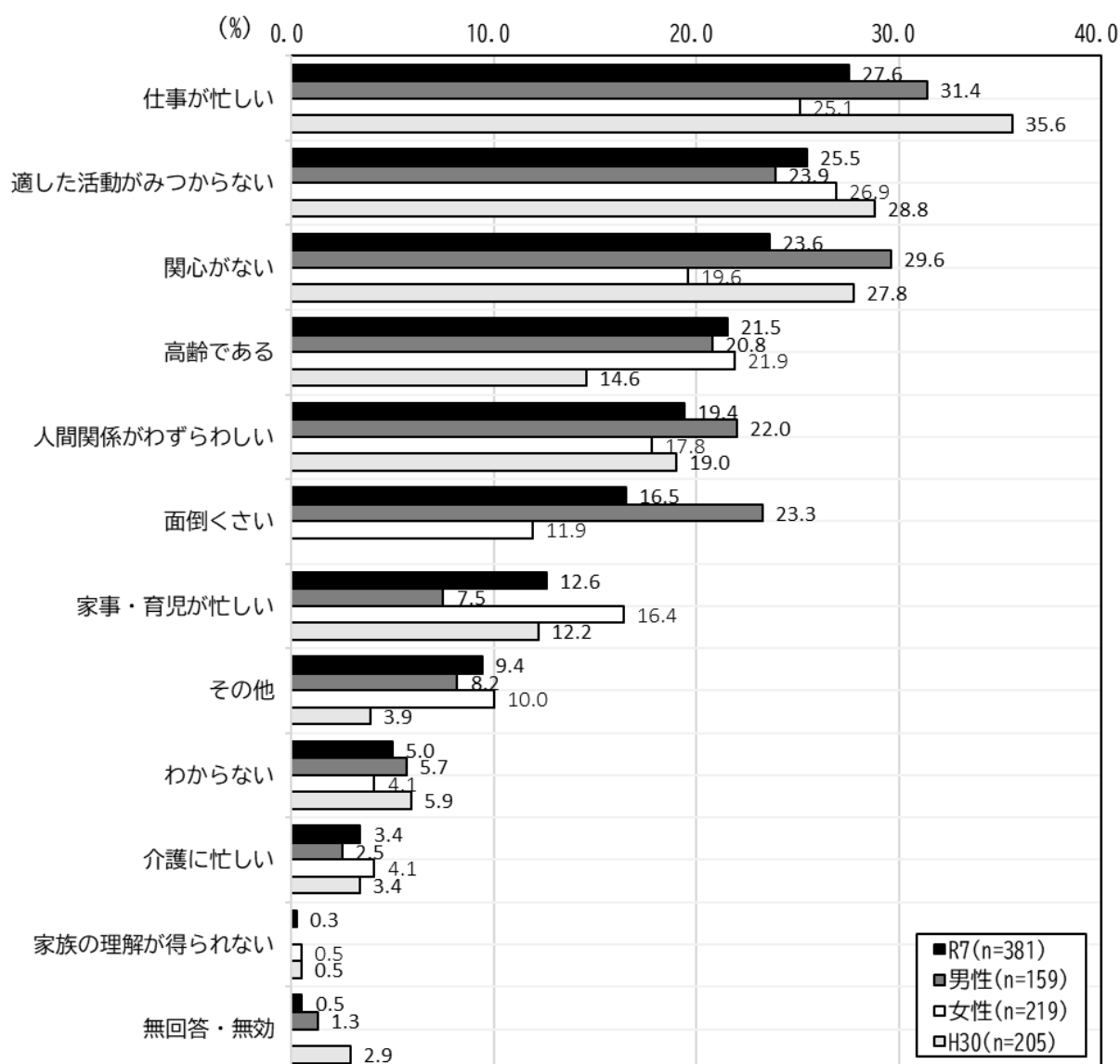
		n	て様男 い々女 るなと 役も 割対 を等 担に つ	た参 よ加 りす が る 性 別 に か	た女 が ら が な い に 就 き	傾補性 向助が が 的 就 の あ 役 職 に 女 性 は く は 男	うけ活 こな動 とどの がは準 多女備 い性や が片付	特 に な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効
合計		327	26.6	31.5	14.4	24.8	11.3	27.8	1.5	0.9
性別	男性	157	31.8	32.5	23.6	31.2	9.6	18.5	2.5	0.6
	女性	168	22.0	31.0	6.0	19.0	13.1	35.7	0.6	1.2
	その他	2						100.0		
男性	10代	3		66.7		66.7				
	20代	6	66.7	16.7				16.7	16.7	
	30代	9	44.4	22.2	11.1	11.1	11.1	11.1		
	40代	21	38.1	33.3	19.0	23.8		19.0		
	50代	24	16.7	20.8	29.2	20.8	4.2	33.3		
	60代	41	24.4	41.5	29.3	31.7	12.2	14.6	4.9	
	70歳以上	53	37.7	32.1	24.5	43.4	15.1	17.0	1.9	1.9
女性	10代	1	100.0							
	20代	4	25.0	50.0			25.0	25.0		
	30代	16	31.3	50.0		6.3	12.5	25.0	6.3	
	40代	27	18.5	48.1	7.4	18.5	14.8	29.6		
	50代	37	18.9	24.3	2.7	16.2	5.4	43.2		2.7
	60代	40	17.5	27.5	5.0	20.0	15.0	40.0		
	70歳以上	43	25.6	20.9	11.6	27.9	16.3	34.9		2.3
その他		2						100.0		
就業等	正社員	109	25.7	28.4	14.7	22.0	9.2	23.9	1.8	0.0
	契約・派遣・パート・アルバイト	65	26.2	40.0	10.8	15.4	6.2	35.4	1.5	1.5
	農業、自営業・経営者・内職	37	32.4	24.3	10.8	29.7	13.5	29.7	0.0	0.0
	専業主婦・主夫	18	11.1	22.2	5.6	22.2	22.2	38.9	0.0	0.0
	無職・学生	72	27.8	37.5	20.8	34.7	15.3	22.2	1.4	0.0
	その他	6	0.0	66.7	33.3	50.0	16.7	33.3	0.0	0.0
	不明	20	40.0	10.0	10.0	20.0	10.0	30.0	5.0	10.0

問 18 問 16 で「6 活動していない」と回答した方に伺います。活動をしていない理由はなんですか。次の中から選んでください。

- ・地域活動をしていない理由は、「仕事が忙しい」(27.6%) が最も高く、次いで「適した活動が見つからない」(25.5%)、「関心がない」(23.6%) となっています。

[男女別・過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「仕事が忙しい」が 8.0 ポイント減少し、「高齢である」が 6.9 ポイント増加しています。
- ・男性は「仕事が忙しい」(31.4%) が最も高く、次いで「関心がない」(29.6%)、「適した活動が見つからない」(23.9%) となっています。女性は「適した活動が見つからない」(26.9%) が最も高く、次いで「仕事が忙しい」(25.1%)、「高齢である」(21.9%) となっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「面倒くさい」が 11.4 ポイント差で、男性が女性を上回っています。



その他：健康上の理由、活動の順番待ち、車の運転ができない、自分以外の家族が活動しているから、地域内に活動がない、学業が忙しい、参加する機会や情報がない など

[男女年代別・就業別]

- ・男女年代別でみると、男性で1番目に高い「仕事が忙しい」は男性30代（60.9%）、女性で1番目に高い「適した活動が見つからない」は女性60代（48.9%）が全体より高くなっています。また、「家事・育児が忙しい」は、女性30代（45.0%）が高くなっています。
- ・男女別で特に差が大きかった「面倒くさい」は、男性50代（32.0%）や男性30代（30.4%）が全体より高くなっています。
- ・就業別でみると、専業主婦・主夫は「適した活動が見つからない」（41.2%）が全体より高くなっています。

n		忙し い・育 児が	仕事 が忙 しい	介 護に 忙し い	ず人 ら間 わ関 係し いが わ	高 齢 で あ る	得家 ら族 れの 理不 解が	み適 つた から 活動 ない	関 心 が な い	面 倒 く さ い	わ か ら な い	そ の 他	無 回 答 ・ 無 効	
合計	381	12.6	27.6	3.4	19.4	21.5	0.3	25.5	23.6	16.5	5.0	9.4	0.5	
性別	男性	159	7.5	31.4	2.5	22.0	20.8	23.9	29.6	23.3	5.7	8.2	1.3	
	女性	219	16.4	25.1	4.1	17.8	21.9	26.9	19.6	11.9	4.1	10.0		
	その他	2									50.0	50.0		
	不明	1					100.0							
男性	10代	2						50.0	50.0	100.0				
	20代	8		25.0		12.5		25.0	50.0	25.0		25.0		
	30代	23	17.4	60.9		26.1		13.0	39.1	30.4	13.0			
	40代	25	12.0	56.0		24.0		28.0	28.0	24.0	4.0	8.0		
	50代	25	12.0	32.0	4.0	32.0		20.0	28.0	32.0	12.0		4.0	
	60代	31	3.2	29.0	9.7	25.8	22.6	35.5	25.8	19.4	3.2	9.7		
	70歳以上	45	2.2	6.7		13.3	57.8	20.0	24.4	13.3	2.2	13.3	2.2	
女性	10代	3				33.3		66.7	66.7					
	20代	25	16.0	28.0		12.0		24.0	32.0	12.0	4.0	16.0		
	30代	20	45.0	50.0		25.0		20.0	25.0	25.0	5.0	10.0		
	40代	32	31.3	46.9		28.1		15.6	28.1	18.8	6.3	6.3		
	50代	33	15.2	30.3	6.1	21.2		39.4	15.2	9.1	6.1	12.1		
	60代	45	11.1	22.2	8.9	11.1	11.1	48.9	13.3	13.3	6.7	11.1		
	70歳以上	61	4.9	4.9	4.9	14.8	70.5	1.6	11.5	13.1	4.9		8.2	
その他	2										50.0	50.0		
不明	1					100.0								
就業等	正社員	133	15.8	52.6	3.0	21.1	2.3	0.0	23.3	30.8	27.8	7.5	3.0	0.8
	契約・派遣・パート・アルバイト	86	11.6	26.7	1.2	19.8	12.8	1.2	33.7	22.1	17.4	5.8	11.6	0.0
	農業・自営業・経営者・内職	27	11.1	29.6	3.7	29.6	40.7	0.0	11.1	18.5	11.1	0.0	7.4	0.0
	専業主婦・主夫	17	35.3	0.0	11.8	29.4	29.4	0.0	41.2	23.5	0.0	5.9	5.9	0.0
	無職・学生	85	4.7	0.0	4.7	12.9	42.4	0.0	23.5	20.0	9.4	3.5	14.1	1.2
	その他	2	0.0	50.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不明	31	12.9	9.7	3.2	16.1	48.4	0.0	22.6	12.9	0.0	0.0	22.6	0.0

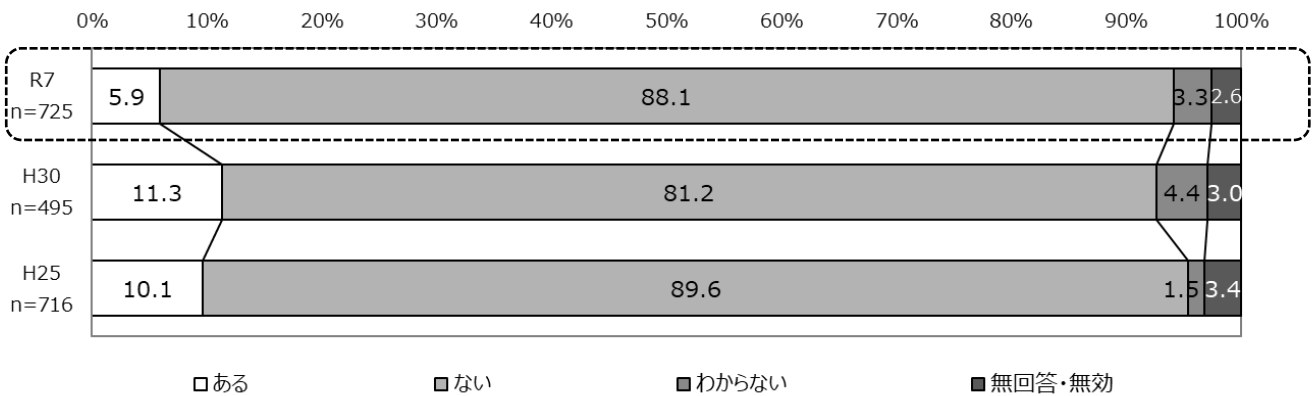
## 人権が尊重される社会の形成について

問 19 あなたは配偶者（パートナー含む）や恋人から暴力を受けたことがありますか。

- ・配偶者（パートナー含む）や恋人から暴力を受けた経験は、「ない」（88.1%）が最も高く、次いで「ある」（5.9%）、「わからない」（3.3%）となっています。

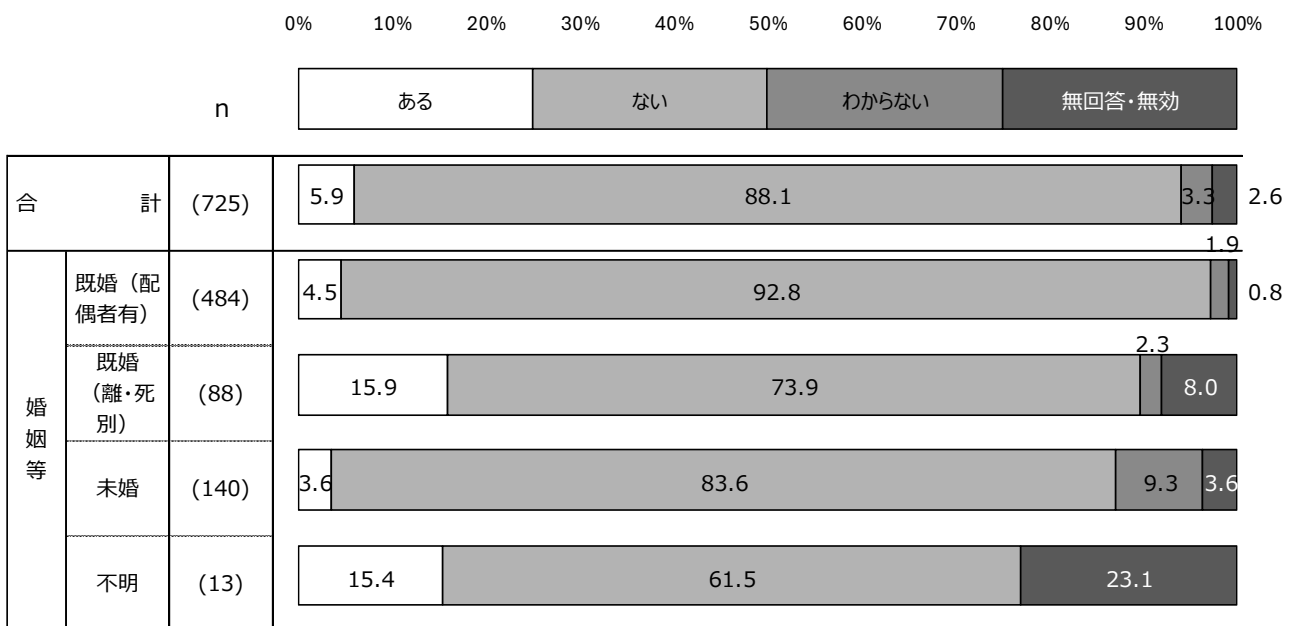
### [過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「ある」の割合が5.4ポイント減少しています。



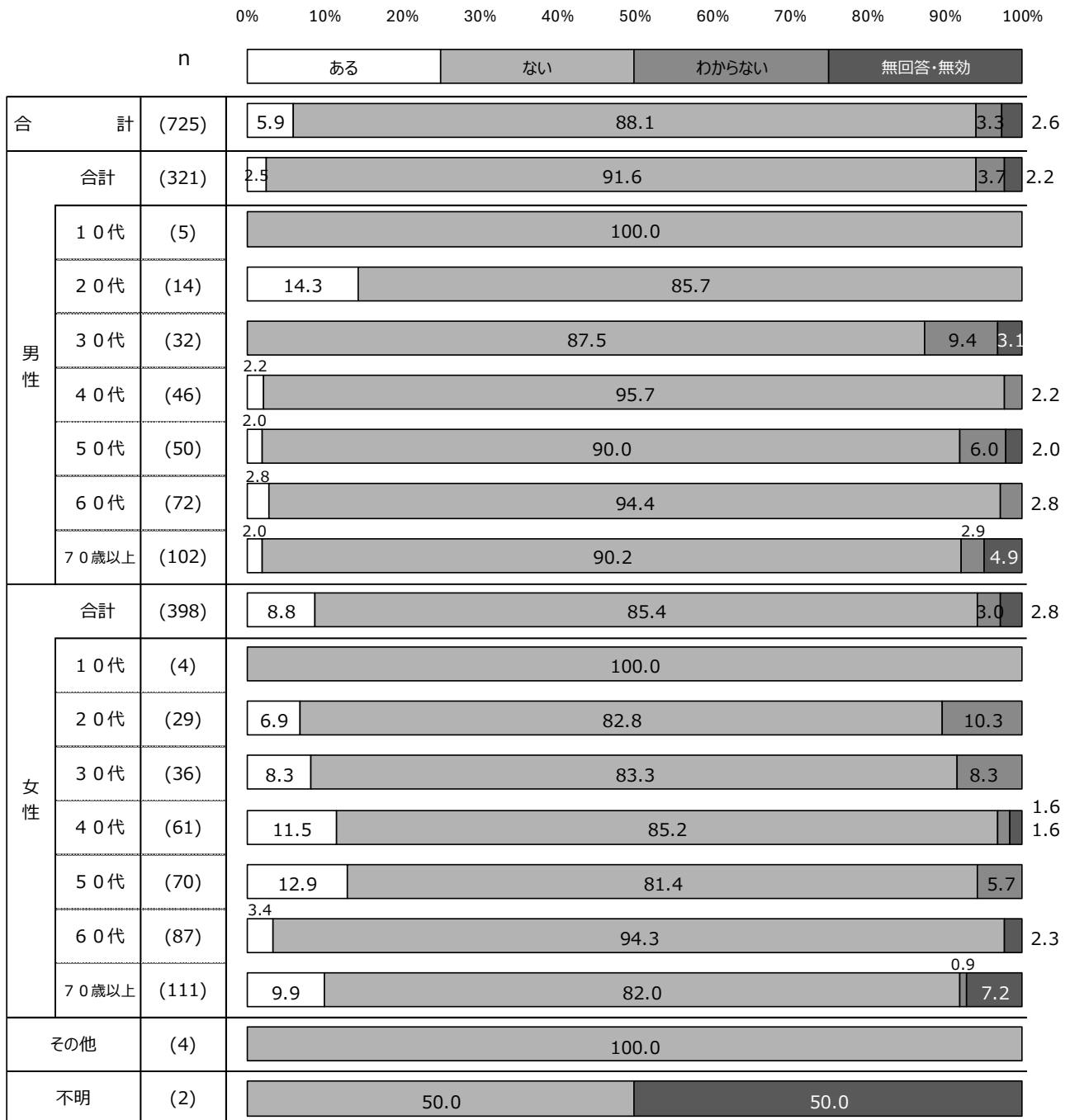
### [婚姻状況別]

- ・「既婚（離・死別）」が暴力を受けた経験がある割合（15.9%）は、他の婚姻状況より高くなっています。



[男女別・男女年代別]

- ・暴力を受けた経験が「ある」男性は2.5%、女性は8.8%と、女性の方が暴力を受けた経験がある割合が高くなっています。
- ・男女年代別でみると、男性は20代（14.3%）、女性は50代（12.9%）、40代（11.5%）、70歳以上（9.9%）が高くなっています。

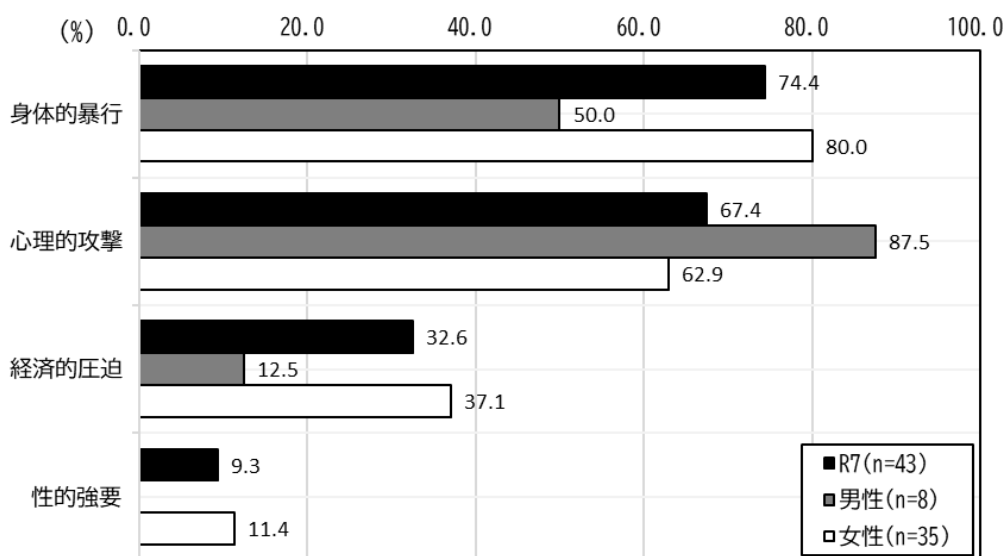


問 20 問 19 で「1 ある」と回答した方に伺います。それはどのようなことですか。次の中から選んで下さい。(複数回答)

- ・暴力を受けた経験がある人のうち、暴力の内容は、「身体的暴行」(74.4%)が最も高く、次いで「心理的攻撃」(67.4%)、「経済的圧迫」(32.6%)となっています。

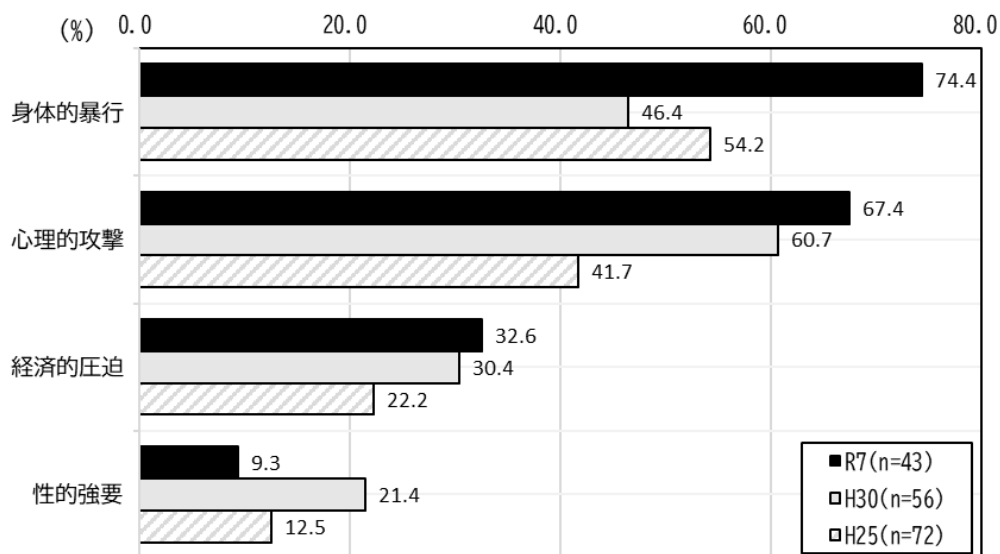
[男女別]

- ・男性は「心理的攻撃」(87.5%)、女性は「身体的暴行」(80.0%)が最も高くなっています。



[過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「身体的暴行」が 28.0 ポイントと大きく増加し、「性的強要」が 12.1 ポイント減少しています。
- ・「心理的攻撃」や「経済的圧迫」の割合は、依然として増加傾向にあります。

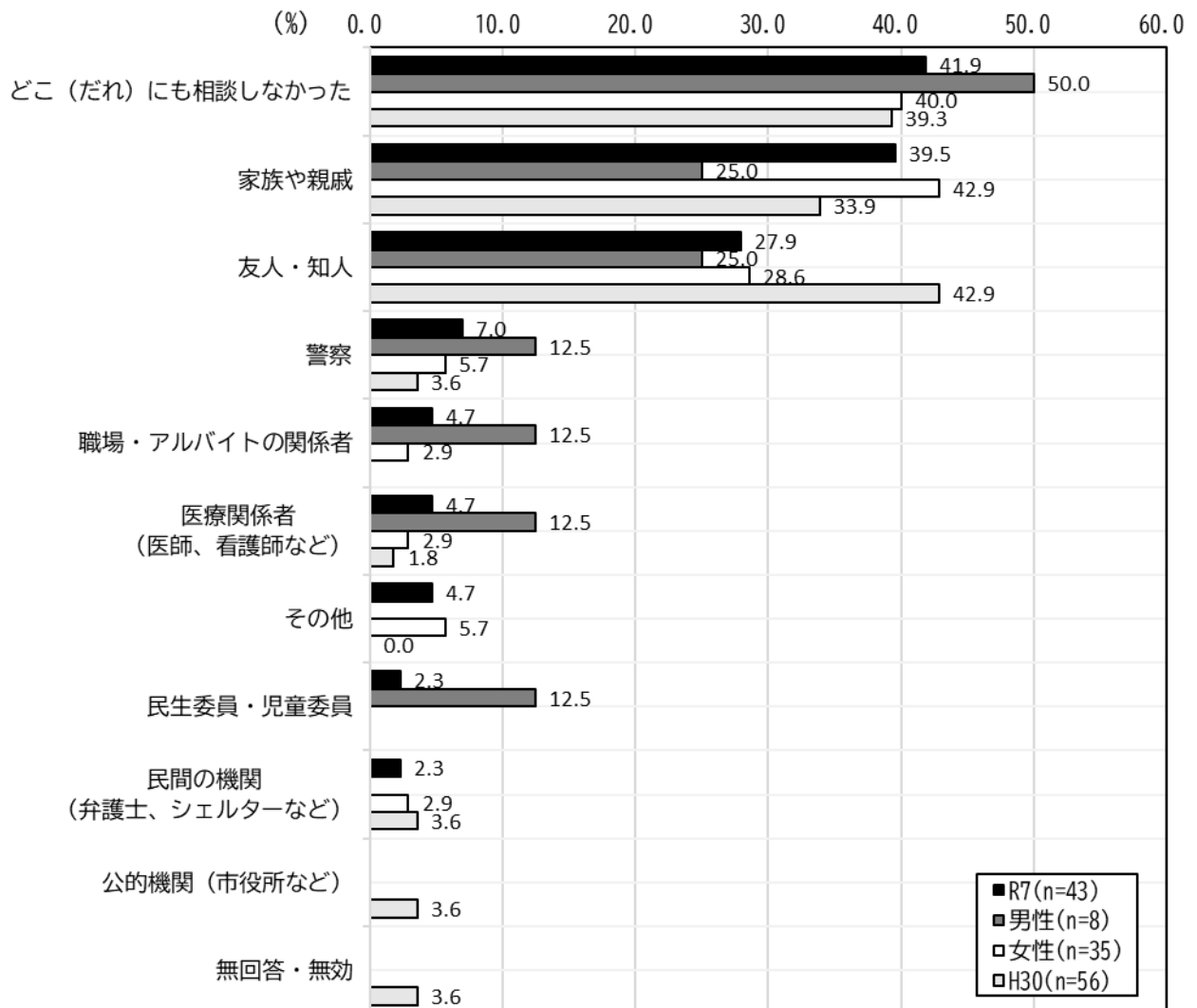


問 21 問 19 で「1 ある」と回答した方に伺います。これまで、配偶者等から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(複数回答)

・誰かに打ち明けたり、相談したかについては、「どこ（だれ）にも相談しなかった」(41.9%) が最も高く、次いで「家族や親戚」(39.5%)、「友人・知人」(27.9%) となっており、男女とも多くが相談に至っていないことがわかります。

[男女別・過去調査との比較]

- ・前回調査よりも「友人・知人に相談した」割合が 15.0 ポイント減少しています。
- ・男性は「どこ（だれ）にも相談しなかった」(50.0%)、女性は「家族や親戚」(42.9%) が高くなっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「家族や親戚」が 17.9 ポイント差で、女性が男性を上回っています。また、「民生委員・児童委員」は 12.5 ポイント差で、男性のみ相談先としています。



※「学校関係者（教員、スクールカウンセラーなど）」「配偶者暴力相談支援センター等」「法務局、人権擁護委員」「電話ホットライン・メール相談・SNS 相談」は 0 票

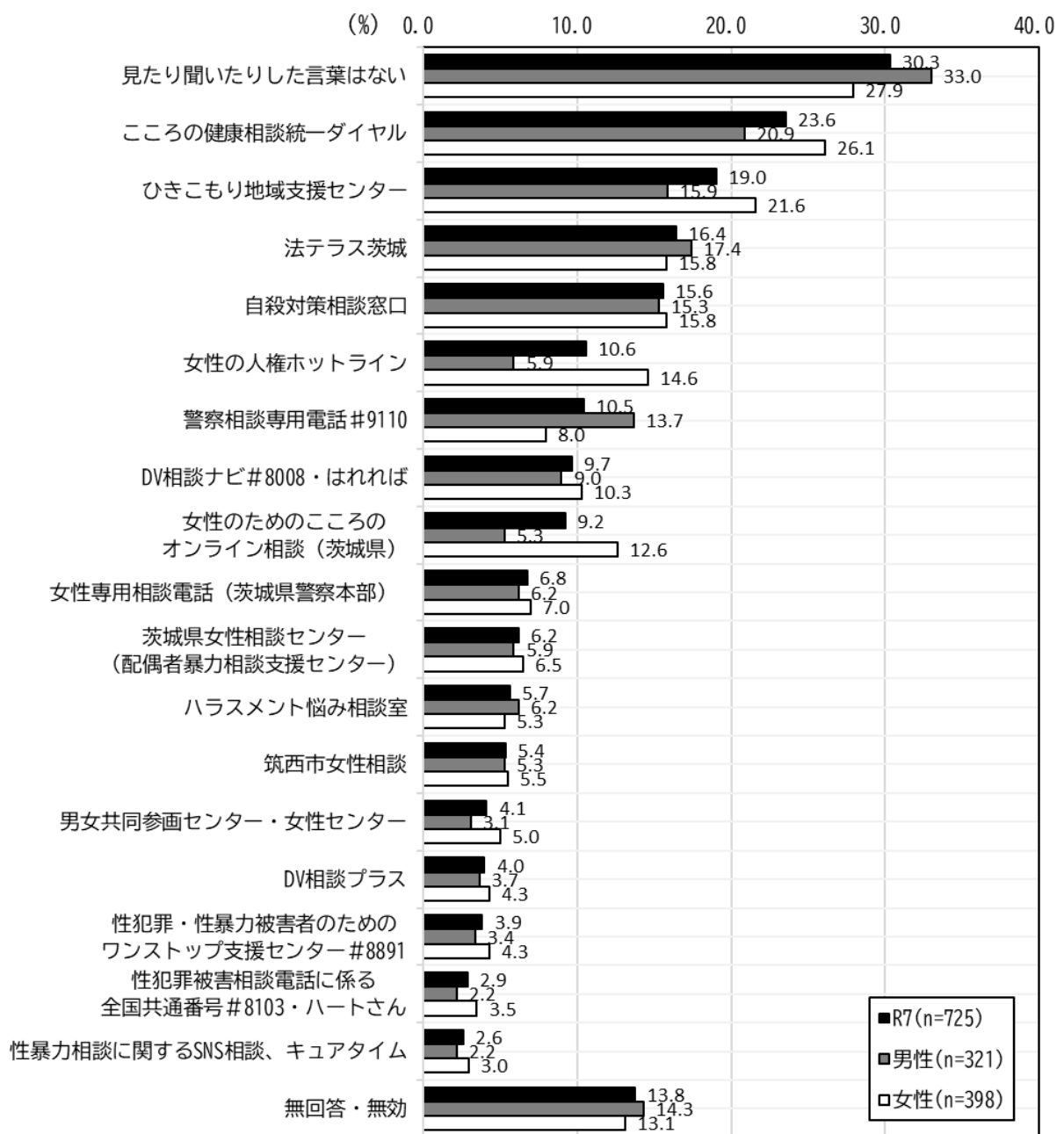
その他：親身になって聞いてくれる人がいなかった、大声を出されることが DV だと知らなかった など

問 22 女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などについて、見聞きしたことがあるものはありますか。(複数回答)

- ・「見たり聞いたりした言葉はない」(30.3%) が最も高く、次いで「こころの健康相談統一ダイヤル」(23.6%)、「ひきこもり地域支援センター」(19.0%) となっています。

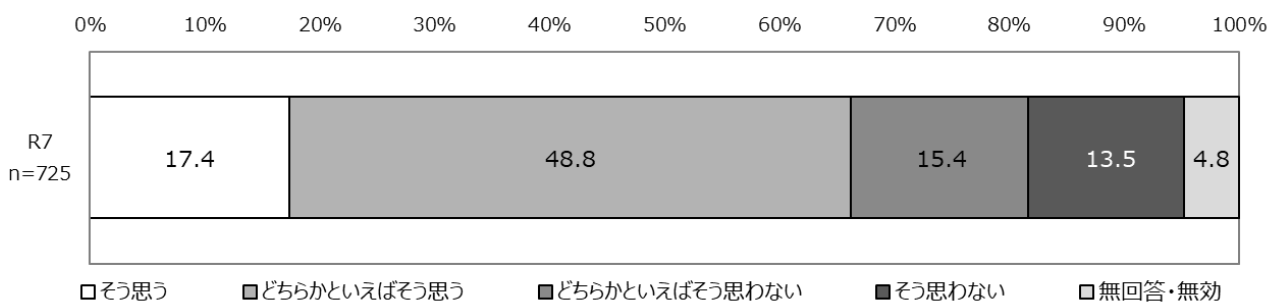
[男女別]

- ・男女ともに「見たり聞いたりした言葉はない」(男性 33.0%、女性 27.9%) が最も高く、次いで「こころの健康相談統一ダイヤル」(男性 20.9%、女性 26.1%) となっています。3番目に高いのは、男性は「法テラス茨城」(17.4%)、女性は「ひきこもり地域支援センター」(21.6%) となっています。



問 23 あなたは、現在、偏見や差別などの人権侵害により、LGBTQ（性的マイノリティ）の方々が生活しづらい社会だと思いますか。

・ LGBTQ（性的マイノリティ）の方々が生活しづらい社会だと思うか、『そう思う』割合（「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」）は約7割となっています。



[男女別・男女年代別]

- ・『そう思う』割合は、男性が61.6%、女性は70.4%となっています。
- ・男性30代を除くすべての年代で『そう思う』が上回っており、特に女性60代(79.3%)、女性40代(78.7%)、女性50代(77.2%)が高くなっています。一方で、男性30代は『そう思う』と『そう思わない』がいずれも50.1%となっています。

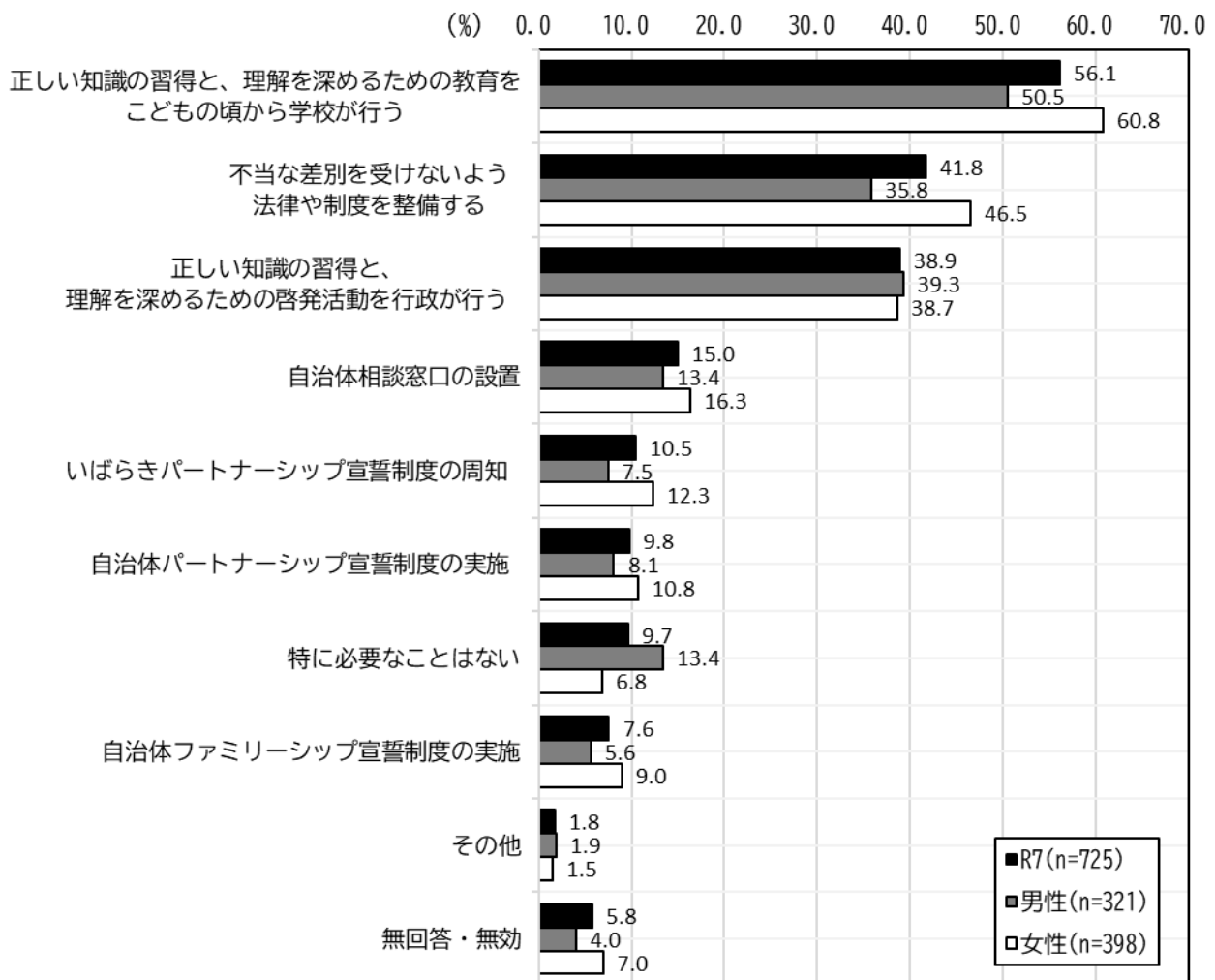
		n	0%	10%	20%	30%	40%	50%	60%	70%	80%	90%	100%	
			そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない					無回答・無効			
合	計	(725)	17.4	48.8			15.4	13.5	4.8					
男	性	合計	(321)	19.9	41.7			18.1	16.8	3.4				
		10代	(5)	20.0	40.0			20.0	20.0					
		20代	(14)	28.6	35.7			35.7						
		30代	(32)	18.8	31.3	18.8	31.3							
		40代	(46)	34.8	34.8			17.4	13.0					
		50代	(50)	22.0	46.0			18.0	14.0					
		60代	(72)	20.8	47.2			15.3	13.9	2.8				
		70歳以上	(102)	10.8	43.1			22.5	14.7	8.8				
女	性	合計	(398)	15.1	55.3			12.8	11.1	5.8				
		10代	(4)	75.0			25.0							
		20代	(29)	20.7	51.7			17.2	10.3					
		30代	(36)	13.9	50.0			22.2	11.1	2.8				
		40代	(61)	21.3	57.4			13.1	8.2					
		50代	(70)	12.9	64.3			12.9	10.0					
		60代	(87)	18.4	60.9			10.3	6.9	3.4				
		70歳以上	(111)	9.9	45.9			9.9	17.1	17.1				
その他	(4)	50.0			50.0									
不明	(2)	50.0			50.0									

問 24 LGBTQ（性的マイノリティ）の方々の人権を守るために、どのような方策が必要だと思いますか。（複数回答）

- ・「正しい知識の習得と、理解を深めるための教育をこどもの頃から学校が行う」（56.1%）が最も高く、次いで「不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する」（41.8%）、「正しい知識の習得と、理解を深めるための啓発活動を行政が行う」（38.9%）となっています。

[男女別]

- ・男女ともに「正しい知識の習得と、理解を深めるための教育をこどもの頃から学校が行う」（男性 50.5%、女性 60.8%）が最も高く、次いで男性は「正しい知識の習得と、理解を深めるための啓発活動を行政が行う」（39.3%）、女性は「不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する」（46.5%）となっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する」が 10.7 ポイント差、「正しい知識の習得と、理解を深めるための教育をこどもの頃から学校が行う」が 10.3 ポイント差でいずれも女性が上回っています。



その他：親子間での教育、LGBTQ へのなりすましへの厳罰、高齢層の理解を深めるべき、同性婚の実現、方策は必要ない（時間で解決する）、わからない など

[男女年代別]

- ・男女年代別でみると、1番目に高い「正しい知識の習得と、理解を深めるための教育をこどもの頃から学校が行う」は男性20代(71.4%)や女性40代(75.4%)、男性で2番目に高い「正しい知識の習得と、理解を深めるための啓発活動を行政が行う」は男性20代(57.1%)や男性60代(50.0%)、女性で2番目に高い「不当な差別を受けにくいよう法律や制度を整備する」は女性40代(63.9%)が全体より高くなっています。

	n	校育理正 がを解し 行こをい うどもめ のるの 頃ため から学 教	発理正 活解し 動を深 を深 行め 政が た 行 う	すよ う 法 律 差 別 や 制 度 を 受 け な い よ う に 整 備 す る	シ い ば ら き バ ー ト ナ ー 知	ブ 自 治 体 バ ー ト ナ ー シ ツ	ブ 自 治 体 フ ア ミ リ ー シ ツ	自 治 体 相 談 窓 口 の 設 置	そ の 他	特 に 必 要 な こ と は な い	無 回 答 ・ 無 効	
合計	725	56.1	38.9	41.8	10.5	9.8	7.6	15.0	1.8	9.7	5.8	
性別	男性	321	50.5	39.3	35.8	7.5	8.1	5.6	13.4	1.9	13.4	4.0
	女性	398	60.8	38.7	46.5	12.3	10.8	9.0	16.3	1.5	6.8	7.0
	その他	4	75.0	50.0	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0			
	不明	2			50.0	50.0	50.0					50.0
男性	10代	5	60.0	20.0	60.0	40.0	20.0	40.0				
	20代	14	71.4	57.1	42.9	7.1	7.1	7.1	14.3		14.3	
	30代	32	50.0	34.4	28.1	9.4	9.4	6.3	6.3	6.3	28.1	
	40代	46	58.7	47.8	39.1	10.9	6.5	10.9	10.9	4.3	13.0	2.2
	50代	50	38.0	24.0	38.0	12.0	14.0	6.0	12.0	4.0	20.0	2.0
	60代	72	54.2	50.0	43.1	6.9	4.2	5.6	13.9		8.3	
	70歳以上	102	47.1	35.3	28.4	2.0	7.8	1.0	17.6		9.8	10.8
女性	10代	4	100.0	50.0	75.0	25.0	25.0	25.0	25.0			
	20代	29	58.6	44.8	27.6	6.9	17.2	10.3	13.8		17.2	
	30代	36	55.6	30.6	30.6	19.4	13.9	11.1	13.9	2.8	16.7	2.8
	40代	61	75.4	44.3	63.9	21.3	11.5	11.5	11.5	1.6	4.9	
	50代	70	68.6	47.1	57.1	8.6	11.4	8.6	14.3	1.4	2.9	1.4
	60代	87	58.6	44.8	39.1	12.6	10.3	10.3	14.9	3.4	6.9	3.4
	70歳以上	111	50.5	26.1	45.0	8.1	7.2	5.4	22.5		4.5	20.7
その他	4	75.0	50.0	50.0	50.0	25.0	25.0	25.0	25.0			
不明	2			50.0	50.0	50.0					50.0	

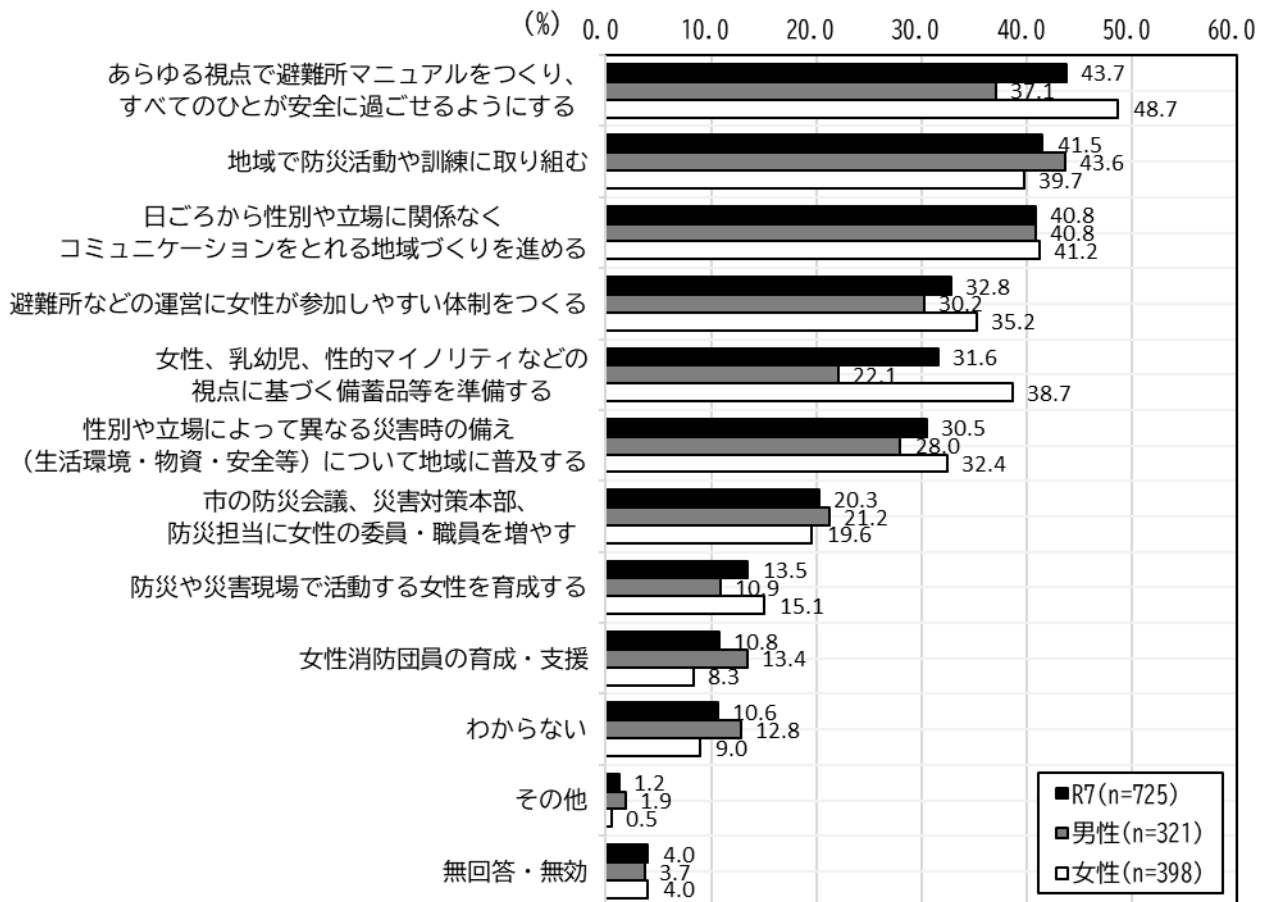
## 男女共同参画社会づくりに向けた筑西市の施策について

問 25 平時の防災体制や災害発生後の対応に男女共同参画の視点が必要だと指摘されています。災害に備えるため、今後どのような取組が必要だと思いますか。(複数回答)

- ・「あらゆる視点で避難所マニュアルをつくり、すべてのひとが安全に過ごせるようにする」(43.7%) が最も高く、次いで「地域で防災活動や訓練に取り組む」(41.5%)、「日ごろから性別や立場に関係なくコミュニケーションをとれる地域づくりを進める」(40.8%) となっています。

### [男女別]

- ・男性は「地域で防災活動や訓練に取り組む」(43.6%)、女性は「あらゆる視点で避難所マニュアルをつくり、すべてのひとが安全に過ごせるようにする」(48.7%) が最も高くなっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「女性、乳幼児、性的マイノリティなどの視点に基づく備蓄品等を準備する」が16.6ポイント差、「あらゆる視点で避難所マニュアルをつくり、すべてのひとが安全に過ごせるようにする」が11.6ポイント差でいずれも女性が上回っています。



その他：防災士の育成、男女平等に参加する、地域活動にはその地区の市職員も地元に戻って一緒に訓練をする、各自の意識作り、女性は参加しなくてよい など

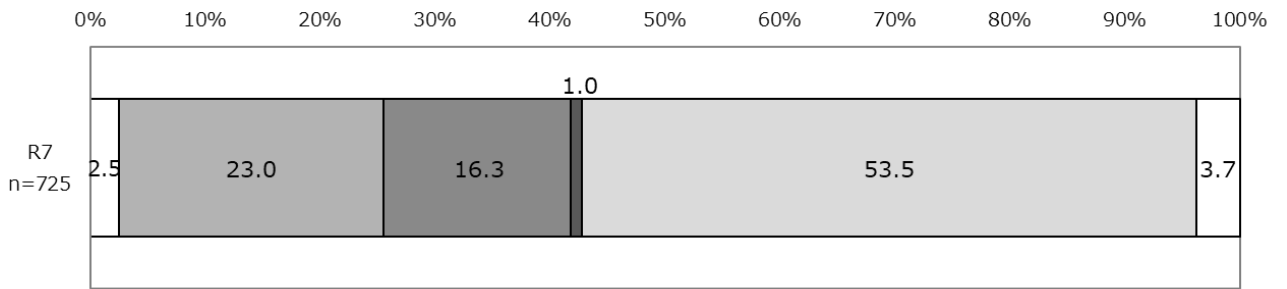
[男女年代別・就業別]

- ・男女年代別でみると、女性で1番目に高い「あらゆる視点で避難所マニュアルをつくり、すべてのひとが安全に過ごせるようにする」は、女性70歳以上(62.2%)で全体より高くなっています。
- ・男女別で特に差が大きかった「女性、乳幼児、性的マイノリティなどの視点に基づく備蓄品等を準備する」は、女性30代(63.9%)が全体より高くなっています。
- ・就業別でみると、無職・学生は「あらゆる視点で避難所マニュアルをつくり、すべてのひとが安全に過ごせるようにする」(53.4%)が全体より高くなっています。

		n	取地 り域 組で 防 災 活 動 や 訓 練 に	委本 員部の 職防 災会 員担 を議 増に やす 災害 性の 対策	援女 性消 防団 員の 育 成・ 支	くが 参 加所 しな どの 運 営に 女 性	防 災 や 災 害 現 場 で 活 動 す る	リシ 関 係 な く か ら な い ユ ニ バ ー ス に あ ら ゆる 視 点 で 避 難 所 マ ニ ュ ア ル を つ く り 、 す べ て の ひ と が 安 全 に 過 ご せ る よ う に す る	日 ご ろ の 性 別 の 立 場 に あ ら ゆる 視 点 で 避 難 所 マ ニ ュ ア ル を つ く り 、 す べ て の ひ と が 安 全 に 過 ご せ る よ う に す る	女 性 、 乳 幼 児 、 性 的 マ イ ノ リ ティ な ど の 視 点 に 基 づく 備 蓄 品 等 を 準 備 す る	境 界 を 超 え 、 普 及 す る	性 別 や 立 場 に よ つ て 異 な る 備 蓄 品 を 準 備 す る	あ ら ゆる 視 点 で 避 難 所 マ ニ ュ ア ル を つ く り 、 す べ て の ひ と が 安 全 に 過 ご せ る よ う に す る	そ の 他	わ か ら な い	無 回 答 ・ 無 効
合計		725	41.5	20.3	10.8	32.8	13.5	40.8	31.6	30.5	43.7	1.2	10.6	4.0		
性別	男性	321	43.6	21.2	13.4	30.2	10.9	40.8	22.1	28.0	37.1	1.9	12.8	3.7		
	女性	398	39.7	19.6	8.3	35.2	15.1	41.2	38.7	32.4	48.7	0.5	9.0	4.0		
	その他	4	75.0	25.0	25.0	25.0	50.0		100.0	50.0	75.0	25.0				
	不明	2			50.0		50.0	50.0			50.0			50.0		
男性	10代	5	60.0	40.0	20.0	60.0	40.0	40.0	40.0	60.0	40.0					
	20代	14	50.0	28.6	14.3	21.4	7.1	42.9	42.9	35.7	42.9	7.1	7.1			
	30代	32	53.1	12.5	9.4	21.9		43.8	31.3	31.3	28.1	3.1	15.6			
	40代	46	37.0	13.0	6.5	28.3	10.9	34.8	26.1	28.3	32.6		15.2	2.2		
	50代	50	30.0	26.0	14.0	26.0	6.0	36.0	18.0	24.0	24.0	2.0	20.0	2.0		
	60代	72	41.7	26.4	22.2	33.3	13.9	37.5	20.8	31.9	38.9	1.4	9.7	5.6		
	70歳以上	102	50.0	19.6	10.8	33.3	13.7	47.1	16.7	23.5	46.1	2.0	10.8	5.9		
女性	10代	4	75.0	25.0		50.0	50.0	75.0	50.0	75.0	50.0					
	20代	29	41.4	17.2	17.2	37.9	17.2	55.2	51.7	44.8	48.3		6.9			
	30代	36	41.7	22.2	11.1	36.1	13.9	25.0	63.9	47.2	44.4		19.4			
	40代	61	37.7	24.6	9.8	27.9	19.7	42.6	52.5	44.3	37.7		3.3	1.6		
	50代	70	37.1	21.4	4.3	25.7	14.3	37.1	35.7	34.3	48.6		7.1			
	60代	87	39.1	14.9	3.4	35.6	10.3	42.5	32.2	21.8	41.4	1.1	12.6	5.7		
	70歳以上	111	40.5	18.9	10.8	43.2	15.3	42.3	26.1	23.4	62.2	0.9	8.1	9.0		
その他	4	75.0	25.0	25.0	25.0	50.0		100.0	50.0	75.0	25.0					
不明	2			50.0		50.0	50.0			50.0			50.0			
就業等	正社員	243	43.6	20.2	11.5	29.6	11.5	37.0	37.0	34.6	37.4	1.6	10.3	2.5		
	契約・派遣・パート・アルバイト	152	36.2	17.8	5.3	29.6	11.2	39.5	27.0	26.3	44.1	0.7	14.5	0.7		
	農業・自営業・経営者・内職	66	43.9	18.2	10.6	34.8	16.7	37.9	30.3	22.7	42.4	1.5	6.1	12.1		
	専業主婦・主夫	35	48.6	17.1	11.4	22.9	11.4	42.9	37.1	37.1	42.9	0.0	14.3	2.9		
	無職・学生	163	42.9	23.9	12.9	39.3	15.3	47.2	25.8	30.7	53.4	0.6	6.7	4.3		
	その他	11	27.3	18.2	0.0	45.5	0.0	45.5	36.4	18.2	36.4	0.0	27.3	9.1		
不明	55	38.2	21.8	18.2	38.2	23.6	43.6	34.5	30.9	45.5	3.6	12.7	9.1			

問 26 あなたは、筑西市の施策に女性の意見が反映されていると思いますか。

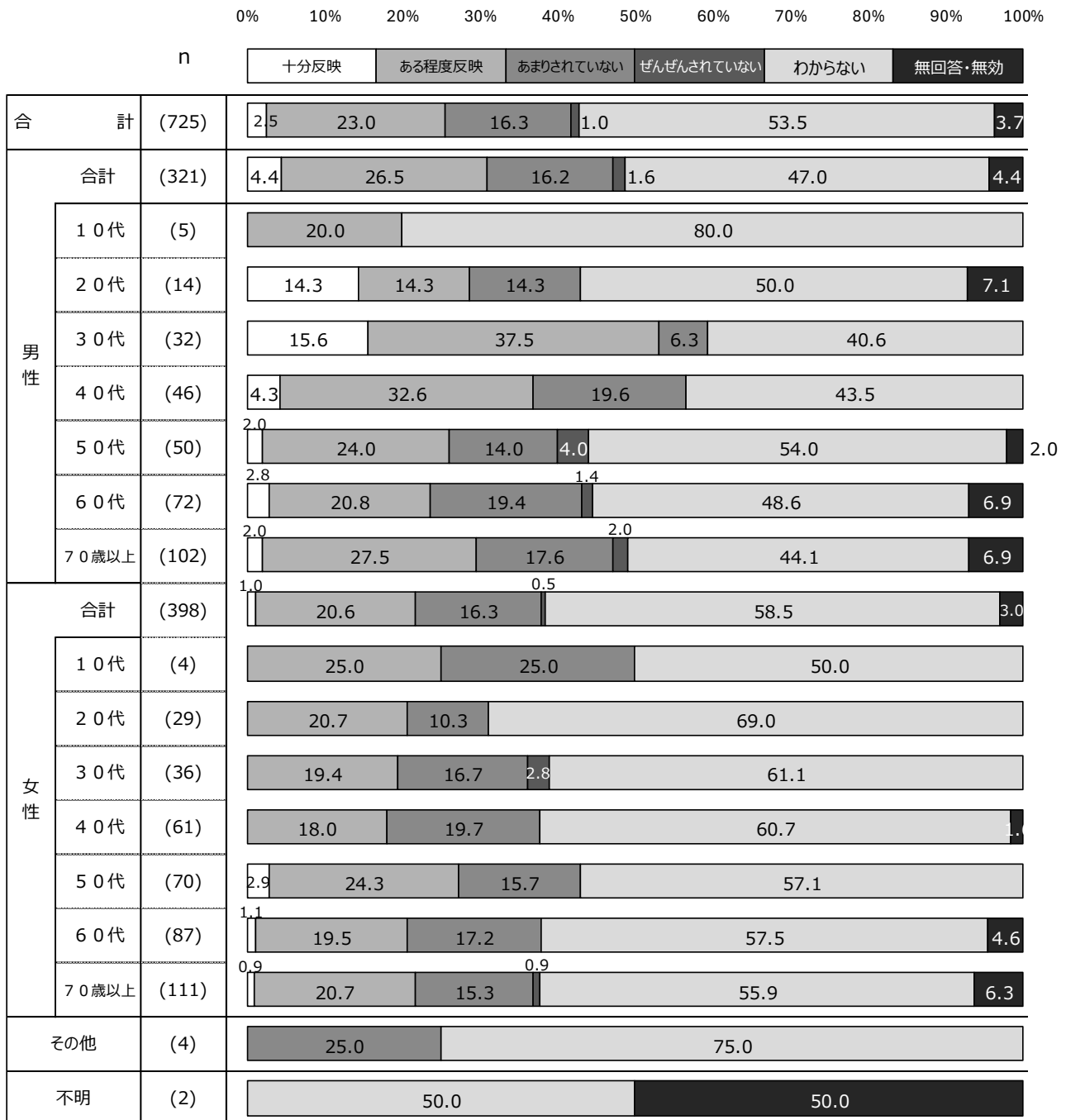
- ・筑西市の施策に女性の意見が反映されていると思うか、『反映されている』と思う割合（「十分反映されている」+「ある程度反映されている」）は2割五分となっています。
- ・一方で、「わからない」が53.5%と最も高くなっています。



□ 十分反映されている ■ ある程度反映されている ■ あまり反映されていない ■ ぜんぜん反映されていない □ わからない □ 無回答・無効

[男女別・男女年代別]

- ・『反映されている』と思う割合（「十分反映されている」+「ある程度反映されている」）は、男性が30.9%、女性は21.6%となっています。
- ・『反映されている』と思うのは、男性30代（53.1%）、男性40代（36.9%）が高くなっています。一方で、女性40代（18.0%）や女性30代（19.4%）では低くなっています。



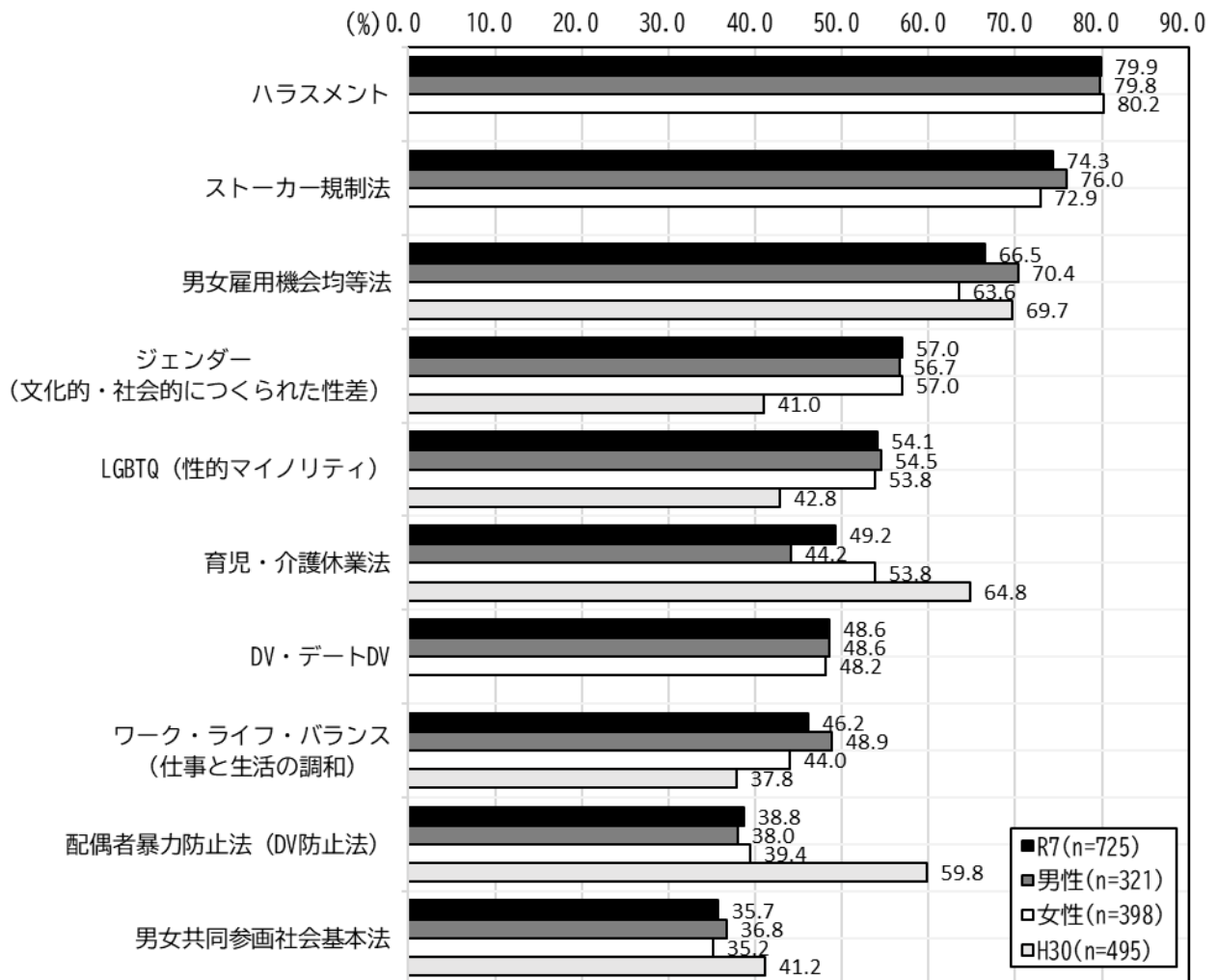
問 27 以下の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。  
(複数回答)

- ・認知度の高い言葉は、「ハラスメント」(79.9%)が最も高く、次いで「ストーカー規制法」(74.3%)、「男女雇用機会均等法」(66.5%)となっています。

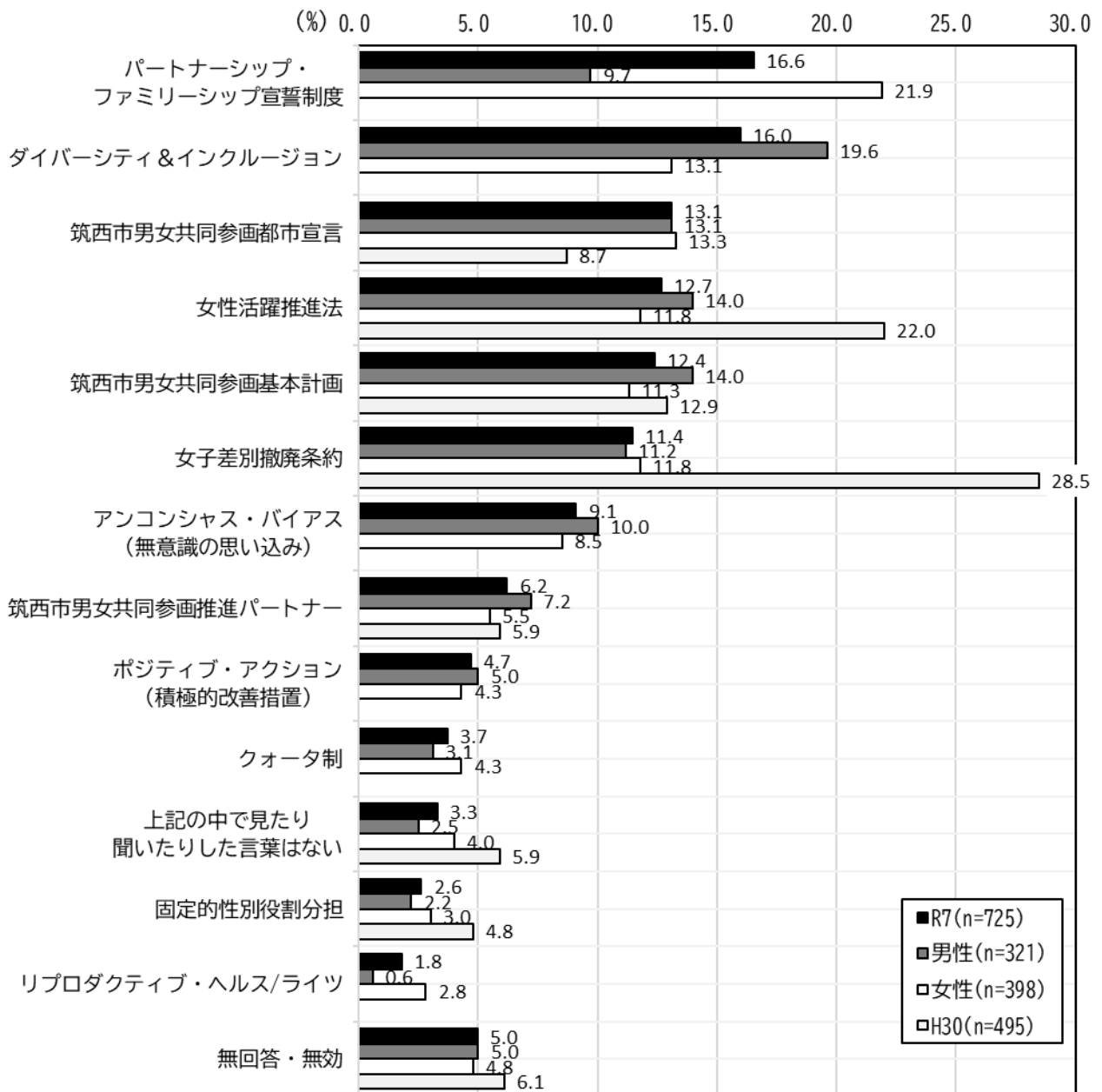
[男女別・過去調査との比較]

- ・男女ともに「ハラスメント」(男性79.8%、女性80.2%)が最も高く、次いで「ストーカー規制法」(男性76.0%、女性72.9%)、「男女雇用機会均等法」(男性70.4%、女性63.6%)となっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度」が12.2ポイント差、「育児・介護休業法」が9.6ポイント差でいずれも女性が上回っています。
- ・前回調査よりも「ジェンダー(文化的・社会的につくられた性差)」が16.0ポイント増加している一方で、「配偶者暴力防止法(DV防止法)」が21.0ポイント、「女子差別撤廃条約」が17.1ポイント減少しています。

◆上位10項目



◆11項目以降

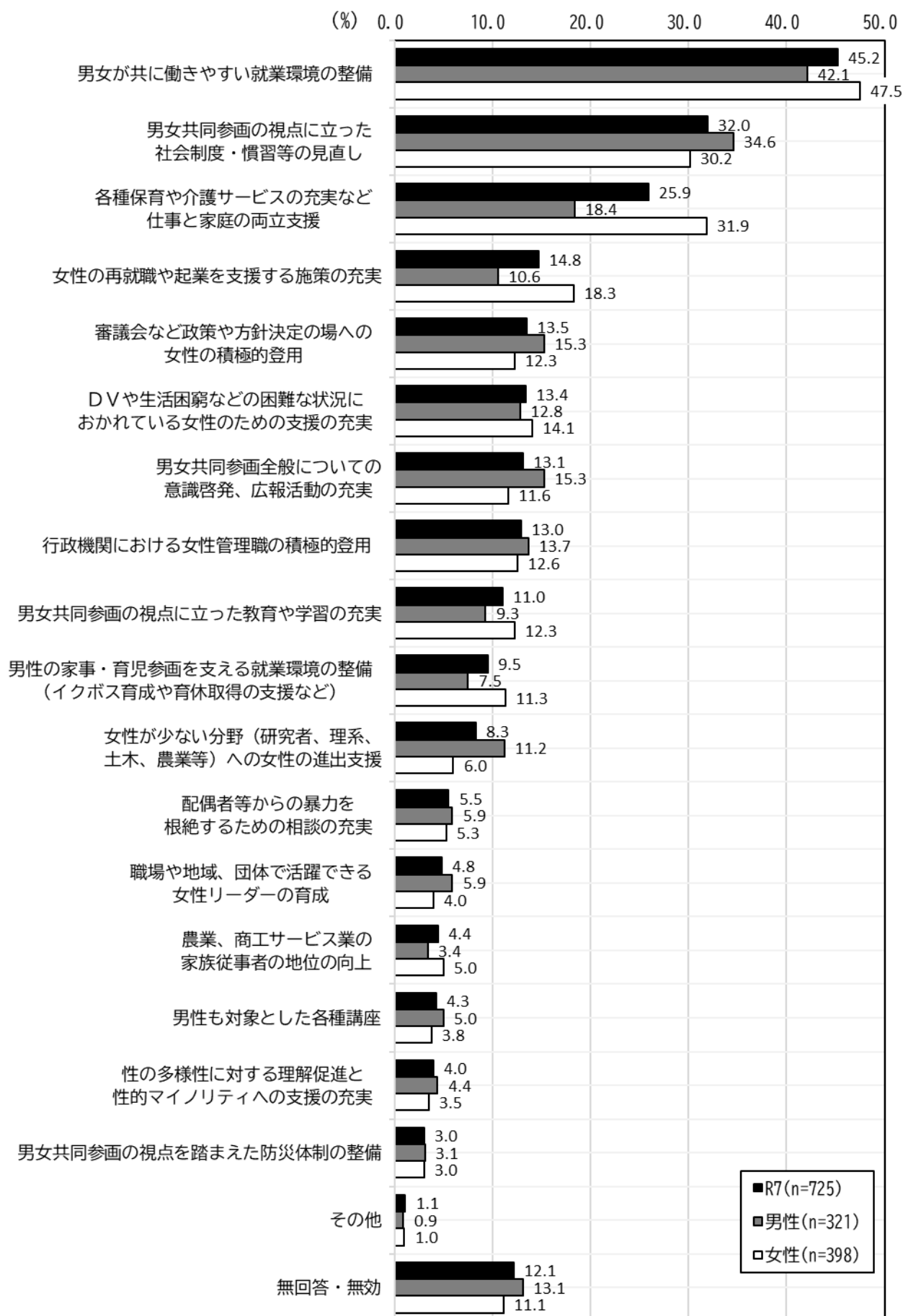


問 28 男女共同参画社会を実現していくために、筑西市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。特に重要だと思われるものを3つ選んでください。(複数回答)

- ・男女共同参画社会を実現していくために、筑西市が力を入れていくべきだと思うことは、「男女が共に働きやすい就業環境の整備」(45.2%)が最も高く、次いで「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣習等の見直し」(32.0%)、「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」(25.9%)となっています。

[男女別との比較]

- ・男女ともに「男女が共に働きやすい就業環境の整備」(男性42.1%、女性47.5%)が最も高く、次いで男性は「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣習等の見直し」(34.6%)、女性は「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」(31.9%)となっています。
- ・男女別で特に差が大きいのは「各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援」が13.5ポイント差、「女性の再就職や起業を支援する施策の充実」が7.7ポイント差でいずれも女性が上回っています。



男女平等や男女共同参画などについて普段感じていること、市へのご意見、ご要望等(自由記述)

・自由意見は以下の項目に分類し、集計しました。複数の項目に該当する場合、それぞれの件数に含まれています。

No.	分類	件数(件)
1	行政への要望	15
2	男女平等意識、男女共同参画社会	11
3	保育サービスの充実、子育てと仕事の両立、子育て支援等	9
4	家庭や地域など、身近な場における男女の平等	8
5	個人の尊重、男女それぞれの能力の発揮	7
6	女性の積極的な登用、女性の意識向上	4
7	雇用の場における男女の平等	3
8	アンケートについて	10
9	その他(感想など)	17
合計		84

### 1 行政への要望(主な意見抜粋)

- ・性別に関して話しやすい社会になり、生きづらさを感じる人が少しでも減っていけば良いと思います。スポーツなどにおける男女平等についても取り組んでいただきたいです。(男性 10代)
- ・DV相談など、市役所内で連携すればもっとスムーズになるのでは？(女性 30代)
- ・夫も自然に家事に参加してもらうために画期的なアイデアがあれば良いと思います。(女性 40代)
- ・夫が学校に出向いた時だけ対応してもらったいじめがあり、男女平等ではないと実感した。(女性 50代)
- ・市長が女性となりましたので女性の活躍の場が広がることを期待します。(女性 60代)
- ・多様性の時代、男女とかの区別でなく、性的マイノリティにも配慮しつつ、人間として性別など関係なく、誰もがウェルビーイングを目指した施策を実現してほしい。(女性 60代)
- ・筑西市でこんな計画をやっていたとは知りませんでした。ある程度の歳を重ねた私たちの世代では男性上位は変わらないと思います。次の世代では意識的に変われるよう、子供の頃からの教育で取り組んでいくのが良いのでは？(女性 60代)

### 2 男女平等意識、男女共同参画社会(主な意見抜粋)

- ・男女平等を目指すうえで、男性への逆差別についても考えなければならないと考えています。お互いに、当たり前に配慮し合える社会になってほしいと思います。(女性 10代)
- ・男女の性差を理解した上で平等を目指さなければならないと思っている。(女性 20代)
- ・男女平等にした方がいい事と、平等にしない方(平等にできない事)がいい事がある。適材適所。そもそも男性は、女性が不安・不満に思っている事柄をよく知らない。それを知る事から。(男性 40代)
- ・男女平等とは、「同じ」ではなく、性差を踏まえた上で互いにできることをし合い、補い合うことである。平等を履き違えて捉えている人がいます。その感覚から改正して欲しいと感じています。(女性 40代)
- ・まだまだ男性中心の社会だが、若い人たちはかなり平等意識が高まっていると思う。(女性 60代)
- ・男女平等、男女共同参画については、女性が強い、男性は弱い立場である。(男性 70歳以上)
- ・近年男女均等化はだいぶ、進んでいると思います。(男性 70歳以上)
- ・社会通念が男性優位になっている。(男性 70歳以上)

### 3 保育サービスの充実、子育てと仕事の両立、子育て支援等（主な意見抜粋）

- ・女性の働く所が少なく（特に子供がいる人）フルタイム、土、日どちらか出勤など、仕事につくと子供との時間がなくなる。子供が多い家庭に対する支援、補助金などが筑西市にはない。（女性 30 代）
- ・男女平等にかかわることわかりませんが、祖父、祖母などに子どもを見てもらえない土日等では、老人ホームなどで見てもらえるようなのがあれば子育ても少し気持ち的にも楽になるかなと思います。（女性 40 代）
- ・子供が病気をした時に預けられる場所、病院？があると助かります。やはりこのご時世、共働きじゃないとやっていけないので。（女性 40 代）
- ・今後も女性の地位・権利の向上・保護を推進しつつ、少子化改善に係る視点を取り入れた施策が必要だと思います。（男性 50 代）

### 4 家庭や地域など、身近な場における男女の平等（主な意見抜粋）

- ・女性側の苦勞にばかりフォーカスされるが、男性側の苦勞を女性側が受け入れようとしていない。男性が家事、育児、自治会の慣例行事、消防団活動などを行っている家庭は多々ありますが、女性が仕事、自治会、消防団をこなす事は稀でしょう。男女平等といっても、女性側に平等になる覚悟はない様に思う。（男性 30 代）
- ・男性の家事、育児に関して協力はまだまだだと思います。（女性 40 代）
- ・男性は家事を“手伝ってあげている”感覚で、生活に必要不可欠なことだから、“分担して当然”という考えはあまり持っていないのだと感じることが多くあります。女性の社会進出は進んだのに、男性の意識改革は本当に難しいのだと思います。（女性 40 代）
- ・筑西市の男女共同参画都市宣言から 14 年になるようですが、社会全体でも女性の社会進出は目に見えています。職場・政治の世界でも女性の活躍は素晴らしいと思います。その裏では、社会の手助け・旦那様の手助け・家族の手助けに支えられているのでしょうか。「支えられている」という認識を持つ事を忘れない女性であってほしいと思います。（女性 60 代）
- ・公の場所に参加する人は、いつも同じ人です。全員参加の環境がイマイチなのではないかと思います。（男性 70 歳以上）

### 5 個人の尊重、男女それぞれの能力の発揮（主な意見抜粋）

- ・仕事をしている中で感じましたが、重い荷物等を運ぶ際、「重いから男の人にやってもらう。お願いしよう」といった小さな男女間の偏見があるように思います。男性だってか弱い人もいるし、女性でも力が強い人はいます。もっと個人を見るべきだと思う。そういうことから意識を変えていくべきだと私は思います。（女性 20 代）
- ・男女関係なく個人の意思が優先されると思います。（男性 50 代）
- ・女性は肉体労働が出来ないので、男女平等というのは事務だけです。労働条件が違う時は男性を尊重すべき、育児は女性を尊重すべきです。（女性 60 代）
- ・性別に関係なく、お互いの特性を活かした役割分担、家庭運営、社会参加、個人の尊厳を認め合える社会になってほしい。（女性 70 歳以上）

## 6 女性の積極的な登用、女性の意識向上（主な意見抜粋）

- ・管理職にも登用され職場でも女性の割合は増えている。（男性 50 代）
- ・まだまだ男女間には格差があるのではないかと感じます。具体的には、女性の社会進出割合がまだ少ないように感じるためです。（男性 60 代）
- ・男女平等は浸透してきていると思いますが、無理して女性起用しても企業にとってはマイナスになります。まずは平等に教育する方針が重要だと思います（上に立つ人に男女は関係ないです）。大企業はそうなっていると思いますが、中小企業は全然です。どちらかという企業格差ではないでしょうか。時間もお金も余裕がありません。中小企業としては無償の教育の場を増してもらいたいです。考え方も古いです。（男性 60 代）
- ・大型のトレーラー運転手に女性を見かける事があり、活躍できる社会になってきている。女性の警察官・消防隊員など見かけると応援したいと思う。（女性 70 歳以上）

## 7 雇用の場における男女の平等（主な意見抜粋）

- ・就職した頃は、女性はお茶くみ、事務に庶務が定番であったが現在は改善されてきたように思う。（男性 50 代）

## IV 資料

# 令和7年度筑西市男女共同参画に関する市民意識調査調査票

## ● 筑西市男女共同参画に関する市民意識調査 ●

市民の皆様には、日頃より市政にご理解とご協力いただきありがとうございます。  
本市では、平成23年に「男女共同参画都市宣言」を行い、その後、令和2年に策定した「第2次筑西市男女共同参画基本計画」に基づきながら、「性別や世代にかかわらず誰もが活躍できるジェンダー平等の実現」を目指して取組を推進してきました。この第2次計画が令和8年3月に計画期間終了を迎えることから、現在、次期計画の策定に向けた準備を進めております。

つきましては、本市にお住まいの18歳以上の方から無作為に抽出した2,000人を対象にアンケート調査を実施し、ご意見を伺い、よりよい計画づくりのための基礎資料とさせていただきます。

なお、調査結果については統計的に処理し、取組の推進の目的以外には一切使用いたしません。ご多忙のところ恐れ入りますが、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

調査へのご協力の  
お願いです



令和7年12月 筑西市

「男女共同参画」とは、性別に関係なく、だれもが自分の能力や個性を發揮して活躍できるようにすることです。また、このような社会のことを「男女共同参画社会」と言います。この考え方は、学校での教育や家庭での家事・育児、働き方や地域での役割など、日常生活のあらゆる場面に関わっています。

### ご回答に当たって

#### 1 回答方法（どちらかを選択）

##### A) 紙の調査票（本調査票）による回答（郵送回答）

- 直接、調査票にご記入いただき、同封している返信用封筒に入れてポストに投函してください。
- 記入いただく際は、黒のボールペン又は濃い鉛筆でお願いします。

##### B) インターネットによる回答（所要時間：約10～15分）

- パソコン、タブレット、スマートフォンで下記のURL又は、右の二次元コードからアクセスをお願いします。

URL：<https://enquete.cc/q/chikuseidanjo>



#### 2 注意点

- ご回答は**1人1回限り**、**宛名のご本人**がお答えください。ご記入が難しい場合は、ご家族の方などが、ご本人の意思を確認しながらご記入ください。
- 当てはまる番号を選択いただくか、文言を記入してください。1つだけ選ぶ質問と複数選ぶ質問があります。「その他」を選んだ場合は、具体的内容を記入ください。

#### 3 締切日

- 返送または回答は、令和7年**12月25日（木）**までをお願いします。  
(郵便ポストに投函していただく場合、切手は不要です。)

#### 【問い合わせ先】

筑西市 市民協働課（アルテリオ2階） 電話：0296-23-1600（月曜休）

● あらゆる分野における男女共同参画について ●

**問1** あなたは次の8つの分野において、男女の地位・立場は平等になっていると思いますか。(それぞれについて○は1つ)

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない
(1) 家庭生活の場(家事・育児など)	1	2	3	4	5	6
(2) 職場	1	2	3	4	5	6
(3) 学校教育の場	1	2	3	4	5	6
(4) 政治の場	1	2	3	4	5	6
(5) 地域活動の場(町内会・自治会等)	1	2	3	4	5	6
(6) 社会全体	1	2	3	4	5	6
(7) 社会通念・習慣・しきたりなど	1	2	3	4	5	6
(8) 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6

**問2** 「男は仕事、女は家庭」という考え方がありますが、あなたはこの考え方をどう思いますか。(○は1つ)

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| 1 同感する          | 2 どちらかといえば同感する |
| 3 どちらかといえば同感しない | 4 同感しない        |
| 5 わからない         |                |

**問3** 問2で「1 同感する～4 同感しない」を選んだ方に伺います。その理由はなぜですか。(○はいくつでも)

①【1 同感する・2 どちらかといえば同感する】を選んだ方

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから                 |
| 2 自分の両親も役割分担をしていたから                   |
| 3 男性が働いた方が収入を多く得られるから                 |
| 4 女性が家庭を守った方が、こどもの成長にとって良いと思うから       |
| 5 育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは大変だと思うから |

②【3 どちらかといえば同感しない・4 同感しない】を選んだ方

- |                                       |
|---------------------------------------|
| 1 男女平等に反すると思うから                       |
| 2 自分の両親も外で働いていたから                     |
| 3 どちらも働いた方が収入を多く得られるから                |
| 4 女性が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いと思うから    |
| 5 育児・介護・家事と両立しながら、女性が働き続けることは可能だと思うから |
| 6 固定的役割分担を押し付けるべきでないから                |

● ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)について ●

**問4** 1日のうちで、あなたが次のことに費やす時間は平均してどのくらいですか。(それぞれについて○は1つ)

(1) 仕事(在宅勤務・通勤時間含む)

1 3時間未満	2 3～5時間未満	3 5～7時間未満	4 7～9時間未満
5 9～11時間未満	6 11時間以上	7 なし	

(2) 家事(育児・介護を含む)

1 1時間未満	2 1～2時間未満	3 2～3時間未満	4 3～4時間未満
5 4～5時間未満	6 5時間以上	7 なし	

(3) 趣味等の自分の時間

1 1時間未満	2 1～2時間未満	3 2～3時間未満	4 3～4時間未満
5 4～5時間未満	6 5時間以上	7 なし	

**問5** 配偶者(パートナー・事実婚含む)のいる方に伺います。夫婦で家事の分担はどのようにしていますか。全体を100パーセント(%)としてお答えください。(枠に数字を記入)

夫(分担割合)	%	妻(分担割合)	%
---------	---	---------	---

**問6** 配偶者(パートナー・事実婚含む)のいる方に伺います。あなたのご家庭では、次の項目は主に誰が分担していますか。(それぞれについて○は1つ)

	夫	妻	夫婦共に	家族全員	その他の人 (家事代行サービス含む)
* (6)(7)は対象者がいる方のみ回答					
(1) 食事を作る	1	2	3	4	5
(2) 食事の後片付け	1	2	3	4	5
(3) 洗濯	1	2	3	4	5
(4) 掃除	1	2	3	4	5
(5) ごみ出し	1	2	3	4	5
(6) 子どもの教育・世話(子どもがいる方のみ)	1	2	3	4	5
(7) 病人・高齢者の介護(対象者がいる方のみ)	1	2	3	4	5
(8) 家計費の管理	1	2	3	4	5
(9) 家庭において全体的に実権を握っている人	1	2	3	4	5

**問7** 現在働いている方に伺います。仕事と家庭生活を両立させる上での悩み、問題は何ですか。次の中から選んでください。(〇はいくつでも)

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 家事を十分やる時間がない          | 2 仕事の負担が大きく体力的、精神的に大変である  |
| 3 地域の子育て支援が不十分である       | 4 配偶者をはじめ家族の理解・協力が十分得られない |
| 5 家庭生活に対し職場の配慮や理解が十分でない | 6 自分自身の趣味や生きがいを考えるゆとりがない  |
| 7 子どもと過ごせる時間が足りない       | 8 夫婦で過ごせる時間が足りない          |
| 9 介護や看護が大変である           | 10 仕事に十分打ち込めない            |
| 11 労働時間が長い              | 12 休暇が取得しづらい              |
| 13 特に悩みや問題はない           | 14 その他( )                 |

**問8** 「仕事」、「家庭生活(家事・育児・介護・看護など)」、「地域・個人の生活(趣味含む)」の状況について、理想はどうですか。また、実際はどうですか。(現在、仕事を行っていない方は今後のお考えをお答えください。)(それぞれについて〇は1つ)

	(1) 理想	(2) 実際
1 「仕事」に専念	1	1
2 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先	2	2
3 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を両立	3	3
4 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先	4	4
5 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念	5	5
6 わからない	6	6

**問9** 男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- |  |
|--|
| 1 家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力をすること            |
| 2 男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること             |
| 3 男女が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと           |
| 4 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと             |
| 5 男性の仕事中心の考え方を改めること                          |
| 6 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間作りをすすめること            |
| 7 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関心を高めるよう普及啓発や情報提供を行うこと |
| 8 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること  |
| 9 労働時間短縮や休暇制度を普及させること                        |
| 10 その他(具体的に: )                               |



**問 14** 仕事へのかかり方について、あなたはどのようにお考えですか。(それぞれについて○は1つ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
(1) 女性は結婚するまでは、仕事を続けた方がよい	1	2	3	4	5
(2) 女性は子どもができるまでは、仕事を続けた方がよい	1	2	3	4	5
(3) 女性は子どもが生まれてもずっと仕事を続ける方がよい	1	2	3	4	5
(4) 女性は仕事を一生涯持たない方がよい	1	2	3	4	5
(5) 女性は出産や子育てで一時的に仕事をやめても その時期が過ぎたら再び仕事を持つ方がよい	1	2	3	4	5
(6) 男性は家庭を支えるため、仕事中心の生活をした方がよい	1	2	3	4	5
(7) 男女を問わずフルタイムの仕事よりパートの方がよい	1	2	3	4	5
(8) 男女を問わず家庭・家族と仕事のバランスをうまく とりながら生活した方がよい	1	2	3	4	5
(9) 男女を問わず、仕事よりも家庭での時間を大切にされた方がよい	1	2	3	4	5

**問 15** あなたは、女性が出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(○はいくつでも)

- |                                    |                        |
|------------------------------------|------------------------|
| 1 子どもを預けられる環境の整備                   | 2 家事・育児・介護支援サービスの充実    |
| 3 配偶者以外の家族の家事・育児・介護などへの参加          | 4 男性と女性の公平な家事・育児・介護の分担 |
| 5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革           | 6 働き続けることへの女性自身の意識改革   |
| 7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革           | 8 職場での育児・介護との両立支援制度の充実 |
| 9 短時間勤務制度や在宅勤務制度などの導入              |                        |
| 10 育児や介護による仕事への制約を理由とした不利益な取り扱いの禁止 |                        |
| 11 特になし                            | 12 わからない               |
| 13 その他(具体的に: _____)                |                        |

● 地域活動について ●

**問 16** あなたは現在、次のような地域活動をしていますか。(○はいくつでも)

- 1 町内会・自治会で活動(子ども会などを含む)
- 2 学校等で活動(学校ボランティアや PTA、クラブ活動など)
- 3 団体で活動(ボランティア、趣味やスポーツ、学習、女性会、高齢者クラブなど)
- 4 個人で教室や講座に参加
- 5 自主防災組織で活動
- 6 活動をしていない
- 7 その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

**問 17** 問16で「1～5」活動していると回答した方に伺います。活動のなかで、役割分担などについて感じていることはありますか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

- 1 男女とも対等に様々な役割を担っている
- 2 参加する性別にかたよりのある
- 3 女性が役職に就きたがらない
- 4 団体の会長には男性が就き、女性は補助的役職に就く傾向がある
- 5 活動の準備や片付けなどは女性が行うことが多い
- 6 特にない
- 7 その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

**問 18** 問16で「6. 活動していない」と回答した方に伺います。活動をしていない理由は何ですか。次の中から選んでください。(○はいくつでも)

- |                 |               |
|-----------------|---------------|
| 1 家事・育児が忙しい     | 2 仕事が忙しい      |
| 3 介護に忙しい        | 4 人間関係がわずらわしい |
| 5 高齢である         | 6 家族の理解が得られない |
| 7 適した活動がみつからない  | 8 関心がない       |
| 9 面倒くさい         | 10 わからない      |
| 11 その他( _____ ) |               |



**問22** 女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などについて、見聞きしたことがあるものはありますか。(○はい/×いいえ)

- |                                   |                          |
|-----------------------------------|--------------------------|
| 1 DV相談ナビ#8008・はれれば                | 2 DV相談プラス                |
| 3 性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センター#8891 |                          |
| 4 性暴力相談に関するSNS相談、キュアタイム           |                          |
| 5 性犯罪被害相談電話に係る全国共通番号#8103・ハートさん   |                          |
| 6 女性専用相談電話(茨城県警察本部)               | 7 女性のためのこころのオンライン相談(茨城県) |
| 8 茨城県女性相談センター(配偶者暴力相談支援センター)      |                          |
| 9 法テラス茨城                          | 10 ひきこもり地域支援センター         |
| 11 女性の人権ホットライン                    | 12 自殺対策相談窓口              |
| 13 こころの健康相談統一ダイヤル                 | 14 ハラスメント悩み相談室           |
| 15 警察相談専用電話#9110                  | 16 男女共同参画センター・女性センター     |
| 17 筑西市女性相談                        | 18 見たり聞いたりした言葉はない        |

**問23** あなたは、現在、偏見や差別などの人権侵害により、LGBTQ(性的マイノリティ)の方が生活しづらい社会だと思いますか。(○は1つ)

- |                  |                |
|------------------|----------------|
| 1 そう思う           | 2 どちらかといえばそう思う |
| 3 どちらかといえばそう思わない | 4 そう思わない       |

※LGBTQ(性的マイノリティ)とは……性的指向や性自認が多様な人々の総称のこと。レズビアン(女性同性愛者)、ゲイ(男性同性愛者)、バイセクシュアル(両性愛者)、トランスジェンダー(出生時の性別と自認が異なる人)、クィア/クエスチョニング(性的指向・性自認が特定の枠に当てはまらない人)を含んでいます。

**問24** LGBTQ(性的マイノリティ)の方々の人権を守るために、どのような方策が必要だと思いますか。(○はい/×いいえ)

- |                                      |
|--------------------------------------|
| 1 正しい知識の習得と、理解を深めるための教育をこどもの頃から学校が行う |
| 2 正しい知識の習得と、理解を深めるための啓発活動を行政が行う      |
| 3 不当な差別を受けないよう法律や制度を整備する             |
| 4 いばらきパートナーシップ宣誓制度の周知                |
| 5 自治体パートナーシップ宣誓制度の実施                 |
| 6 自治体ファミリーシップ宣誓制度の実施                 |
| 7 自治体相談窓口の設置                         |
| 8 その他(具体的に: _____)                   |
| 9 特に必要なことはない                         |

※パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度とは……パートナーシップ制度は、自治体が同性のカップルを「結婚に相当する関係」と認める制度のこと。ファミリーシップ制度は、その子どもも家族として認める制度。

● 男女共同参画社会づくりに向けた筑西市の施策について ●

**問25** 平時の防災体制や災害発生後の対応に男女共同参画の視点が必要だと指摘されています。災害に備えるため、今後どのような取組が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 1 地域で防災活動や訓練に取り組む
- 2 市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす
- 3 女性消防団員の育成・支援
- 4 避難所などの運営に女性が参加しやすい体制をつくる
- 5 防災や災害現場で活動する女性を育成する
- 6 日ごろから性別や立場に関係なくコミュニケーションをとれる地域づくりを進める
- 7 女性、乳幼児、性的マイノリティなどの視点に基づく備蓄品等を準備する
- 8 性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境・物資・安全等)について知識を普及する
- 9 あらゆる視点で避難所マニュアルをつくり、すべてのひとが安全に過ごせるようにする
- 10 その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )
- 11 わからない

**問26** あなたは、筑西市の施策に女性の意見が反映されていると思いますか。(○は1つ)

- 1 十分反映されている      2 ある程度反映されている      3 あまり反映されていない
- 4 ぜんぜん反映されていない      5 わからない

**問27** 以下の言葉のうち、あなたが見たり聞いたりしたことがあるものを全てあげてください。(○はいくつでも)

- |                         |                           |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 女子差別撤廃条約              | 2 男女共同参画社会基本法             |
| 3 男女雇用機会均等法             | 4 育児・介護休業法                |
| 5 配偶者暴力防止法(DV防止法)       | 6 女性活躍推進法                 |
| 7 ストーカー規制法              | 8 筑西市男女共同参画基本計画           |
| 9 筑西市男女共同参画都市宣言         | 10 筑西市男女共同参画推進パートナー       |
| 11 固定的性別役割分担            | 12 アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み) |
| 13 ハラスメント               | 14 ジェンダー(文化的・社会的につくられた性差) |
| 15 DV・デートDV             | 16 ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和) |
| 17 ダイバーシティ&インクルージョン     | 18 パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度  |
| 19 LGBTQ(性的マイノリティ)      | 20 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ       |
| 21 ポジティブ・アクション(積極的改善措置) | 22 クォータ制                  |
| 23 上記の中で見たり聞いたりした言葉はない  |                           |

問28

男女共同参画社会を実現していくために、筑西市はどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。特に重要だと思われるものを3つ選んでください。(○は3つまで)

- 1 男女共同参画の視点に立った社会制度・慣習等の見直し
- 2 審議会など政策や方針決定の場への女性の積極的登用
- 3 行政機関における女性管理職の積極的登用
- 4 男女共同参画全般についての意識啓発、広報活動の充実
- 5 配偶者等からの暴力を根絶するための相談の充実
- 6 DVや生活困窮などの困難な状況におかれている女性のための支援の充実
- 7 性の多様性に対する理解促進と性的マイノリティへの支援の充実
- 8 男女が共に働きやすい就業環境の整備
- 9 男性の家事・育児参画を支える就業環境の整備(イクボス育成や育休取得の支援など)
- 10 男女共同参画の視点に立った教育や学習の充実
- 11 各種保育や介護サービスの充実など仕事と家庭の両立支援
- 12 職場や地域、団体で活躍できる女性リーダーの育成
- 13 農業、商工サービス業の家族従事者の地位の向上
- 14 男女共同参画の視点を踏まえた防災体制の整備
- 15 女性の再就職や起業を支援する施策の充実
- 16 男性も対象とした各種講座
- 17 女性が少ない分野(研究者、理系、土木、農業等)への女性の進出支援
- 18 その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )



●用語解説● (問 27 の用語の内、いくつかの用語を紹介します)

**ハラスメント**……嫌がらせやいじめにより、相手を不快な気持ちにさせ、精神的・身体的苦痛を与え、人格や尊厳を侵害する行為のこと。様々なハラスメント(セクシュアル・ハラスメント、パワーハラスメント、マタニティ・ハラスメント等)があります。

**アンコンシャス・バイアス(無意識の思い込み)**……無意識に持っている、偏見や思い込みのこと。経験則によって、気づかないうちに身につけたもので、本人が意識しないところで、行動や意思決定に影響を与えることもあります。

**ダイバーシティ&インクルージョン**……直訳すると多様性を意味し、集団において年齢、性別、人種、宗教、趣味嗜好などさまざまな属性の人が集まった状態のこと。

**リプロダクティブ・ヘルス/ライツ**……性や身体の事を自分で決め、守ることができる権利のこと。例えば、結婚するかどうか、子どもを持つか等を選択する自由があります。

**ポジティブ・アクション(積極的改善措置)**……社会的・構造的な差別により男女間に生じている格差を改善するため、男女のいずれか一方に対し、活動への参加機会などを積極的に提供する暫定的な措置のこと。

**クォータ制**……人種、民族、宗教、性別などを基準として、議員や閣僚などの一定数を、社会的・構造的に現在不利益を受けている者に割り当てる制度のこと。ポジティブ・アクションの一つです。

● あなたご自身のことについて ●

それぞれあてはまるもの1つを選択してください。(それぞれ〇は1つ)

F1 性別	1 男性	2 女性	3 その他	
※戸籍上の区別とは別にご自身の主観によりご記入ください。				
F2 年齢(満)	1 18～19歳	2 20～24歳	3 25～29歳	4 30～34歳
	5 35～39歳	6 40～44歳	7 45～49歳	8 50～54歳
	9 55～59歳	10 60～64歳	11 65～69歳	12 70歳以上
F3 婚姻等	1 既婚(配偶者有) 2 既婚(離・死別) 3 未婚			
⇒F3①へ				
※事実婚も含んで回答ください。※1を選んだ方は、F3①へ。それ以外はF4へ。				
F3① 家庭状況	1 共働き家庭(パートタイム・内職含む)		2 夫のみ就業家庭	
	3 妻のみ就業家庭		4 その他( )	
※F3で「1 既婚(配偶者有)」を選んだ方のみ回答ください。				
F4 就業等	1 正社員	2 契約社員・派遣社員	3 内職	
	4 農業、自営業	5 経営者(独立・自由業)	6 パート・アルバイト	
	7 学生	8 専業主婦・主夫	9 無職	
	10 その他( )			
※休職中の場合、元の就業状況を回答ください。				

● 自由記述 ●

\*最後に男女平等や男女共同参画などについて普段感じていること、市へのご意見、ご要望等がございましたら、自由にご記入ください。

アンケートにご協力ありがとうございました。

返送及び回答は、令和7年12月25日(木)までをお願いします。



令和7年度筑西市男女共同参画に関する市民意識調査  
結果報告書

令和8年3月

筑西市 市民協働課  
〒308-0031  
茨城県筑西市丙372番地 アルテリオ2階  
電話：0296-23-1600  
FAX：0296-23-1602